り愈々操業を開始するに至つた。今後は完全に同社製品を以つて自給する事が出來る。（年産35,000瓲）

尙ほ滿洲に於ける各種化學工業の勃興は必然的に曹達の需要を喚起すべく滿曹が倍產の具體的計畫設備をなしつゝあるのも當然の事であつて、滿曹の外撫順に於ける滿洲輕金屬會社は電解苛性曹達工場（能力年產 1,200瓲）を建設中であり、奉天の大和染料分工場に於ても同樣電解苛性曹達工場（年產能力250瓲、將來相當量まで擴大の豫定）の操業を開始した。又最近開原に於ける大豆桿パルプ會社も自家用苛性曹達及鹽素の必要により年產 5,000瓲の電解工場を建設する豫定であつて、斯くして本年度を以つて滿洲に於ける曹達の需要關係は一大エポークを劃した。

曹達の需給量及積出國別による輸入表は次の通である。

（表 1） 滿洲に於ける曹達輸入品（需給） （單位瓲）

	曹達灰	苛性曹達	曹達灰換算	合計
昭和 5	10,116	1,251	1,651	**11,767**
6	7,343	649	857	**8,200**
7	6,483	632	834	**7,317**
8	13,971	,664	3,516	**17,487**
9	15,309	1,218	1,608	**16,916**
10	16,248	4,034	5,648	**21,896**
11	19,852	2,447	3,426	**23,278**

〔苛性曹達 1 瓲は曹達灰 1.4瓲と換算す〕

（表 2） 積出國別による曹達輸入表 （昭和11年度）（單位瓲）

國名	曹達灰	割合	苛性曹達	割合
日本	11,570	58%	1,493	51%
朝鮮	14	—	2	—
支那	1,844	9.3%	—	—
英國	6,416	32%	897	37%
米國	8	—	55	—
合計	**19,852**	—	**2,447**	—

2. 用　　途

曹達灰は苛性曹達の原料、硝子、染織石鹼、洗濯曹達等が主なる用途であるが、滿洲支那に於ては饅頭のフカシ粉として消費せられる量が最大である。滿洲に於ける曹達灰の用途を數量順に示すと、麵麭の製造（35%）板硝子(30%)其の他硝子（5%）滿化（17%）アミノ酸、琺瑯、製紙、羊毛洗滌、染織、製粉、礦油精製、石鹼、鑛石除去用等となる。

苛性曹達の用途は人絹工業に消費せられるもの最も多く、之れに次で染料、石鹼、製紙、化學藥品等として使用せられるものが主なるものである。滿洲に於ける用途は染織工業（30%）撫順オイルセール、味の素、製紙、染料、礦物精製、石鹼、植物油精製、藥品製造、洗濯用等が擧げられる。

（三） 滿洲曹達股份有限公司

1. 沿　　革

化學工業の基本をなす曹達工業興隆の如何は直に以つて其の國產業の將來を卜するに足るもので有り、本工業に就いては既に大正12年關東廳は州鹽の利用策として斯業の有望なのに着目し、今井事務官をして海外に出張せしめ調査を行ひ、之れと前後して滿鐵に於ても九大教授西川博士を招聘して之れが調査立案を行はしめたが、社議決定せず中止となつた。爾來幾多の迂餘曲折を經て滿洲國の建國は漸く曹達工業設立の機運を熟成し、遂に昭和11年5月滿洲國法人準特殊會社として其の創立を見るに至つた。

2. 內　　容

本　　社　滿洲國新京

資 本 金　800萬圓　拂込400萬圓

出　　資　旭硝子（$\frac{1}{8}$）、滿鐵（$\frac{1}{4}$）、滿洲化學（$\frac{1}{4}$）、昌光硝子（$\frac{1}{8}$）

事　　業　曹達灰、曹達鹽類及副產物の製造販賣並に附帶事業

第1回拂込金を以つて先ず日產100瓲、年產35,000瓲の曹達灰を製造す。目下日產200瓲、年產70,000瓲に擴張中である。

製 造 法　アンモニアソーダ法（ソルベー法）

工 場 地　大連市甘井子

主要原料　鹽—滿洲國鹽及關東州鹽並に自家鹽田の鹽及鹹水
石灰石—甘井子產昭和製鋼所より分讓
コークス—滿洲化學工業會社より供給を受く
アンモニアー　〃

尙ほ工場所在地が關東州內にあり滿洲國鹽を使用するが故に、滿洲國鹽に限り關東州輸入稅を※輕減し、又製品を滿洲國に輸入する場合は輸入稅を徵せず※轉口稅の適用を受くる特典を有す。

〔備考〕關東州食鹽輸入稅 1.50圓/石≒13圓/瓲を 0.5圓に輕減
滿洲國曹達灰輸入稅及附加稅　26.0圓/瓲
※滿洲國　〃　轉口稅　6.0圓/瓲

3. 市　　價

本邦に於ける曹達工業は久しく英國ブラナモンド會社の制肘を受け本工業が基礎確立し略々自給自足の域に達せるは最近の事に屬する。從つて曹達の市價は極めて激しい變動を見せ、大戰當時は曹達灰1瓲實に380圓に高騰した事がある。大正12年には稍平常に歸し120圓、10年後半當時操業を開始せるアフリカマガヂ會社と英國ブ社が東洋市場を爭ふた結果70圓に、同11年には遂に60圓を割る大暴落を來す等、本邦業者は致命的打擊を受たのである。昭和の初め頃より稍々發展の曙光が認められ、恰もよし日本政府も曹達工業助成を決意し、昭和4年より4箇年間に亘り助成金を交附する等のタイムリヒツトと滿洲事變を契機とする一般化學工業急展の潮に乘り驚異的の發達をなして、流石のブ社をして旗を捲いて退陣を餘儀なくせしめた。この曹達工業の確立に連れ市價は一應の安定を見たと云ふべきである。生產者及消費者の共に滿足なるべき價格は筆者の直感よりすれば、曹達灰1瓲70圓、苛性曹達140圓程度なれば可なりと思はれる。

4. 生　產　費

滿洲曹達會社の生產費は本邦同業者に比し可成り割安である。卽ち原料鹽に惠れたる上に石灰、石炭、コークス、アンモニア等の各原料も安く、而も交通の便があり東洋に於ける曹達企業地としては北支塘沽に所在する永利化學工業公司と其の最適を爭ふものなるべし。今簡單に內地同業者と數字的に比較すれ

ば卽ち原料鹽瓲8圓と見るも、本邦に於ける鹽價は平均少なくとも12圓であるから、瓲4圓の相異となり、曹達灰1瓲に換算せば4×1.8=7.2圓の差が生する。而も滿曹は金州の自家鹽田より鹹水輸送の計畫を具體化しつゝあり、然る時は原料鹽 1瓲4～4.5圓迄低下すると謂はれてゐるから曹達灰1瓲に對し實に1.5圓 近くの生產費を引下げる（原料鹽のみにて）事が可能となる。石灰石は80錢にて購入せられるが、內地企業者の大部は交通の便を第1とする爲石灰には惠れず瓲當り2～3圓見當と見られて居る。この外コークス、アンモニア等も隣接滿化工場より供給を受くる便宜が與へられ極めて有利な條件の下に置かれて居る。

曹達灰製造原料使用表

名稱	項目	製品1瓲當り使用量(瓲)
原料	食鹽	1.80
	石灰石	1.30
	コークス	0.14
	アンモニア	0.005
	石炭（煅燒用）	0.26

（四）滿洲輕金屬會社附屬電解苛性曹達工場

所在地　撫順郊外　小瓢屯
製造法　電解曹達　水銀式（大阪曹達法）
事業　苛性曹達　年產 1,200瓲（自家消費）
合成鹽酸　石炭液化工場に供給、漂白粉　市販
原料　滿洲國鹽　18.00圓位？
電力　發電所渡し 0.55錢1キロ

工場目下建設中にして昭和13年度より操業の豫定。

（五）大和染料會社奉天分工場

所在地　奉天大東邊門外　（元兵工廠鹽素廠跡）

事　　業　電解苛性曹達　年産250瓲
　　合成鹽酸、鹽素、漂白粉
　　但し將來は約 2,000瓲位まで增產豫定なりと謂ふ
製 造 法　シーメンス、水平隔膜法
原 料 鹽　滿洲國鹽

本工場は元兵工廠內鹽素廠の建物及び殘留設備を無償にて引繼補修を加へたるもので昭和12年初夏操業を開始せり。

(六) 滿洲大豆桿パルプ電解工場

所 在 地　開原
事　　業　附屬電解苛性曹達（年產 5,000瓲）自家消費に當つ。
　　鹽素（自家消費）
製 造 法　大阪曹達水銀法
原 料 鹽　滿洲國鹽
電　　力　1キロ6厘程度にて電業より供給豫定

本工場は溶解用苛性曹達及漂白に使用する鹽素自給の目的により設立せられたるもので電解工場の經營は滿洲曹達會社に委托せられ操業開始は昭和13年頃とりであらう。

第十六節 板　硝　子

(一) 概　　說

滿洲及其の附近に於ける板硝子工業は大正11年秦皇島に於て開灤財閥に依り設立せられたる耀華硝子を以て嚆矢とし、次いで大正14年大連市に滿鐵旭硝子共同出資の下に昌光硝子會社の設立を見た。卽ち現在滿洲に於ける板硝子工業は前述せる如く此の2社に依り支配されてゐる。而かも兩社は一は北支河北省に、一は關東州にと、其の國外に在り、嚴格な意味に於ては滿洲國內には一の板硝子工場もないと云ふことが出來る。

耀華硝子に就いては北支に於ける板硝子工業に於て後述することゝして先づ昌光硝子に就いて其の概要を示さん。

大正8年以來滿鐵窯業試驗工場に於て硝子製造に就ての原料、燃料等の研究を重ねられ、其の結果大正13年窯業試驗工場の一事業として、大連市沙河崗に敷地24,000坪を卜し工場の設立も14年の初頭には略完成の域に達した。此の時に偶々內地に於て旭硝子會社が20年の長き經驗の結果技術的に外國品に劣らない製品を作る自信を有し、經濟的にはラツバース式の特許權を有し、此の方法が經濟的にも最も有利であることを實蹟の上で證明してゐるので、秦皇島の耀華（外人資本）に依る滿洲市場獨專を排し、進んで邦人の手に依り斯業を滿洲に確立し外國品を徹底的に驅逐せんとする主旨より、同社と提携することを得策なりとして玆に滿鐵、旭硝子の協定が成立し、大正14年4月17日昌光硝子會社が生れたのである。

同社はラツバース式硝子圓筒引上機8機を備へ、生產能力年30萬箱を算し、滿洲市場より白耳義品を驅逐し、更に進んで支那本土、南洋等に其の市場を求め特に支那本土に於ては日貨排斥其の他の事情に阻まれながらも耀華、白耳義品と熾烈なる商戰を演じつつ、着々と其の地盤を築くに至つた。

次いで昭和6年工場設備をフールコール式に改造し、爾後好成績を續けつゝ今日に至つてゐる。

（二） 昌光硝子會社

1. 資 本 金　300 萬圓
2. 工場設備　フールコール式板硝子引上機９機
3. 生産能力　年産30萬箱、(1箱100平方呎)
4. 製品種類　A. 厚味に依る種別、2粍厚、3" " 、4" " 、5" " 、6" " 、
   B. 品種に依る種別、透明、摺、結霜等の加工品
5. 從 業 員　邦人約50名、滿人約 400 名、他に臨時工若干名
6. 燃　　料　發生爐ガス—石炭使用量（撫順炭）年額約 30,000瓲
7. 原　　料

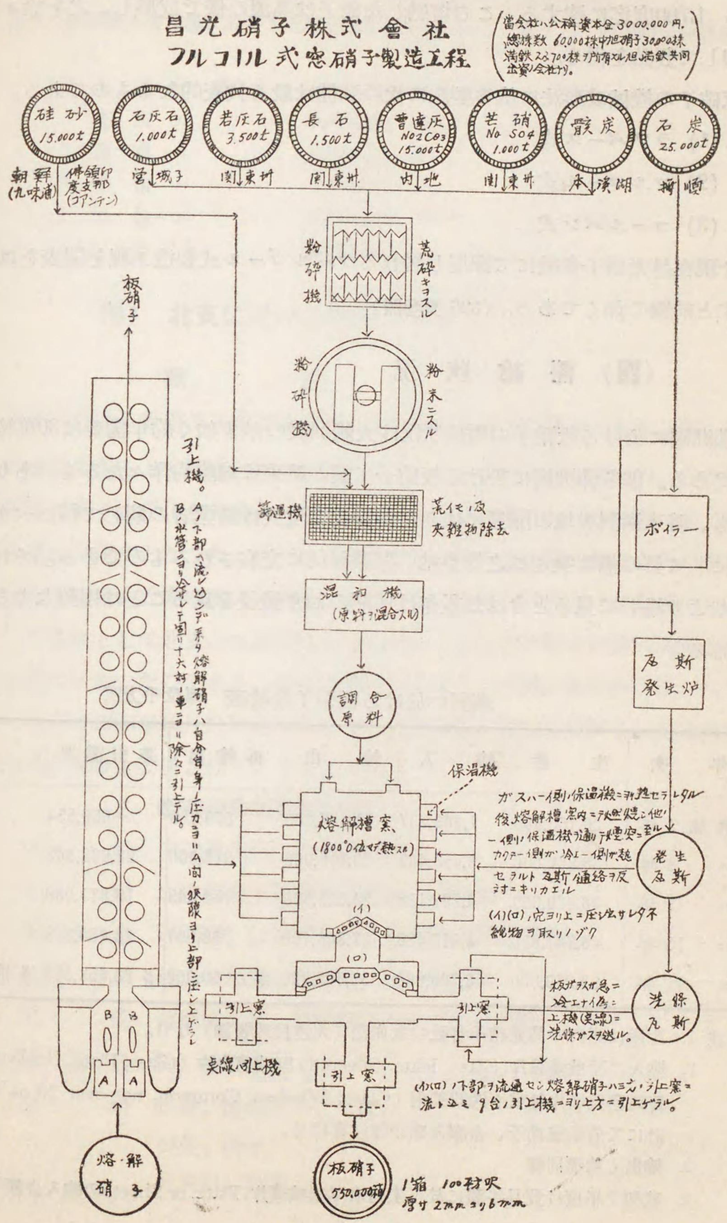
硅	砂	朝鮮及び佛領印度支那
石 灰	石	關東州營城子
苦 灰	石	〃 甘井子
長	石	〃 普蘭店
曹 達	灰	內地、旭硝子社
芒	硝	內地及關東州

（三） 原料並製造方法

硝子製品の用途は極めて廣汎で、窓硝子、コツプ、電球、瓶類の日用品から光學器械、理化學研究器具、醫療器械類に至る迄現代生活の凡ゆる方面に及んでゐる。

硝子製造に要する原料は珪酸（珪石、砂岩、珪砂）、曹達（曹達灰、芒硝、炭酸化里）、石灰（石灰石、硝石灰）の三を主體とし、其の他長石、鉛丹、酸化亞鉛、螢石、硝石、褐石等が用ひられ、着色劑として金、銅、（紅色）クロム（綠色）コバルト（青色）骨灰（乳色）木炭、骸炭（茶色）等が使用される。これ等原料が組合せられ、種々の目的に適した品質を持つ各種の硝子が造られる。

次に製造方法は各原料を粉細し混合機に架け、それを耐火粘土にて出來た熔解爐にて熔融する。其の溫度は製品の目的に應じた原料の調合に依り 800度



から 1,700度迄に達する。この熔融した硝子は高溫の儘で成形し、之を徐々に冷却して製品を得る。

窓硝子の機械成形法に依る製法に次の3種は最も代表的なるものである。

(1) ラツバース式

(2) フルコール式

(3) コールバン式

今現在昌光硝子會社にて採用し居れるフールコール式製造工程を圖表を以て示すと前圖の如くである。(326 頁參照)

(四) 需 給 狀 況

滿洲國に於ける板硝子の需給狀況は大體別表の示す如く約年需要は30萬箱程度である。卽ち滿洲國に於ける板硝子工業の將來は前途尙洋々たるものありと雖も、將來滿洲奥地の開發に依り之が需要の增大は斯業者の期して待つべきものにして眞の需要喚起は之等奥地の開發如何に左右されるものである。されど現狀より推して見るときは玆數年は所期の如き發展を見ることは困難なりと思はるる。

滿洲に於ける板硝子需給表　單位平方呎

年次	生産	輸入	輸出	再輸出	差引需要	
昭和7年	20,753,900	1,249,337	21,037,300	309,383	656,554	
〃 8年	38,600,000	4,454,443	20,115,900	315,000	22,623,543	
〃 9年	36,820,000	4,262,118	24,028,500	182,549	16,871,069	
〃 10年	49,747,000	4,616,426	27,848,100	56,007	26,459,319	
〃 11年	53,076,000	6,290,009	30,862,200	※ 50,000	※ 28,453,859	※推定

註 1. 生産は州內の昌光硝子會社の生産高（大連民政署調）なり。

2. 輸入は厚玻璃鏡片(Glass, Plate, Silvered) 厚玻璃白片 (Glass, Plate, Unsilvered) 普通窗玻璃片每重不過20英兩 (Glass, Window, Common, not over 20 oz.)の合計にて着色窓硝子、金網入硝子等は省けり。

3. 輸出も前項同樣

4. 昭和7年度は貿易年報に於て未列名厚薄玻璃片(Plate or Sheet)の輸入金額221千圓と記載しあるも數量不明なるに付輸入數量中には含まれ居らず。

參考　滿洲國主要市場に於ける大體の需要量を次の如く推定す。（昌光硝子杉森氏に依る）

1. 大連市場	5,000,000平方呎	(年額)
2. 奉天 〃	9,000,000	〃
3. 新京 〃	5,000,000	〃
4. 哈市 〃	5,000,000	〃
5. 其他 〃	6,000,000	〃
計	30,000,000	〃

(附) 北支に於ける板硝子工業

1. 概　　說

支那に於ける板硝子工業は由來北支秦皇島に於ける耀華硝子を以て唯一の獨占的特殊企業として開灤財閥の後援を得て著しき發展を爲し來つた。卽ち開灤鑛務局に依り企業化を目論み北支產業資本家と白耳義人技師の招聘に依り急速に具體化の運びとなつた。1922年（民國11年）資本金30萬元華白合併の形式で創設せられ漸次設備の擴大と增資とに依り資本金は 250萬元（全額拂込）となり、背後地として北支の大消費地帶を確保し、昌光硝子創立以前は滿洲の需要をも當社に依つたのである。滿洲事變後昌光硝子との間に競爭が行はれつつあつた矢先に1936年10月白耳義持株は日本（旭硝子）資本に買收され大連昌光硝子が其の經營を委任されることゝなつた。

2. 耀華機器玻璃製造公司

本　　社	天津英租界、中國銀行內
工　　場	北寧線秦皇島停車場附近、2,500坪
資本金	250萬元（內125萬元 12,500株旭硝子所有）
生　　產	能力65萬函、實生產、40～45萬函
設　　備	熔解爐2基、曳揚機フルコール式18機
從業員	約 1,000名
原　　料	硅砂、佛領コアラン島
	石英、唐山
	石灰石、唐山

曹達灰　從來永利製品を使用す
芒　硝　從來長蘆製品を使用す
石　炭　開灤炭（特殊契約値段）

3. 需給狀況

民國25年中に於ける全支板硝子總需要量は約80萬磅と推定せられ其の半數は耀華硝子の製品が占め自餘は大連昌光硝子の30萬函、歐洲品（白耳義品）10萬函なり。而して耀華の40萬函の仕向地は上海25萬磅、天津12萬函（北寧沿線唐山、山海關の6千函を含む）青島3萬函にして中北支に於ける需要を殆んど獨占のかたちで在る。

第十七節　パ　ル　プ

(一) 原　　料

1. 木　　材

(イ) 樹　　種

滿洲の森林は杉松類、紅松、落葉松等の針葉樹と濶葉樹に4大別される。概して針、濶混淆林で、しかも針葉樹中にも紅松と杉松が混林し又杉松類の主森木としても4種類の樹種がある。且全體として疎林が多い。

落葉松…(ダフリカ、カラマツ L. dahurica Turcz)…大興安嶺針葉樹の主林。
紅松…(主としてテウセンマツ Pinus Koraiensis Set Z)…針葉樹（落葉松を除く）中最も分布廣し。
杉松類……紅松に伴ひ之と混林す。杉松の主林木は

テウセンハリモミ（魚鱗松 Picea koraiensis Nakai
テウセンモミ（沙松、柏松、杉松、Abies holophylla Max.　} 最も多し
タウシラベ（臭松、Abies nephrolepsis, Max.)
エゾマツ（魚鱗松 Picea ajaensis, Fish.）

濶葉樹……全森林地帶に最も廣く分布し種類多きもパルプ用材としては蓄積量からみてカンバ、ドロノキ、ヤマナラシ、シナノキ、ニレ、カヘデ等が數へられる。

(ロ) 目下開發されんとしてゐる森林地帶

i) 豆滿江流域　(間島、安圖、撫松、濛江各縣)……東滿人絹
ii) 同　(間島、舊北鐵東部沿線半分、圖寧線方面)…東洋パルプ
iii) 松花江流域　(依蘭、方正、勃利、樺川、寧安地方)……滿洲パルプ
iv) 牡丹江流域　(大同林業區域、額穆、樺甸)……日滿パルプ

(ハ) 蓄積量と資材量

立木蓄積量（單位萬石）

		實業部調査　昭和10年	滿鐵經調々査 昭和10年
針濶	葉樹	530,032	389,417
	葉樹	799,999	527,299
	計	**1,330,031**	**916,716**

今滿鐵想定量を基として、其の原木年産可能量を推算するに次の如し。

滿洲森林の立木蓄積量と原木年産可能量 （想定推算、單位、萬石）

	杉松	紅松	落葉松	濶葉樹	計
立木蓄積量	57,531	86,294	245,592	527,299	916,716
得材量	14,382	21,574	61,398	73,821	171,175
資材年産可能量	208	312	1,032	1,497	3,049

備考 1） 得材量の算出

	伐採可能蓄積	造材歩止	得材率
針葉樹	64%	40%	25%
濶葉樹	44.5	30	14

2） 年産可能量の算出

得材量÷整理期間＝年産可能量

整理期間：杉松、紅松70年、落葉松60年、濶葉樹50年

上表は備考假定に基く計算によつたもので其の結果はパルプ適材たる杉松の年産可能量 208萬石（パルプとして年産約13萬噸）と云ふ小量であるが、此の備考假定數値の採り様により、年産可能量は多くも少くも算出せられ異論を生ずる原因となつてゐる。

（ニ） 化學成分及纖維の大いさ

鴨綠江産、魚鱗松、貝松、砂松の分析例を示せば次の如し

	魚鱗松	貝松	砂松
水分	0	0	0
ベンゼン抽出物	1.42	2.06	1.34
アルコール抽出物	1.35	2.00	2.14
纖維素	55.78	56.43	56.18
リグニン	28.14	28.57	28.98
ペントザン	4.22	2.84	2.42
マンナン	7.15	6.02	6.50
ガラクタン	1.38	1.14	1.49

日本産木材の纖維の大いさ平均を示せば次の如し

		長	巾
針葉樹	アカマツ	1.9891 mm	0.0393 mm
	テウセンマツ	2.0583	0.0375
	クロマツ	1.9488	0.0391
	モミ	2.6838	0.0335
	タヌヒ	3.2239	0.0369
濶葉樹	シラカンバ	1.2894	0.0232
	クヌギ	1.4851	0.0311
	イタヤカヘデ	1.3885	0.0281
	ブナ	1.1012	0.0193

2. 蘆及大豆稈

滿洲に於ける木材以外のパルプ原料として最近利用され始めんとしてゐるものに蘆及大豆稈がある。

蘆及大豆稈の化學成分及纖維の大いさを示せば次の如し。

蘆の化學成分 （試料、朝鮮産蘆、測定者、厚木、菊地氏）

	上部莖	中部莖	下部莖	節	全莖（平均）
水	10.78%	10.23%	10.15%	10.13%	10.27%
灰分	2.21	2.11	2.29	3.64	2.17
沸騰水抽出分	6.80	6.40	5.84	—	6.24
酒精抽出分	3.77	3.80	3.45	—	3.16
エーテル 〃	0.45	0.42	0.32	—	0.38
OCH 3	3.47	3.44	4.21	4.99	3.70
全纖維素	55.70	61.80	58.17	54.03	60.14
α—纖維素	44.64	48.80	46.36	—	47.68

大豆稈の化學成分　（阪大測定）

	莖	葉
水分	12.25%	13.71%
灰分	3.32	6.61
アルコール、ベンゼン抽出物	2.45	3.07
熱水抽出分	10.75	26.52
蛋白質	4.73	7.87
ペントザン	21.35	21.66
グルコーズ	24.15	29.35
リグニン	22.24	14.92
メトオキシル基	3.99	3.66
全纖維素	50.43	42.55
ペントザン控除纖維	37.91	29.05
α—纖維素	37.96	31.54

蘆及大豆稈の纖維の大いさ　（平均）

芦	長さ	巾
最大	3,200 mm	0.024 mm
最小	1,210	0.015
平均	1,542	0.019

大豆稈　（福井製大豆稈 S. C. P. パルプ）

	長さ	巾
最大	4.43 mm	0.04 mm
最小	0.13	0.007
特に多數存在するもの	0.2～0.85	0.01～0.028
最も多數存在するもの	0.38 mm	0.019 mm
平均	0.59	0.015

蘆は遼河、鴨綠江、松花江等の流域に廣く野生し、志方氏による蘆生育面積60,000町歩より生産高を推算（1町歩當生産高94,400斤＝56.5瓲とす）すると其の量3,390,000瓲の多きに達す。昭和11年度全滿蘆生産高は約98,400瓲、其の內50%の49,200瓲が營口縣遼河流域に生産せられ、主としてアンペラ用、燃料用蓋房用其他に使用せられてゐる。蘆を原料とするパルプ工業は昭和11年鐘紡によつて營口に康德葦パルプ會社が設立された。近々工場完成運轉の豫定である。蘆は實に無盡藏の資源であるが、其のパルプ化に當つての懸念は原料の圓滑なる蒐集及原料準備行程は貯藏に於ける手數、又は纖維素含量低く其の抽出精製上の技術的問題にある。蘆が果してどの程度の木材代用品たるか、康德葦パルプの成果を待つて判明するであらう。

大豆稈の昭和12年度全滿生産高及集散高推定は下表の如くである（產調查資料第21編）

	生産高	集散高（40%）
全滿合計	6,016,321瓲	2,406,528瓲
吉林省	1,406,306	562,522
龍江省	825,064	330,025
黑河省	6,509	2,604
三江省	417,702	167,081
濱江省	1,480,732	592,293
間島、安東省	385,436	154,175
奉天省	1,234,980	493,992
錦州省	259,592	103,835

大豆稈も亦蘆と同樣無限の資源であるが、其パルプ工業化には又同樣の懸念があると同時に大豆稈は蘆の如く河川に沿ふて生育するものでなく、其の蒐集は更に困難であらう。當社農林課調查になるパルプ原料としての大豆稈蒐集可能量と價格を示せば次の如し。

○120 支里行程內に於ける各地比較表

	蒐集可能量	價格		
		原料代	運賃	工場渡
新京	55,367噸	8.35圓	7.78圓	16.13圓
公主嶺	48,241	8.28	8.17	16.45
四平街	40,520	8.35	7.87	16.22
開原	45,147	8.62	6.37	14.99
奉天	28,588	8.49	7.31	15.80

○35,000 噸蒐集に關する各地比較表

	蒐集量	價格		
		原料代	運賃	工場渡
新京	35,000噸	8.60圓	6.24圓	14.84圓
公主嶺	〃	8.41	6.86	15.27
四平街	〃	8.41	7.16	15.57
開原	〃	8.78	5.36	14.14
奉天	〃	—	—	—

3. 木材、蘆及大豆稈のパルプ收量と原料費

木材……パルプ噸當原木所要量　17.0～18.0石

蘆……パルプ歩止　35～40%

大豆稈…　〃　30～33%

此等の原料に就きパルプ噸當原料費を假りに下記の單價によつて比較すれば

	單價	パルプ噸當 原料費	
木材	石當 5.00圓	85.00～90.00圓	—
蘆	—	—	不明
大豆稈	噸當 17.00圓	51.00～56.00圓	—

(二) 工　場

1. 既設工場

鴨綠江製紙工場（安東六道溝）

創　立……大正8年5月

資　本……500萬圓(拂込400萬圓)大倉系なるも現在王子製紙委託經營

原　料……木材

工場敷地……10萬坪

工場建物……工場 3,000坪、宿舍及附屬建物 4,400坪

原動力……電力 3,200馬力

汽罐 バブコツク、ウイルコツク汽罐243馬力6基

工場能力……年產、サルフアイトパルプ 15,000噸（大部分自社製紙用）

グラウンドパルプ 2,500〃（自社製紙用）

紙 13,000〃

主要機械設備

サルフアイト、パルプ用ダイゼスター（10噸） 3基

一晝夜平均能力 45噸

碎木パルプ用グラインダー（ポケツト式） 1台

一晝夜平均能力 7 噸

パルプマシン 120吋長網式 1台

抄紙機 110吋長網式ヤンキーマシン 1台

100吋シリンダーマシン 1台

65吋 〃 2台

53吋 〃 1台

從業員 職員（日本人） 35名

職工（日本人） 男 52名 女 4名

〃（半島人） 〃 70名 〃 60名

〃（滿 人） 〃 288名 〃 5名

2. 新興工場

○東滿洲人絹パルプ株式會社（東滿洲人絹パルプ股份有限公司）

創　　立　昭和9年5月1日
資本系統　大川系なりしも昭和12年3月鐘紡系に移る。
資本金　1,500萬圓なりしも鐘紡の手に歸して3,000萬圓となる。
工　　場　間島省和龍縣開山屯
　敷地、36萬坪、建坪6,000坪、昭和11年5月起工　12年中竣工の豫定
能　　力　人絹パルプ年産15,000噸
　但第1期計畫10.000噸豫定
豫定林地　豆滿江流域（間島、安圖、撫松、濛江各縣）
　松花江流域（吉林）
　杉松立木蓄積量約 115百萬石

○滿洲パルプ工業株式會社（滿洲パルプ工業股份有限公司）

創　　立　昭和9年5月27日
資本系統　寺田、三菱兩系なりしも昭和12年3月三菱系となる。
資本金　1,000萬圓（2分の1拂込）?
工　　場　濱江省、寧安縣樺林、敷地40萬坪
　昭和11年5月工場建設に着手
能　　力　人絹パルプ年産 8,000噸
　製紙パルプ 〃　7,000噸
豫定林地　松花江流域（依蘭、方正、勃利、樺川、寧安、舊北滿鐵路）
　杉松立木蓄積量約 100百萬石

○日滿パルプ株式會社（日滿パルプ股份有限公司）

創　　立　昭和9年5月27日
資本系統　王子系
資本金　1,000萬圓
能　　力　人絹パルプ年産15,000噸
　但第1期計畫10,000噸
工　　場　敦化縣城南門外牡丹江左岸、昭和12年早春起工、同年中完成

豫定、敷地45萬坪
豫定林地　牡丹江流域、大同林業區域（額穆、樺甸）
　杉松立木蓄積量 167百萬石

○東洋パルプ株式會社（東洋パルプ股份有限公司）

創　　立　昭和9年5月27日
資本系統　川西系
資本金　1,000萬圓?
工　　場　間島省汪清縣石峴　敷地30萬坪
能　　力　人絹パルプ年産15,000噸
　但第1期計畫10,000噸
豫定林地　豆滿江流域（間島、舊北鐵東部沿線半分、圖寧線方面）
　杉松立木蓄積量90百萬石

○康德葦パルプ株式會社（康德葦業股份有限公司）

創　　業　昭和11年
資本系統　鐘紡
資本金　500萬圓（2分の1拂込）?
工　　場　營口市外三家子、昭和11年工場建設に着手
計　　畫　原料　遼河沿岸の野生蘆、年產人絹パルプ
　2,000噸　製紙パルプ　1,300噸の豫定
　尙ほ鴨綠江、松花江、北支方面にも計畫の由

○滿洲豆稈パルプ株式會社（滿洲纖維工業股份有限公司）

創　　立　昭和11年9月
資　　本　1,000萬圓（酒井纖維工業 700萬圓、滿鐵 100萬圓、滿洲國政府 100萬圓、興銀 100萬圓）
工　　場　連京沿線　開原
原　　料　工場附近より蒐集の大豆稈
計　　畫　年產15,000噸　昭和13年中完成の豫定。

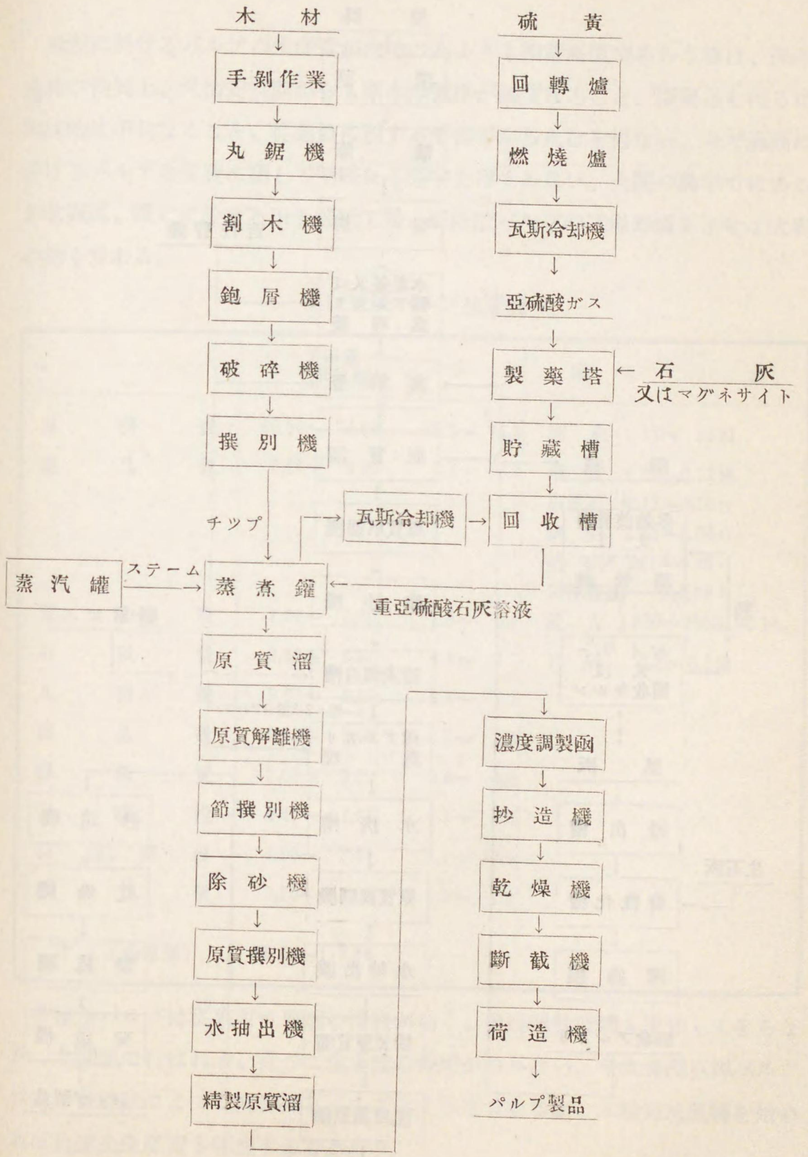
（三）製造方法

各工場の製造方法は次の通である。

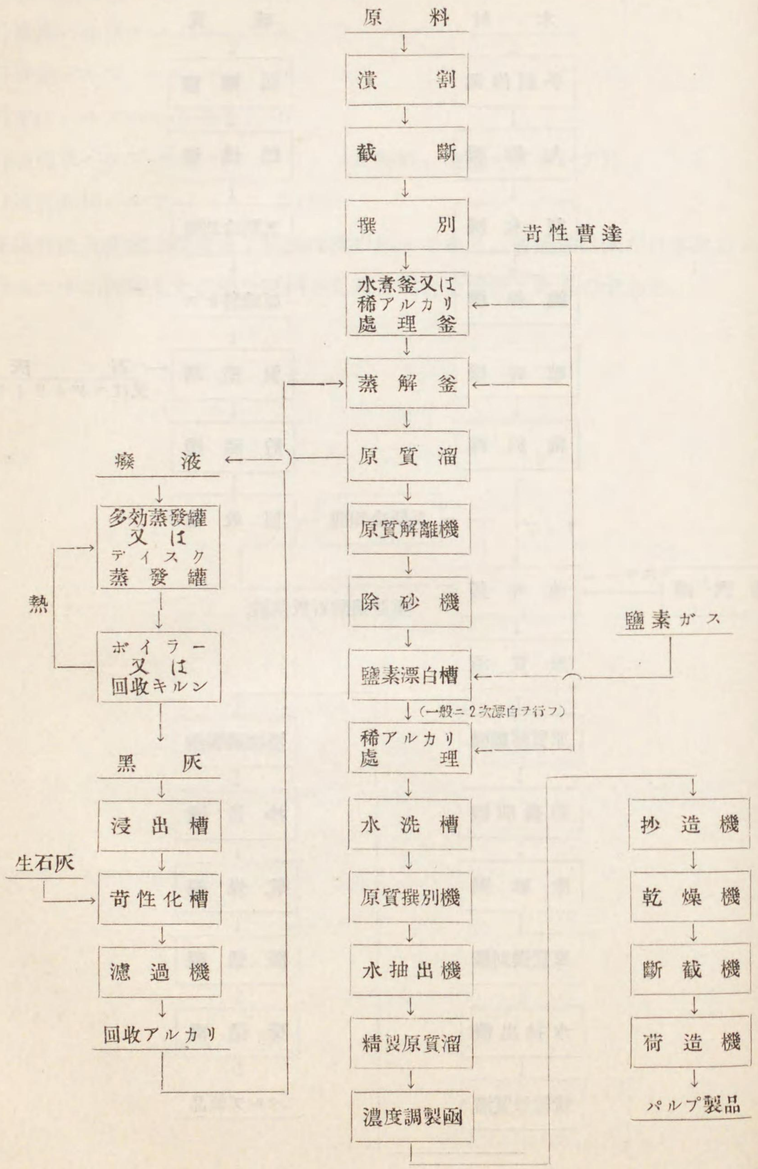
1)鴨綠江製紙……亞硫酸法（蒸解液、鹽基石灰）
2)東滿洲人絹パルプ…… 〃
3)滿洲パルプ…… 〃
4)日滿パルプ…… 〃
5)東洋パルプ…… 〃
6)康德葦パルプ…… 〃 （蒸解液、鹽基マグネシア）
7)滿洲豆稈パルプ…… 曹達法

亞硫酸法及曹達法の製造工程圖は次の如くである。曹達法は未だ日本に於いて行はれず工程圖も大豆稈を原料としたる場合を豫想したものである。

(1) 亞硫酸法製造工程



(2) 曹達法製造工程



(四) 生 産 費

滿洲に於けるパルプの生產費が內地の其よりも相當高價であらう事は、滿洲森林の性質上、又治安狀態からも原木の價格が高價なること、諸藥品を得るに地域的に不利なること、從業員に對する手當等から止むを得ない。未だ滿洲に於けるパルプ生產費に關して明確なる數字を得てゐない。大體の數字ではあるが北海道、樺太に於ける王子製紙工場、亞硫酸パルプの工場原價を示せば次表の如くである。

亞硫酸法パルプ生產費

	パルプ噸當(單位圓)	%	備考
原料費	65.50～74.00	63.0～74.0	原木 17～18石
藥品費	8.20～8.80	7.5～9.3	硫黃 0.09～0.12噸 石灰石 0.13～0.16〃 晒粉 0.03～0.04〃 鹽素 0.01～0.02〃 苛性曹達 約0.02〃
電力費	2.20～5.80	2.5～5.0	電力 200～350K.W.H.
石炭費	3.90～5.50	4.4～4.7	石炭 0.3～0.5噸
人件費	5.60～8.60	6.4～7.3	
用品費	0.90～3.09	1.0～2.6	
補修費	0.50～5.29	0.6～4.5	
保險、稅	0.40～1.62	0.5～1.4	
荷造、搬出	1.00～3.44	1.1～2.9	
雜費	0.20～1.00	0.2～0.9	
計（工場原價）	88.40～117.14	—	

曹達法パルプは從來苛性曹達の價格が高く、曹達回收技術も進步してをらなかつた關係で行はれず、從つて生產費の豫想がつかない。今次滿洲豆稈パルプは此の曹達法によつて大豆稈をパルプ化する筈であるが、工場完成運轉を始めれば曹達法生產費も判然するであらう。

(五) 需 給 狀 況

1. 生　　産

滿洲に於けるパルプの生産は現在迄唯一つの存在であつた鴨綠江製紙の製造に係る次の如き製紙用パルプの生産のみであつた。

	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和11年
亞硫酸パルプ	7,446噸	6,379噸	9,114噸	15,252噸	11,580噸	12,732噸
碎　木パルプ	2,355	2,339	2,590	2,109	2,157	2,000
	9,801	8,718	11,704	17,361	13,737	14,732

2. 消　　費

鴨綠江製紙にて生産さるゝパルプの大部分は自社用紙料に消費せられて居りパルプとして販出する様になつたのは近年の事で、其の量は上記數量中年約4,000噸內外である。(昭和9年度 3,972噸、昭和10年度 4,359噸、昭和11年度亞硫酸パルプ 2,535噸、碎木パルプ 200噸) 一部六合成造紙廠に供給し、其の他は內地へ仕向けられてゐる。

3. 輸　　入

最近に於けるパルプ輸入量

昭和8年……16噸

昭和9年…… 919〃

昭和10年…… 3,998〃
- 日本品 3,306噸
- 朝鮮品 121〃
- カナダ品 570〃

昭和11年…… 2,769〃
- 日本品 2,154〃
- 朝鮮品 25〃
- カナダ品 199〃
- 瑞典品 168〃

(六) 增 產 計 畫

滿洲に於けるパルプ增產計畫は從來5箇年間に 130,000噸を目標として進んで來たが、其の後の諸情勢は日滿のパルプ資源の急速なる開發が痛感され、增產計畫に對しても再檢討が行はれた。日本の關係當局では5箇年後 (昭和17年度) 日本に於けるパルプ需要高を 180萬噸と推定し、各地別生產目標を次の如く決定した模樣である。

內	地	35萬噸
北 海	道	53 〃
樺	太	47 〃
朝	鮮	5 〃
臺	灣	10 〃
滿	洲	30 〃
計		180 〃

從て滿洲國に於いても從來の方策を改善して新に30萬噸增產を目標とし既設4社に對する許可量を合計 120,000噸に增加し別に小興安嶺、大興安嶺の資源を開發、又蘆或は大豆稈パルプを發達助成して計畫を進める必要があらう。

(附) 日本に於ける木材パルプ

1. 需給高及原木使用高 (單位噸)

	パルプ生產高		輸入高	輸出高	差引需要高	消費內譯		原木使用高	
	本 邦	滿 洲				製紙用	人絹用	本 邦	滿 洲
昭 7	551,120	11,704	101,348	—	652,467	609,208	43,259	千石 6,794	千石 184
8	620,036	17,361	159,974	31	779,979	727,898	52,081	7,278	209
9	691,839	13,737	225,319	—	917,158	834,881	82,277	7,637	202
10	724,042	13,718	269,923	731	993,234	868,000	124,454	7,638	164
11	711,803	14,732	326,404	531	1,137,676	—	—	—	—

2. パルプ相場　東京―大阪倉庫渡　圓/100封度

	晒パルプ				同人絹用		未晒イージー物		未晒ストロンヅ	
	内地品	カナダ品	米國品	北歐品	内地品	歐米品	内地品	カナダ品	米國品シート	北歐品
昭11 6月	9.50	10.00	10.00	10.40	10.40	12.70	7.30	7.40	7.40	7.50
9	9.80	10.70	11.20	11.20	11.00	13.00	7.40	7.40	7.50	7.70
10	9.90	11.00	11.30	11.50	11.00	13.00	7.50	7.50	7.50	7.80
11	10.50	12.00	12.00	12.30	11.50	13.00	7.80	8.00	8.00	8.50
12	11.00	12.50	12.50	12.80	13.00	13.50	8.80	9.00	8.00	9.80
昭12 1	11.50	13.00	13.00	13.00	13.00	13.50	9.50	10.50	9.60	10.50
2	12.50	15.00	15.00	13.00	13.50	14.00	11.00	13.00	11.50	11.50
3	13.00	15.00	15.00	13.50	14.00	15.00	11.50	13.50	12.00	12.00
4	13.50	17.00	17.00	15.00	14.50	15.50	12.00	14.50	14.50	13.50
5	15.00	17.00	17.00	15.50	15.00	16.00	13.00	15.00	15.00	15.00
6	15.00	17.00	17.00	17.30	15.50	16.50	13.50	15.00	15.00	15.00
7	16.00	18.00	18.00	18.00	16.00	17.50	14.00	15.50	15.50	15.50

第十八節　硫安

(一) 概說

肥料問題は農業生産力、農家經濟、農産物價格との鋏狀價格差或は獨占價格等々として多くの問題を提供してゐる。肥料代が農業經營費中、現金支拂額の3割6分を越えてゐると云ふ事實はこの問題の重要性を端的に物語る。

農業經營費總額	(農家一戸當)	544.105圓
農業經營費に於ける現金支拂額	(〃)	320.613
上の內肥料代		127.400
農業經營費中に於ける現金支拂額に對する現金支拂をなす肥料費の割合		36.%34

註　農林省委託、道府縣農家調査の農業經營調査による。昭和5.6.7年3ヶ年平均

而して金肥のうち其の主要部分を占めるものは硫安である。以下滿洲に於ける硫安工業―合成硫安…滿洲化學工業會社、副生硫安…撫順製油工場、撫順發電所、昭和製鋼所竝本溪湖煤鐵公司―の設立、その生產過程、原料關係、需給關係等につき日本の同種工業との關聯に分ちて概述し更に支那硫安界事情につき簡說することゝする。

(二) 滿洲化學工業會社……合成硫安

1. 沿革並概要

元來窒素工業は單に硫安の製造に止まらず各種の水素工業及アルカリ工業或は硝酸工業の如き幾多の化學工業を有利に誘發するの關係より、滿鐵では是等工業の起業條件を考慮に入れ諸般の調査に著手し、就中水素の經濟的製造法竝原料の購入及製品の處理に關する便否等研究の結果、遂に鞍山に於ける骸炭爐瓦斯利用の當初の計畫を變更し、專用の水素瓦斯發生設備を設けて海陸至便の地、大連に工場を設置することを最も有利と認め、之に基き更に具體的計畫を進め先づ工場地を大連市外甘井子に選び、資本金25百萬圓、其の半額は滿鐵に於て引受け、第一期事業として年產18萬瓲の硫安製造に着手することに決定、翌8年5月同社の成立を見、10年3月には工事全く完成、4月から操業を開始

した。更に11年には年産6萬瓲の増産計畫を樹て、直ちに工場の擴張工事に着手し、翌12年7月之が完成を見たので當社は硫安年産24萬瓲の生産能力を有するに至つたのである。

公稱資本金2,500萬圓、拂込1,875萬圓（持株比率、滿鐵51.7％ 全購聯 10％ 東洋窒素6％ 住友1.9％其の他）

設立　昭和8年5月　　操業開始、昭和10年4月

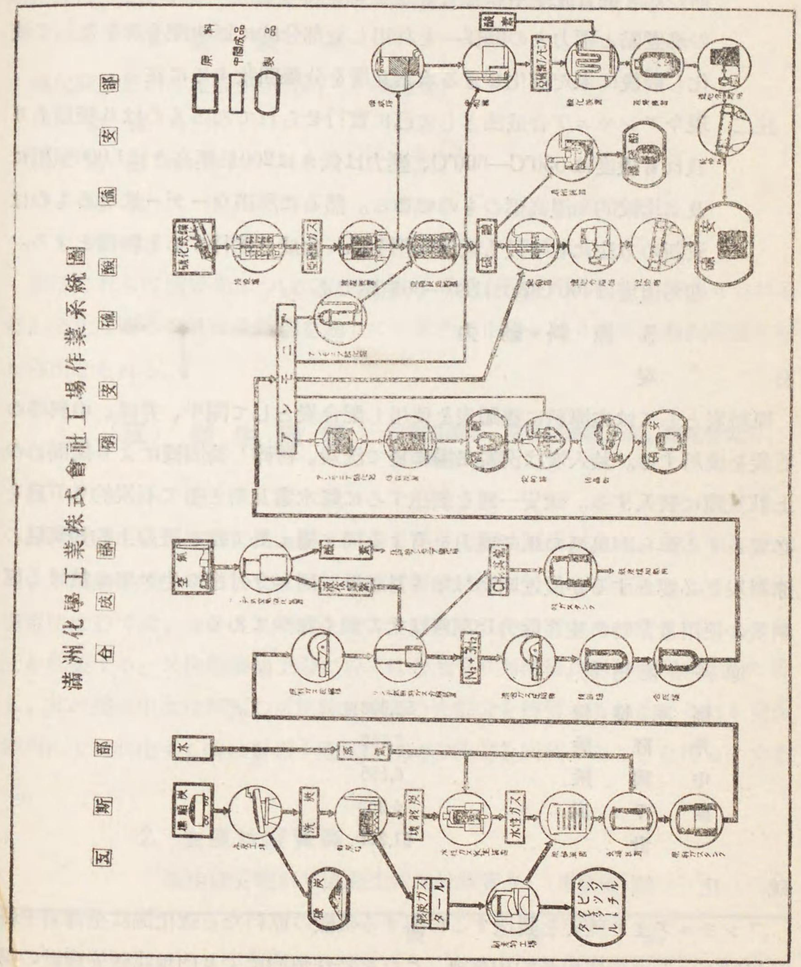
位置　大連甘井子

滿化に於ける品目別、用途別、主要生産能力　（單位千瓲）

品目	年産能力	用途
硫安	240	肥料
硫酸（50°ボーメ）	220	硫安原料其の他
濃硫酸	3	火藥、染料、石油精製用其他
硝安	3	火藥、肥料、其他
硝酸（50％）	2	火藥、染料、セルロイド、其他工業藥品
ベンゾール	1.6	燃料、染料、溶劑其他
タール	1.	塗料、道路鋪裝用
クレオソート	1.	木材防腐劑其他
ピッチ	2.4	煉炭、電極、ピッチコークス其他
骸炭	4.	燃料、煉炭原料其他

2. 製造方法

本會社の計畫は合成アンモニアより硫安製造を目的としてゐる。而して其の製造方法の特徴は製造原料中、最重要なる水素瓦斯を最低廉に製出する目的のために撫順炭を利用し、之を骸炭化して得らるゝ骸炭爐瓦斯及其の骸炭より得らるゝ水性瓦斯竝其の内に含有する一酸化炭素瓦斯を水素に變換したる瓦斯等の混合瓦斯を「リンデ」式水素分離裝置（註一）を用ゐて水素瓦斯を分離精製し之を特許「ウーデー」式アンモニア合成法（註二）に依りて空中窒素と化合せしめて「アンモニア」を造り之を更に硫酸にて處理し硫酸アンモニアを製造するところにある。



註一　此の方法は獨逸人ブローン氏の研究に係り獨逸國リンデ會社に於て實際化され「ブローンリンデ」法と稱せられてゐる。其の原理は骸炭爐瓦斯の如き混合瓦斯中に含有せらるゝ各瓦斯の物理的性質—即ち各瓦斯の沸煮點と壓力との關係—を利用して部分的に逐次深冷却をなして液化し最後に未だ液化せざる水素瓦斯を分離回收するに在る。

註二　現今アンモニア合成法として已に實行せられてゐるものは6種類あり孰れも溫度は550°C—600°C、壓力は低きは200氣壓高きは1,000氣壓に及ぶ比較的高溫高壓のものである。然るに所謂ウーデー法なるものは最新の方法にして最も低溫低壓を以て合成を遂行するを特徴とする。即ち溫度は400°C壓力は80—90氣壓である。

3. 原　料・動　力

石　　炭

原料炭としては主原料に撫順炭を使用し配合炭として開平、井陘、中興等の石炭を使用する。裝入炭は洗炭工場に於て洗炭、粉碎し搗固機により搗固めの上骸炭爐に裝入する。硫安一瓲を製造するには水素瓦斯として石炭約0.67瓲を必要とするから24萬瓲の生產能力を有する同工場に於ては、理論上約16萬瓲の原料炭を必要とするが最近昭和11年4月より、同年9月迄の半ケ年に於ける原料炭の使用量當時の生產能力18萬瓲は次の如くなつてゐる。

原料炭使用量

撫順特粉	50,006瓲
井陘炭	2,150
中興炭	4,165
開平炭	4,900
計	61,221

硫　化　鑛

アンモニアより硫安を製造するに要する硫酸の原料たる硫化鑛は全部岩手縣松尾鑛石にして年使用量約10萬瓲、これを特殊契約により內地諸硫安會社の購入價格よりもより廉價に移入してゐる。

動　　力

石炭より硫安1瓲に相當する水素窒素混合瓦斯800M³を製造するには原料瓦

の製造用動力として25KWH、瓦斯の分離精製用動力(主にリンデ裝置運轉用)360KWH、計385KWHを要し、合成用動力300KWH、硫酸硫安工場用動力は45KWH、此等を合して硫安瓲當の所要動力は730KWHとなる。

4. 生　産　高

滿化硫安肥料年度別生產實績　(單位瓲)

昭和9年	31,061
昭和10年	133,500
昭和11年	137,126
昭和12年	181,195…… 一部推定

尙ほこれらの需要先についてみるに約2千瓲が關東州內に於て消費せられるほか全生產高の2/3は全聯聯を通じて日本內地市場へ殘り1/3は臺灣朝鮮市場に移出せられる。

(三) 副生硫安……昭和製鋼所、本溪湖煤鐵公司、撫順發電所、撫順製油工場

1. 概　　說

滿化硫安のほか滿洲には上記4工場に於ける副生硫安がある。即ち昭和製鋼所、本溪湖煤鐵公司に於ては高爐用骸炭製造の際に於ける副產物として、撫順發電所に於ては、モンド瓦斯發生爐より回收せられるアンモニアを利用して硫安を收集する。又撫順製油工場に於ては含油量6%油母頁岩の低溫乾溜に際し、其の殘渣中には10%の可燃物と窒素の大部分を殘留するが故にこれを發生爐內にて瓦斯化する時は頁岩1瓲當は12kgの硫安を回收することを得るのである。

2. 生產竝販賣高

副生硫安肥料年度別生產高竝販賣高　(單位瓲)

		生產高	販賣高							
			內地	朝鮮	臺灣	支那	南洋	地賣	其の他	合計
昭和8年度	シエール硫安	18,376	3,759	—	8,588	1,382	152	—	3,791	17,672
	モンド硫安	5,681	1,424	—	2,773	329	973	—	2,032	7,531
	鞍山硫安	4,891	1,221	—	203	5	3,017	—	—	4,446
	計	28,948	6,404	—	11,564	1,716	4,142	—	5,823	29,649

昭和9年度	シエール硫安	14,076	2,352	57	5,470	4,912	59	127	1,670	**14,646**
	モンド硫安	5,560	304	58	3,218	2,337	5	73	—	**5,995**
	鞍山硫安	6,959	608	—	1,539	96	2,792	512	—	**5,547**
	計	**26,595**	**3,264**	**115**	**10,227**	**7,345**	**2,856**	**712**	**1,670**	**26,189**
昭和10年度	シエール硫安	24,718	—	—	8,047	5,178	233	127	1,863	**15,448**
	モンド硫安	6,175	—	—	3,727	2,364	—	19	—	**6,110**
	鞍山硫安	8,230	965	—	1,128	697	3,306	4	—	**6,100**
	計	**39,123**	**965**	**—**	**12,902**	**8,239**	**3,539**	**150**	**1,863**	**27,658**
昭和11年度	シエール硫安	26,581	—	2,390	10,883	6,281	195	1,608	135	**21,492**
	モンド硫安	6,452	—	—	1,363	3,274	406	1,069	—	**6,117**
	鞍山硫安	10,101	—	1,219	1,393	3,274	406	136	—	**6,428**
	計	**43,134**	**—**	**3,609**	**13,644**	**12,829**	**1,007**	**2,813**	**135**	**34,037**

註　このほか本溪湖硫安は年産約2千瓲にして主として朝鮮西部海岸地方に移出せられてゐる

昭和11肥料年度地賣硫安地方別數量　（單位瓲）

地方別	數量	地方別	數量
連京線	3,472	錦承線	23
營口線	2,246	大鄭線	15
安奉線	634	白溫線	11
濱北線	545	葉峰線	5
撫順線	424	北票線	4
奉山線	312	林密線	3
京濱線	253	河北線	2
京圖線	229	濱綏線	2
拉濱線	91	新義線	2
京白線	85	梅輯線	1
濱洲線	84	北黑線	1
奉吉線	67	訥河綫	0.4
平齊線	64	圖佳線	0.2
朝開線	32		
四梅線	25	計	**8,633**

註　尙ほ昭和10肥料年度地賣硫安數量は2.555瓲にしてその增加率は約300%である

（四）　硫化鐵鑛使用高

滿洲は硫黃原料に乏しく硫酸原料鑛石としての產出は極めて少く硫酸の生產勘き時代に於ても一部分は日本內地及山東より輸入されたが、最近硫酸生產增加に對しては主として內地鑛石に俟つ狀態である。從來の滿洲及山東產硫化鐵鑛は何れも炭鑛の挾石として採掘されたもので、カーボン含有量多く硫黃含有量は34—42%程度である。

滿洲に於ける硫化鐵鑛使用高　（單位瓲）

年度		昭和3年	昭和4年	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年
滿洲產		2,300	5,500	3,780	3,910	3,190	4,300	5,240	4,880
內	煙臺	1,440	1,030	1,640	3,270	2,030	2,180	3,510	3,070
	本溪湖	630	750	1,110	550	860	1,790	1,730	1,810
	草家口	230	280	—	—	—	—	—	—
	林家臺	—	3,440	930	90	—	—	—	—
	其の他	—	—	100	—	300	330	—	—
山東產		1,130	2,670	4,600	4,710	5,640	350	2,160	2,650
內	溜川	1,010	2,670	4,310	4,710	5,640	350	2,160	1,250
	博山	120	—	290	—	—	—	—	1,400
內地產		4,630	2,810	11,200	10,570	10,550	15,890	15,580	94,400
內	柵原	4,630	2,570	2,320	4,820	10,290	15,890	12,130	16,350
	管生	—	240	8,380	5,750	260	—	—	—
	松尾	—	—	—	—	—	—	3,450	78,050
總計		**8,060**	**10,980**	**19,580**	**19,190**	**19,380**	**20,540**	**22,980**	**101,950**

（五）　生　產　費

濕化硫安の生產費についてはこゝに詳にするを得ないから先に農林省が臨時肥料配給統制委員會に於て發表せる次の如き內地諸硫安會社硫安生產費より之を窺ふことゝする。

硫安生産費内譯

	円
原料費及電力費	32.42
製造費	14.34
特許料及保險料	0.59
營業費及總掛費	5.92
荷造費及出荷費竝運賃	11.05
諸税	3.08
合計	67.40

以上は固定資産の銷却を含まざる1噸當生産費にして過去一ケ年間の實績による最高生産費（72圓見當）と最低生産費（60圓見當）とを平均したるものであるが、滿化硫安生産費・原料費及電力費・製造費等に於てこれらより極めて優位にあることは今後の發展を豫約するものである。

（六）價　　格

滿洲國内市場に於ける硫安販賣に關しては日滿商事會社が一手に掌握し公定値段を發表して所謂統制價格を以て販賣してゐる。現行公定値段（昭和11年12月發表）は、滿鐵社線沿線は各驛レール渡@10貫目入1叺3圓50錢にして國線沿線は社線より各驛に至る運賃をこれに加算したるものより25錢を差引きたるもの。但し25錢を差引きたるものが3圓50錢を割る場合には3圓50錢に引上げのこと。尙ほこの公定値段は原料勞銀其の他の値上りにより昭和12年1月より多少引上げられる見込みである。

尙日本内地に於ける硫安價格は重要肥料業統制法に基き次の如く公定されてゐる。

公定値段　@10貫目叺、各驛レール渡

限月	價格
昭和12年8月—12月渡	円 3.50——3.58
昭和13年　—1月渡	3.63
昭和13年　—2月渡	3.68
昭和13年3月—7月渡	3.78

然し市價は硫安期近物3圓80錢乃至3圓90錢（東京商工會議所調査による）と公定價格を遙に凌駕し法律はその無力を嘆じなければならぬ。そこで政府は第72臨時議會に臨時肥料配給統制法（註一）を提出し、その協賛を經て重要肥料業統制法のもたぬ販賣命令權を掌握することによつて公定價格と市場價格との接近を計つてゐる。

註一　法は7箇條より成るが主眼とするところは次の點である。第一に政府は一つの販賣會社を設立せしめこの會社をして肥料（差當つては硫安）の買入れ一手販賣をなさしめ、この場合に政府は肥料製造業者又はその組織する法人、即ち各製造會社若しくは肥料業製造組合に對しその製造又は取扱に係る肥料を上の會社に公定價格を以て賣渡しを命じ得ることであり、第二には政府は事變中、肥料の需給の圓滑及び價格の公正を圖るため必要に應じ肥料の販賣、使用、消費、移動又は輸出に關しても命令が出來る點である。

（七）硫安輸出入許可制と滿洲硫安

昭和12年3月15日附を以て商工・農林省令に依り公布せられた硫安輸出入許可制は、即日内地竝に朝鮮に實施せられることになつたが、滿化・撫順竝鞍山硫安（本溪湖硫安は同社が滿洲國法人なるため外國硫安の扱を受く）に對しては對滿事務局の斡旋により下の如く除外扱を受くることになつてゐる。

○撫順・鞍山・滿化硫安を内地に輸入する場合は許可制の適用を受けざること、（第一條但書）但し原産地證明書（輸出地に於ける日本官衙の産地證明書、例へば大連民政署發行のもの）を輸入地の稅關に提出する要あり（第十一條參照）

○販賣計畫表提出の件

滿洲硫安は許可制の適用を受けざること前述の通なるが、本許可制の實施は差當り輸出の制限に重點を置き居る實情に鑑み滿洲硫安のみに輸出を認むることは、内地硫安との振合竝外安との輸入協定上の影響もあり種々難色ある故、對滿事務局に於ては從來の例に徴し、豫め販賣計畫表を提出せしめ、輸出量をチエツクし得るやう既に日滿商事竝滿化に夫々

通牒を發したり。

註一、硫酸アンモニア輸出入許可規則第一條「硫酸アンモニアハ重要肥料業統制法第十八條ノ規定ニヨリ昭和13年12月31日迄ハ商工大臣及農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出シ、又ハ輸入スルコトヲ得ズ、但シ帝國法令ニ依リ、設立シタル會社ノ製造ニ係ル硫酸アンモニアヲ輸入スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。」

(附) 日本及支那に於ける硫安

1. 日本に於ける硫安需給

朝鮮・臺灣を含めた日本の硫安需給を示せば次の如くである。

日本に於ける硫安需給實績竝見込表 (單位千噸)

	供給				需要			年度末在貨高
	前年度繰越高	年度内生産高	年度内輸入高	計	年度内消費高	年度内輸出高	計	
昭和10肥料年度	52	1,180	374	1,606	1,359	15	1,374	232
昭和11肥料年度	232	1,330	260	1,822	1,645	43	1,688	134
昭和12肥料年度	134	1,580	406 (内滿洲より180)	2,120	1,970	—	1,970	150

備考 1. 昭和10.11肥料年度は重要肥料業委員會に於て農林、商工兩省が發表せる實績數字 2. 昭和12肥料年度は見込數字

昭和10年より11年に至る1年間の消費推移をみるに、その增加率は23%であるが、これに對し生産高は同期間に13%の增加となり、需要は供給を追越し尙未だ外國硫安に依存せねばならぬ狀勢にある。更に昭和12年度内にほゞ實現すると考へられる主要增産、新設會社の增産、新設生産能力は次の如くである。

硫安增産豫定額 (單位千噸)

會社名	增産又は新設能力	會社名	增産又は新設能力
宇部窒素	120	多木肥料	50
日本化成	150	日東化學	25
新潟硫酸	20		
矢作工業	86	計	451

このうち前年度より25萬噸增産されるものとして計算したのが、前揭の昭和12年度硫安需給豫想である。

2. 支那に於ける硫安工業

イ、永利化學工業公司浦口硫安工場

支那に於ては1932年以來國民經濟建設運動の波に乘り經濟的竝國防的見地より多くの化學工業關係工場の創設となつて現はれた。斯かる傾向の線に沿ふて1934年永利化學工業公司は、資本金を550萬元に增資(前資本270萬元)36年更に550萬元の社債を發行し、製造方法を米國窒素工業設計公司の具體案を採用し、設立地點を南京卸甲甸一帶に選定、硫安工場創設の計畫を目下進めつゝある。これ支那に於ける硫安工業の嚆矢である。

所在地　江蘇省六合縣卸甲甸 (南京下關より1時間)
生産品目　硫安、硫酸、硝酸及アムモニア
生産能力　日産、硫安150噸　年産 50,000噸
製法　合成アムモニア法
原料　硫化鑛　1日硫安1,500噸生産として83噸、湖南水口山産　噸當21—22元
石炭　〃　90噸、中興炭噸當8—9元
水　〃　50,000噸、
所要電力は南京發電所よりKWH3仙にて購入す。
市場　主として楊子江沿岸

ロ、需給狀況

未だ硫安の生産なき支那に於ける硫安需要につきてみるに總輸入高より再輸出高及輸出高を差引ける數字を以て國内推定消費高と考へられる。この意味の國内消費高は昭和5年186千噸、6年127千噸、7年107千噸である。而して硫安輸入高は昭和5年19萬噸にして、6年は139千噸、7年は111千噸、8年は10萬噸、9年49千噸と漸次減退しつゝあるが、これ支那農村の不況を反影するものである。

支那硫安需給表（單位瓲）

摘要	總輸入高	再輸出高	輸出高	差引國內推定消費高
昭和5年	191,822	46	5,246	186,530
昭和6年	139,320	29	11,763	127,528
昭和7年	112,637	742	4,926	106,969
昭和8年	100,497	12	不詳	不詳
昭和9年	49,569	不詳	不詳	不詳

支那に於ける仕出國別硫安輸入高（單位瓲）

仕出國別＼年次	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年
香港	135,959	49,812	1,999	286	146
マカチ	144	281	—	—	—
英吉利	21,301	39,076	49,686	51,851	16,566
獨逸	25,948	42,459	47,129	37,925	17,108
和蘭	572	4,561	5,137	4,851	6,289
日本	7,677	2,693	—	29	3,506
アメリカ	65	300	3,701	1,519	1,047
其他	156	138	4,985	4,035	4,907
計	**191,822**	**139,320**	**112,637**	**100,497**	**49,569**

註—海關中外貿易統計年刊による。

支那に於ける仕向國別硫安輸出高（單位瓲）

仕出國別＼年次	昭和5年	昭和6年	昭和7年
香港	749	644	476
蘭領東印度	29	500	253
朝鮮	928	—	120
日本	3,535	7,927	1,390
臺灣		2,667	2,516
ヒリツピン	5	25	51
アメリカ	—	—	118
其の他	—	—	—
計	**5,246**	**11,763**	**4,926**

註—海關中外貿易統計年刊による。

第十九節　砂　　糖

(一) 原　　料

1. 甜菜栽培面積及收穫高

（單位町擔）

	康德3年		康德4年	
	契約面積	推定收穫高	契約面積	推定收穫高
北滿	3,238.0	50,554	8,332	130,000
南滿	1,783.0	47,197	4,465	66,996

備考　北滿と稱する中には康德3年阿城、ハルピン、康德4年阿城、ハルピン、呼蘭、巴彦、綏化、雙城で南滿は瀋陽、新民、開原の諸縣を含む。

康德3年北滿製糖契約に依るもの收穫高、買上量不明の爲製糖量より算出せり。

康德4年南滿の契約面積に該當する數字は播種面積である。

康德4年北滿製糖の收穫高に關する數字無き爲南滿製糖北滿工場推定收穫高と同樣の收穫ありたるものと見做せり。

2. 品種及收量

a. 公主嶺農事試驗場に於て育成した主なる品種及其の特徵次の如し。

品種	特徵
公12號	葉身の褶大きく縮の大さ及び數中位、耐病性中等、葉姿は並型で地上に根莖部の露出すること少い、奬勵品種である。
公13號	12號と共に公主嶺農事試驗場にて育成した品種で12號に類似す。
公46—7號	公主嶺農事試驗場にて育成した品種で縮の數は多い。尙對病性强く草姿並型地上根頸部露出少い。
公47—6號	公主嶺農事試驗場育成品種葉身の褶の大さ中位にして少く、縮は大さ數共に中位草姿展き耐病性强く根上根莖部の露出少い。
ヴイルモーランホワイトフレンチ	褐斑病に强く、草姿稍直立し葉身の褶大、縮は大にしてその數中に屬し地土根莖部の露出多し。

備考　滿鐵農事試驗場、滿洲に於ける農林植物品種の解說に據る。

ヴルモーランは公主嶺にて育成したものに非ず。

b. 公主嶺農事試驗場育成に係る主な品種の收量及根中糖分次の如し。

	陌當菜根重量 (瓲)	根中糖分(%)	純糖率(%)	陌當可製糖量 (瓲)
4	24,625 (±) 3,037	16.34	87.19	3,506 (±) 454
12	24,534 (±) 1,084	16.55	87.55	3,562 (±) 409
13	25,271 (±) 2,277	16.74	88.16	3,693 (±) 244
31	23,213 (±) 1,557	16.10	85.14	3,239 (±) 529

備考 1. 昭和12年9月公主嶺農事試驗場發行農事試驗場要覽に據る。

2. 本表は大正14年より昭和4年(元年を除く)に至る4箇年間の平均である。

之に據れば菜根收量最も多く根中糖分純糖率高く從つて可製糖量最も大なる優良型である。12號は前者に比し稍劣るもより多雨に耐ふる性あるを以て平地乃至低地の栽培にあつては往々13號に勝る成績を示し前者に亞ぐ優良型である。

滿洲國五ケ年計畫に於ては公13號を奬勵品種として目下種子の增產をなしてをり康德8年度より之を農家に配布する豫定にして、現在はクライワンツレーベン及びヴイルモーラン系種子を外國より購入使用してをる。

c. 對病性及收量、品質

項目 / 型	陌當菜根重量 (瓲) 昭和2年	昭和3年	昭和4年	昭和5年	昭和6年	平均	根中糖分(%)	耐病性
46	29,505	26,616	24,330	26,072	26,737	26,652(±)1,666	17.93	強
47	30,297	26,469	23,142	27,246	21,716	25,774(±)3,050	17.90	稍強
48	29,315	25,751	25,117	23,851	33,837	27,574(±)3,619	18.22	強
57	30,260	24,916	26,263	27,494	25,879	26,962(±)1,844	18.22	強
46—7	—	—	29,657	34,077	20,861	28,198(±)5,493	19.05	最強
47—6	—	—	23,950	43,296	21,389	29,545(±)9,779	18.59	強
48—16	—	—	—	35,526	16,971	26,249(±)9,277	18.96	強
57—18	—	—	—	92,023	—	92,023(±) —	17.20	—
12—28	—	—	24,747	40,150	18,457	27,785(±)9,113	18.24	稍強
43—44	—	—	22,838	34,848	18,946	25,544(±)6,768	18.61	強

備考 1. 昭和12年9月公主嶺農事試驗場發行農事試驗要覽に據る。

2. 本表は公主嶺農事試驗場に於ける成績である。

以上の結果を見るに菜根收量に於ては47—6最も多く46—7之に亞ぎ根中糖分

にあつては46—7最高で且つ兩者は何れも褐斑病に對する抵抗力他に比し比較的強き優良型である。

3. 甜菜收支計算 (十畝) (昭和十一年)

1. 支出の部

種別	金額	摘要
種苗費	8 80	
肥料費	7 96	
勞役費	18 70	
役畜費	10 00	
租稅	5 00	
農具償却費	3 00	
雜費	1 50	
土糞	15 00	
小作料	30 00	
計	99 96	

2. 收入の部

種別	金額	摘要
菜根代	120 00	收穫高20.000斤 1.000斤@6.00
莖葉代	5 00	收穫高10.000斤 1.000斤@0.05
計	125 00	

3. 差引損益

種別	金額
收入	125 00
支出	99 96
差引益	25 04

備考 1. 本表は滿洲製糖奉天製糖所發行、南滿甜菜栽培須知に據る
2. 調查場所、新城堡
3. 前作物、粟

(二) 甜菜糖製造法

甜菜糖製造の甘蔗糖製造と異る處は甜菜根中の糖分を採取する方法とその漂法とである。

白洗滌の了つた甜菜を機械によつて切干大根の如く細斷し此の細斷片から滲出法によつて糖分を採るのである。蓋し甜菜の細片を溫湯中に投ずれば水は細胞膜を通じて細胞中に入り甜菜の含有する糖分は細胞を通じて滲出し膜の內外に於ける糖分の割合は平均されるのであるがこの操作を數回繰り返すことによつて甜菜糖の糖分は殆んど滲出される。

滲出によつて得た糖汁は石灰乳を加へ後漂白材料を用ひ更に炭酸瓦斯及亞硫酸瓦斯を使用して漂白し淸澄液は蒸發結晶を行ひ白下 (註) とし之より糖蜜を分離して一番糖を作り更に糖蜜より二番糖を製造することは甘蔗糖と同一である。

(註) 白下(マスキツト)

淸澄化したる糖汁の水分を蒸發せしめて濃厚液とし更に之を蒸發結晶せしめて得たるものを白下と云ふ。

備考 ダイヤモンド社編「經濟記事の基礎知識」による。

(三) 需給狀況

a. 砂糖需給表

	昭和7年	割合	昭和8年	割合	昭和9年	割合	昭和10年	割合	昭和11年	割合
	噸	%	噸	%	噸	%	噸	%	噸	%
生産高	—	—	30,246	1	64,536	4	52,124	3	68,693	2
輸入高	1,558,139	100	2,001,214	99	1,526,970	96	1,745,291	97	3,661,517	98
總供給高	1,558,139	100	2,031,460	100	1,591,506	100	1,797,415	100	3,730,210	100
輸出高	828	—	15	—	15	—	—	—	—	—
再輸出高	172,834	—	437,106	—	313,269	—	259,753	—	1,899,153	—
消費高	1,384,477	—	1,594,339	—	1,278,222	—	1,537,662	—	1,831,057	—
	千人		千人		千人		千人		千人	
人口	34,500	—	34,500	—	34,500	—	34,500	—	34,500	—
	斤		斤		斤		斤		斤	
一人當消費	4.01	—	4.62	—	3.70	—	4.46	—	5.31	—

備考 1. 生産高は日本砂糖協會調査により、北滿製糖生産高を示す

2. 貿易統計は滿洲外國貿易統計年報による

3. 生産高は北滿製糖會社阿什河工場生産高を示す

b. 滿洲砂糖仕出國別輸入高 (單位擔)

仕出國	昭和7年	割合	昭和8年	割合	昭和9年	割合	昭和10年	割合	昭和11年	割合
		%		%		%		%		%
日本朝鮮	1,367,756	88	1,733,902	87	1,322,022	87	1,601,139	92	2,810,431	77
支那	7,473	—	9,549	—	41,222	3	19,136	—	41,628	1
ロシヤ	3,818	—	383	—	592	—	—	—	—	—
蘭領印度	9,050	1	85,836	4	42,270	3	63,898	4	560,814	15
香港	166,293	11	154,400	8	110,104	7	66,052	4	240,057	7
其他	3,749	—	17,144	1	10,760	—	4,066	—	8,587	—
計	**1,558,139**	**100**	**2,001,214**	**100**	**1,526,970**	**100**	**1,745,291**	**100**	**3,661,517**	**100**

備考 1. 滿洲外國貿易統計年報による

2. 本表には糖蜜角砂糖及白棒砂糖を含まず

c. 製糖工場能力 (擔)

工場名	一期間製造能力	備考
滿洲製糖會社		
奉天工場	約 130,000	昭和2年以降操業休止、昭和11年1月南滿製糖より滿洲製糖に買收せられ4月より操業開始
鐵嶺工場	約 170,000	同じく昭和2年以降操業休止滿洲製糖に買收せられ本年11月末操業開始豫定
哈爾濱工場	約 100,000	昭和5年以降操業停止、滿洲國政府より滿洲製糖に買收せられ本年11月末操業開始せり
北滿製糖會社		
阿什河工場	約 100,000	
計	約 500,000	

備考 製造能力は昭和12年5月滿鐵調査月報5月號「北滿に於ける製糖工業の現況」による

滿洲製糖に於ては連京線范家屯に工場設置計畫あり (昭和12年9月13日吉林鐵路局情報)

北滿に於ける甜菜製糖可能期間は11月10日より翌年3月20日迄とされ休日事故等を控除した作業日數の期間120日と推定される(滿鐵經調「滿洲甜菜糖業」による)

滿洲製糖哈市工場(舊呼蘭工場)は豫て改修の所11月末完了製糖を開始することとなつた、日産能力は400噸と云はれる。

(四) 原價計算

1935年度生産費 (砂糖1布度當)

(イ) 原料代	1.70404圓
(ロ) 製造費	0.96635圓
(ハ) 工場修理費	0.16913圓
(ニ) 工場引込線費用	0.06070圓
(ホ) 一般經費	0.33499圓
(ヘ) 本社營業費	0.83364圓
計	4.06885圓

備考 本表は滿洲某製糖工場に於ける生産費を示す

（附） 支那に於ける需給狀況

a. 砂糖需給表 （單位擔）

項目	1932年	割合	1933年	割合	1934年	割合	1935年	割合	1936年	割合
		%		%		%		%		%
生産高	5,280,000	47	5,280,000	55	6,415,400	61	6,890,600	62	6,890,600	72
輸入高	5,839,883	53	4,251,910	45	4,128,191	39	4,311,779	38	2,626,604	28
總供給高	11,119,883	100	9,531,910	100	10,543,591	100	11,202,379	100	9,517,204	100
輸二出高	2,170	—	2,899	—	1,537	—	187	—	445	—
消費高	11,117,713	—	9,529,011	—	10,542,054	—	11,202,192	—	9,516,759	—

備考

自1933年至1935年生産高は「砂糖年鑑」により、1932年及1936年は便宜夫々1933年1935年による。

b. 砂糖仕出地別輸入高 （單位擔）

	1932年	割合	1933年	割合	1934年	割合	1935年	割合	1936年	割合
		%		%		%		%		%
日本	1,215,470	—	996,145	—	1,137,376	—	1,766,748	—	928,483	—
臺灣	306,458	—	56,393	—	14,147	—	335,055	—	141,582	—
計	1,521,928	26	1,052,538	25	1,151,523	28	2,101,803	49	1,070,065	41
香港	1,638,237	28	943,195	22	956,823	23	590,145	14	500,137	19
爪哇	2,591,346	45	2,205,365	52	1,949,131	47	1,396,345	32	968,298	37
其他	43,792	1	45,981	1	63,141	2	214,257	5	84,252	3
總計	5,795,303	100	4,247,079	100	4,120,618	100	4,302,550	100	2,622,752	100
再輸出	725	—	8	—	13	—	10	—	—	—
純輸入	5,794,578	—	4,247,071	—	4,120,605	—	4,302,540	—	2,622,752	—

備考

○海關中外貿易統計年刊による。

第二十節 煙草

（一） 葉煙草

1. 作付面積及收穫高 （單位陌疋）

縣名	昭和8年		昭和9年		昭和10年 米國種		昭和10年 在來種	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
吉林省	—	—	4,400	1,044	14	8	11,560	6,003
○吉林	—	—	—	—	—	—	—	—
○永吉	2,028	427	810	322	—	—	3,200	1,808
○額穆	1,322	736	780	8	—	—	390	222
○敦化	774	223	160	36	14	8	203	87
○甸	1,606	390	460	114	—	—	1,299	722
○盤石	—	—	1,030	334	—	—	154	89
伊通	184	134	180	—	—	—	802	262
雙陽	85	34	80	2	—	—	214	113
九臺	—	—	30	10	—	—	280	153
長春	—	—	—	—	—	—	42	23
懷德	100	120	290	39	—	—	596	136
長嶺	—	—	180	80	—	—	314	112
乾安	—	—	—	—	—	—	26	7
扶餘	1,843	12	40	13	—	—	756	450
農安	—	—	110	32	—	—	848	349
德惠	—	3	10	3	—	—	209	124
榆樹	1,106	1,343	—	—	—	—	890	530
○舒蘭	420	86	240	51	—	—	1,332	803
郭爾羅斯前旗	—	—	—	—	—	—	5	2
龍江省	—	—	3,250	859	—	—	3,216	1,632
龍江	2,580	1,295	740	82	—	—	157	80
景星	—	—	10	1	—	—	29	14

	甘南	—	—	—	—	—	—	31	16
	富裕	11	6	30	9	—	—	17	9
	納河	—	—	170	57	—	—	223	114
	嫩江	19	4	50	10	—	—	33	17
	德都	—	—	—	—	—	—	82	42
	龍鎭	11	0	—	—	—	—	71	36
	通北	32	9	70	22	—	—	56	29
	克東	188	30	340	71	—	—	82	42
○	克山	184	48	190	72	—	—	284	145
	拜泉	1,227	397	330	94	—	—	433	220
	明水	132	2	90	13	—	—	184	98
	依安	—	—	70	6	—	—	143	73
	林甸	—	—	10	4	—	—	59	31
	泰康	—	—	10	2	—	—	20	11
	泰來	170	192	10	—	—	—	147	72
	鎭東	34	96	60	54	—	—	222	130
	大賚	268	260	130	—	—	—	153	89
	安廣	74	90	240	83	—	—	102	38
	洮安	406	197	440	147	—	—	300	165
	洮南	59	12	50	32	—	—	134	58
○	開通	—	—	0	1	—	—	59	28
	瞻榆	—	—	200	90	—	—	117	51
	突泉	—	—	10	9	—	—	78	29
	黑河省	—	—	30	10	—	—	33	16
	璦琿	147	42	10	4	—	—	4	2
	漠河	—	—	—	—	—	—	—	—
	鷗浦	—	—	—	—	—	—	—	—
	呼瑪	—	—	0	0	—	—	5	2
○	奇克	3	2	10	4	—	—	13	6

	遜河	—	—	—	—	—	—	6	3
	鳥雲	4	1	10	1	—	—	3	1
	佛山	3	21	—	1	—	—	2	1
	三江省	—	—	880	521	—	—	1,236	729
○	樺川	368	60	50	22	—	—	255	152
	富錦	170	165	220	191	—	—	183	109
	寶清	162	144	80	44	—	—	55	33
○	勃利	488	119	130	39	—	—	72	43
	依蘭	—	—	220	80	—	—	267	159
	方正	295	215	50	45	—	—	102	61
○	通河	276	179	80	84	—	—	66	39
	鳳山	—	—	0	0	—	—	14	8
	湯原	—	—	30	12	—	—	60	36
	蘿北	—	—	—	—	—	—	10	5
	綏濱	37	60	20	3	—	—	75	45
	同江	74	24	0	1	—	—	30	18
	撫遠	—	—	—	—	—	—	14	7
	饒河	—	—	—	—	—	—	33	16
	濱江省	—	—	6,010	1,564	—	—	5,873	3,265
○	呼蘭	1,446	94	400	52	—	—	406	209
	賓	1,235	200	870	12	—	—	387	230
○	阿城	922	448	410	144	—	—	250	149
○	五常	1,382	1,343	770	64	—	—	229	136
	雙城	—	—	—	—	—	—	848	505
	肇州	1,342	217	700	22	—	—	254	135
	蘭西	15	12	—	44	—	—	158	84
○	安達	82	11	10	4	—	—	90	48
	青岡	369	492	330	375	—	—	359	190

望	奎	92	112	280	238	—	—	297	153
海	倫	457	125	370	—	—	—	391	202
○綏	稜	277	43	100	35	—	—	45	23
綏	化	21	8	120	69	—	—	342	176
慶	城	125	20	350	157	—	—	222	115
鐵	驪	28	4	10	6	—	—	14	7
東	興	4	0	20	3	—	—	34	20
巴	彥	—	—	—	66	—	—	595	152
木	蘭	55	13	40	9	—	—	102	61
延	壽	—	—	30	10	—	—	101	60
珠	河	147	119	70	80	—	—	89	53
葦	河	15	6	10	3	—	—	28	17
寧	安	295	191	320	24	—	—	394	234
穆	稜	—	—	—	—	—	—	141	84
東	寧	111	54	100	23	—	—	33	20
密	山	—	—	220	81	—	—	175	104
虎	林	—	—	90	15	—	—	63	31
郭爾羅斯後旗		—	—	—	—	—	—	—	—
肇	東	—	—	390	28	—	—	126	67
間島省		—	—	560	286	—	—	561	253
延	吉	553	125	340	135	—	—	245	112
汪	清	27	9	50	26	—	—	69	32
琿	春	21	10	30	2	—	—	57	25
和	龍	155	251	140	123	—	—	170	76
安	圖	9	1	—	—	—	—	20	7
安東省		—	—	2,050	750	1,832	3,072	1,345	701
安	東	406	356	100	44	237	399	—	—
莊	河	350	120	340	98	178	83	170	80

岫	巖	16	1	80	11	21	16	169	75
鳳	城	965	1,687	970	51	1,250	2,425	8	9
寬	甸	197	78	10	3	56	83	120	123
桓	仁	160	62	100	39	85	62	74	32
通	化	87	71	150	196	5	4	274	104
輯	安	44	46	50	37	—	—	200	133
臨	江	215	216	20	271	—	—	249	87
撫	松	22	4	—	—	—	—	62	40
長	白	48	16	30	—	—	—	19	7
奉天省		—	—	7,410	4,265	691	917	6,194	3,882
瀋	陽	5	6	10	3	—	—	145	88
撫	順	—	—	10	3	—	—	50	18
本	溪	92	99	90	161	—	—	246	133
遼	陽	37	24	90	66	63	114	360	247
遼	中	41	24	360	220	—	—	233	128
海	城	217	166	50	2	—	—	132	67
營	口	—	—	—	—	—	—	41	19
蓋	平	21	7	40	1.365	53	5	138	103
復		97	47	120	0	575	752	129	74
新	民	12	3	60	72	—	—	53	33
鐵	嶺	31	13	50	8	—	—	158	167
法	庫	—	—	—	—	—	—	60	47
康	平	313	177	210	88	—	—	205	94
遼	源	—	—	350	2	—	—	332	196
雙	山	240	145	240	—	—	—	221	143
梨	樹	—	—	140	23	—	—	108	41
昌	圖	—	—	100	16	—	—	136	119
開	原	249	70	40	23	—	—	66	65
西	豐	430	877	510	247	—	—	343	212

西安	123	24	20	7	—	—	406	247
東豐	307	298	920	465	—	—	1,228	979
海龍	6,144	11,339	160	159	—	—	191	149
清原	32	8	310	—	—	—	505	67
興京	147	8	180	52	—	—	332	78
柳河	3,072	4,476	3,080	1,168	—	—	265	130
金川	18	7	80	13	—	—	294	143
輝南	479	233	170	93	—	—	139	56
濛江	29	17	20	—	—	—	78	39
錦州省	—	—	3,510	248	—	—	1,401	788
錦	—	—	—	—	—	—	67	36
北鎭	—	—	—	—	—	—	61	42
黑山	—	—	20	8	—	—	60	76
臺安	—	—	—	—	—	—	51	20
盤山	—	—	—	—	—	—	16	8
綏中	—	—	—	—	—	—	123	49
興城	21	1	—	—	—	—	21	8
錦西	—	—	20	—	—	—	22	15
義	14	24	20	21	—	—	25	11
朝陽	—	—	3,070	82	—	—	456	351
阜新	—	—	230	104	—	—	410	152
彰武	584	170	150	33	—	—	89	17
全滿總計	41,716	32,075	29,850	10,019	2,537	3,997	31,419	17,268

備考　昭和8年及9年は滿洲國實業部農務司：滿洲國農業統計に昭和10年は滿鐵産業部：滿洲農業統計に據る、參考迄に揭ぐ。
昭和8年度○印各縣の作付面積は換算に誤りあり該各縣面積の各々に0.4を乘ずる必要がある。
昭和12年度は熱河省其他を含む。
昭和8年度に於ける行政區劃は本表の區劃と異なるも都合上一表に取纏めた。
省作付面積收穫量は省內各縣合計と一致しない場合がある。
昭和11年及12年發表された數字無し。

2. 品種及收量

a. 品　　種

在　來　種　大部分手揉みとし煙草に供せられその一部分は製造煙草の增當材料に用ひらる。滿洲に於けるこの種の栽培地域は頗る廣範に互り殆ど全滿的に生產し得ると稱しても過言でないが經濟的見地より見る時は北緯45°以南の南滿東部一帶とす、收量は大體反當15貫乃至20貫である。次に2.3.品種の特質を記載すると

柳葉長菸	葉身長く葉先尖り香氣薄きも收量の多い品種で滿洲の各地に栽培さる。
大青筋菸	葉は長圓にして葉肉は薄く葉脈青色を帶び品質良好香氣普通にして收量多し。
鐵脚菸	葉は長圓にして葉肉は厚く香氣普通にして收量多し。
胎裏黃菸	葉は長圓にして鮮明稍香氣を有す。
琥珀香菸	大體胎裏黃菸に類似して居る。

米國黃色煙草　この內には幾多の品種を有するけれども從來滿洲に於て栽培されて居るものはイエロー、オロノコ種である。この黃色種は所謂火力乾燥煙草にして品質は概して世界の煙草の中等以下に屬する。

本種が兩切煙草原料として歡迎されるのは乾葉鮮色又は橙黃色を呈し芳香ある甘味を有すると葉身が分厚なるによる。

この種は滿洲國內何れの地方に於ても概ね生產し得るけれども北滿の如く氣溫低い地方に於ては品質粗惡となるのみならず往々未熟に終る恐れあり經濟地域は北緯43°以南の山岳地帶とす。

備　考　滿洲に於ける林植物品種の解說に據る。

b. 米國種黃色煙草試驗成績

試驗區別	陌當收量	平均品位	順位		摘要
			收量	品位	
イエロー、ホロノコ	1,573.0斤	8.3	7	7	
ブライト、イエロー	1,606.2	8.0	6	4	
キヤツシユ	1,624.0	7.5	5	1	
ヘスター、スインプルーブド	1,637.1	8.1	4	5	
インプルーブドホワイトステムホロノコ	1,860.2	7.6	2	2	
ジヌインイエローブライホル	1,786.2	7.9	3	3	
ゼネラルグランド	1,927.4	8.2	1	6	
バナンザ	1,463.9	5.2	—	—	以下昭和11年開始
キヤツシユ（秦）	1,663.5	6.8	—	—	
ジヤメイカ	1,517.0	7.4	—	—	
改良ツールン	1,608.0	6.3	—	—	
ヨーク	1,736.9	7.7	—	—	
改良ハイコ	1,837.9	6.9	—	—	
ボビツトグランビル	1,695.4	6.5	—	—	
ゴールド、ダラー	1,825.7	4.2	—	—	

備考　昭和12年9月滿鐵公主嶺農事試驗場發行、農事試驗場要覽(270頁)に據る。

本表は鳳凰城煙草試作場に於ける昭和7年より昭和11年に至る品種試驗成績である。

本表以外の試驗成績に關しては鳳凰城煙草試作場成績に記載しあり。

3. 收支計算

收入

年次	段當平均		備考
	收量	金額	
昭和7年	貫 38,600	円 76.07	內地人26名73町3の平均
昭和8年	45,750	84.75	〃 25名71町4の平均
昭和9年	26,550	62.98	〃 29名93町4の平均 近年になき多雨に禍せられ4割餘の減收を見る
昭和10年	32,353	69.98	〃 29名92町2の平均
昭和11年	37,549	82.33	〃 19名64町の平均
平均	36,160	75.22	

支出　（段當平均）

年次	直接費					間接費					計	賃當生產費
	種苗費	肥料費	消耗費	勞役費	小計	小作料	公課	組合費	建物及農具償却費	小計		
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
昭和7年	0.06	11.25	5.09	12.70	**29.10**	6.50	1.50	2.30	5.00	**15.30**	**44.40**	1.15
昭和8年	0.06	12.40	5.89	16.30	**34.65**	7.00	3.80	2.65	5.00	**18.45**	**53.10**	1.16
昭和9年	0.06	13.25	4.20	14.59	**32.10**	8.50	4.25	2.05	5.00	**19.80**	**51.90**	1.95
昭和10年	0.06	13.91	5.44	16.40	**35.81**	8.50	4.45	4.17	5.00	**22.12**	**57.93**	1.80
昭和11年	0.06	13.80	7.18	21.74	**42.78**	8.50	—	5.32	5.00	**18.82**	**61.60**	1.66
平均	0.06	12.92	5.56	16.35	**34.89**	7.80	3.50	3.30	5.00	**13.90**	**53.79**	1.54

差引益

年次	段當平均		
	收入	支出	差引益
昭和7年	76.07	44.40	31.67
昭和8年	84.75	53.10	31.65
昭和9年	62.98	51.90	11·08
昭和10年	69.98	57.93	12.05
昭和11年	82.33	61.60	20.73
平均	75.22	53.79	21.44

備考　本收支計算は鳳凰城附近邦人煙草耕作者26名の平均である。

本表は鳳凰城煙草試作場作成に係るものである。

4. 需給狀況

a. 煙草の需給表

年次	生產高	輸入高	輸出高（含再輸出）	推定消費量
昭和7年	349	6,980	4	7,325
昭和8年	352	15,296	78	15,570
昭和9年	655	16,974	150	17,479
昭和10年	(假定) 3,997	9,643	164	13,476
昭和11年	3,997	15,086	164	18,979
煙管用葉煙草	32,180	—	174	32,006

備考　滿洲產葉煙草の內紙烟用たるは米國種黃色葉煙草のみにして在來種葉煙草は煙管用なる故此處にては之を區別せり（昭和11年度）

輸入葉煙草は紙烟又は煙草製造用にして輸出葉煙草は煙管用として主として支那に仕向けらるゝものなり。

生產高中七、八、九年は「工業製品需給調查」十年は不明なる十一年（滿洲國農業統計）と同樣に假定す。

b. 葉 煙 草 輸 入 高

仕出國		昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
日本	數量	15,580	41,663	24,587	22,985	24,975
	金額	576	1,200	553	411	463
支那	數量	58,382	75,946	170,468	96,232	162,994
	金額	2,669	2,197	4,395	3,250	5,072
米國	數量	40,363	135,326	87,047	20,127	57,200
	金額	2,484	6,028	3,549	1,841	3,113
英國	數量	—	1,257	734	—	—
	金額	—	32	48	—	—
其他	數量	2,007	745	71	21,372	6,571
	金額	89	46	13	565	200
合計	數量	**116,333**	**254,939**	**282,907**	**160,716**	**251,440**
	金額	**5,819**	**9,503**	**8,558**	**6,067**	**8,848**
	(瓲換算)	**6,980**	15,296	16,974	9,643	15,086

備考 1. 單位 數量 擔
金額 千國幣圓
2. 擔=0.06瓲にて換算せり。
3. 滿洲國貿易統計に依る。

c. 葉 煙 草 輸 出 高

仕向國		昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
日本	數量	4	—	—	29	12
	金額	161	16	—	869	365
支那	數量	15,588	8,018	6,313	3,938	2,887
	金額	459,487	288,736	193,270	111,890	72,960
合計	數量	**15,592**	**8,018**	**6,313**	**3,968**	**2,899**
	金額	**459,648**	**288,752**	**193,270**	**112,759**	**73,325**

備考 1. 單位 數量 擔
金額 國幣圓
2. 滿洲國貿易統計に依る。

d. 葉 煙 草 の 再 輸 出 高

仕向國		昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
日本	數量	不詳	339	71	—	—
	金額		17,528	4,965	—	—
支那	數量	不詳	961	1,330	1,160	1,735
	金額		28,834	44,781	48,652	51,370
香港	數量	—	—	1,106	1,570	—
	金額	—	—	70,056	122,403	—
合計	數量	**73**	**1,300**	**2,507**	**2,730**	**1,735**
	金額	**6,144**	**46,362**	**119,802**	**171,055**	**51,380**

備考 1. 單位 數量 擔
金額 國幣圓
2. 滿洲國貿易統計に依る。

(二) 加 工 煙 草

1. 概 說

滿洲に於ける煙草工業は英米トラスト系及東亞煙草系の兩者に於て殆んど獨占し、英米系の啓東烟公司が60%東亞煙草が24%見當の生產高を示しつゝある狀態にして事變後に於ける狀勢の好轉が東亞煙草の勢力異常なる躍進をなし緩慢ながらも漸次英米系の勢力を驅逐し加ふるに新設滿洲煙草の操業開始と共に今後益々英米系煙草の滿洲に於ける勢力は減退の一途を辿るものと思ふ。

2. 需 給 狀 況

a. 紙 卷 煙 草 の 需 給 表

年次	生產高	輸出高	輸入高	推定消費高
昭和7年	625,000	38,913	75,418	661,605
昭和8年	920,000	11,374	59,134	967,760
昭和9年	1,210,000	569	84,336	1,293,767
昭和10年	1,236,000	2,191	59,847	1,293,656
昭和11年	1,356,000	1,951	36,099	1,390,148

備考 1. 數量單位は萬本とす。

b. 紙卷煙草生產高及製造能力 (單位千本)

工場名	所在地	生產高	割合	製造能力
滿洲煙草股份有限公司	新京	▲ 1,000,000	% 7.37	1,500,000
啓東煙公司奉天工場	奉天	4,438,335	32.72	4,920,000
〃 遼陽工場	遼陽			
〃 哈爾濱工場	哈爾濱	2,773,324	20.45	3,000,000
東亞煙草株式會社大連工場	大連	▲ 512,680 (※ 302,945)	3.78	810,000
〃 營口工場	營口	1,971,463	14.53	2,970,000
〃 奉天工場	奉天	956,475	7.05	1,350,000
東洋煙草合資會社	大連	※ 10,100	0.07	48,600
遼寧煙公司	奉天	250	—	150,000
中央煙公司	奉天	276,988	2.04	300,000
大陽煙公司	奉天	1,056,375	7.79	1,100,000
兩陽煙公司	奉天	245,318	1.81	250,000
遼東煙公司	奉天	130,595	0.97	140,000
盛記煙公司	奉天	52,513	0.39	120,000
福來煙公司	奉天	12,875	0.09	120,000
協和煙公司	奉天	69,775	0.51	150,000
第一煙公司	奉天	17,075	0.12	18,000
秋林洋行	哈爾濱	35,260	0.26	50,000
南方洋行	哈爾濱	3,043	0.02	5,000
ロバート兄弟商會	哈爾濱	266	—	300
裕豐泰	哈爾濱	129	—	200
プリプリヨフ	哈爾濱	22	—	30
カレトラエフ	哈爾濱	20	—	30
合計		13,562,886	100.00	17,002,160

備考 本表は實業部統制科「重要產業の規模に關する調查資料」に依る。
生產高は康德元年7月より2年6月迄とす、但し※は滿洲工場統計(昭和10年)▲は昭和11年度に依る。
單位は千本とす。
附屬地內生產高は課稅數量に不課稅數量を1.5倍と推定加算せるものなり。
製品は約 220種類に及びスピーヤを含む以上のもの20%にして約80%はスピーヤ以下の下級品なり。

c. 製造煙草の輸入高

種別	仕出國		昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
紙烟	日本	數量	3,859	6,781	16,266	14,291	10,458
		金額	109	143	443	342	191
	支那	數量	53,411	35,778	56,435	33,363	16,264
		金額	2,577	741	1,527	730	434
	ロシア	數量	5,658	2,316	1,863	65	—
		金額	116	73	47	2	—
	英國	數量	12,170	13,734	9,903	10,796	3,898
		金額	805	721	598	748	310
	合計(含其他)	數量	**75,418**	**59,134**	**84,336**	**59,847**	**36,099**
		金額	**3,651**	**1,734**	**2,678**	**1,934**	**1,202**
葉卷		數量	248	382	968	372	197
		金額	25	4	72	41	24
刻煙草		數量	1,964	558	2,580	1,963	1,866
		金額	143	31	119	87	84
其の他煙草		數量	—	—	—	—	—
		金額	130	177	237	197	427
合計		金額	—	—	—	—	—

備考 單位金額千國幣圓 數量 紙煙=萬本 葉卷=千本 刻=擔
滿洲國貿易統計に依る。

b. 製造煙草の輸出(含再輸出)高

種別	仕向國		昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
紙烟	日本	數量	35,417	11,257	234	1,213	1,359
		金額	689	115	8	48	52
	支那	數量	2,395	117	242	911	217
		金額	116	14	21	41	26
	合計(含其他)	數量	**38,913**	**11,374**	**569**	**2,191**	**1,951**
		金額	**839**	**230**	**29**	**32**	**89**
葉卷		數量	—	16	12	1	—
		金額	—	1	1	—	—
刻煙草		數量	67	67	14	15	15
		金額	6	6	2	3	3
其の他		數量	—	—	—	—	—
		金額	22	37	19	51	3
合計		金額	—	—	—	—	—

備考 單位は金額=千國幣圓 數量 紙烟=萬本 葉卷=千本 刻=擔
滿洲國貿易統計に依る。

第二十一節　大豆及油料子實

(一) 取 引 狀 況

1. 大豆の配給機構

(イ) 國內に於ける配給

國內に於ける配給機構は地方市場と中央市場とに大別する事が出來る。地方市場とは鐵道沿線又は沿線外奥地の生產地帶に於ける市場であつて地方糧棧が生產者より直接買付を行ふ地方的仲繼市場である。中央市場は輸出商又は大糧棧が此處に本據を構へ大量の大豆（現品又は所有權）の集散が行はれ海外との直接取引を行ふ大市場であつて、國內に於ける大豆取引市場の支配的地位に立つてゐるものである。一般に大連哈爾濱の兩市場を以て後者とし、其の他の國內中小市場は前者に屬するものとして區別されてゐる。

然らば斯の如き市場を通じ、如何なる機關を經て大豆の集散が行はれるか以下これを概述しよう。

A 地 方 糧 棧

生產地域に店を構へ配給機構の末端の蒐集機能として、農民が馬車で搬出して來る大豆を直接或は仲介者（所謂接車的と稱して糧棧に雇傭せられてゐる者或は單に仲介手數料を目的とする仲介人）を通じ院內に引き入れて買付を行ふ。

これ等地方糧棧は農民の生活必需品たる雜貨その他の商品の販賣、油房、燒鍋、當鋪等を兼營し農民の生活上に各種の便益を與へ密接なる個人的關聯を保つてゐる。特に農民資金の缺乏期に於ては收穫後の大豆の引渡を條件として金融及物品の貸與をも行つてゐる。又出廻期には店員を派して運搬中の馬車豆を途中に邀へ、出境稅（縣境その他の地點で徵收せられる糧石稅）の立替等を行つて集貨に努め、これを中央市場の糧棧或は輸出商に賣却する。

その他地方糧棧に附隨して大車店なるものがある。之れは直接の配給機構ではないが、遠路馬車運搬をなして來る農民に對して人馬を宿泊せしめると共に取引事情に疎い農民に豫め市況を紹介し、或は賣込先の斡旋等を行ふ仲介業を兼ね宿屋業者であつて、これ等も亦側面的に大豆の配給を援けてゐる。

B 中央市場大糧棧

地方糧棧の蒐集したものを更に大量に集め、これを輸出商に賣却する。集貨のためには地方糧棧に店員を派して（外櫃と稱す）出廻期中常駐せしめ、或は地方糧棧よりの派遣員を自己店內に駐在せしめ（老客兒と稱す）取引上の連絡を圖つてゐる。

以上の中央地方糧棧は多く聯東聯財關係にあつて（經營主、又は資本主を共通とすること）廣く集貨網を張り大量蒐集に努めてゐる。

C 仲 介 人

中央市場及地方市場等に在つて糧棧相互或は糧棧と輸出商との間に介在し、手數料をとつて賣買の仲介を行ふものである。

D 輸 出 商

海外輸出の目的を以て國內に於ける支店又は出張所等を通じ、或は中央、地方市場に於ける糧棧を通じて大量に集貨しこれを海外に輸出するものである。

E 取 引 所

關東局官營取引所として大連、新京の二箇所、民營として哈爾濱交易所がある。これ等の市場に於ては現物取引及先物定期清算取引が行はれ、これにより取引業者は大豆の實需給は勿論手持品、賣買約定品の價格變動より來る危險を避ける等大豆取引上重要な役割をなしてゐる。

その他全滿主要集散地には取引市場がある。安東の糧市等がその代表的なもので、ここでは現物並に延取引を行つてゐる。

(ロ) 海外に於ける配給

A 日本其の他の東洋市場

滿洲國商人と輸入國に於ける輸入商又は大量消費者との直接或は輸入プローカーを經ての取引及輸出商の輸入國に於ける本店、支店等を通じての取引が行はれる。更に之が國內の問屋を經て小賣商より消費者に配給される。

B 歐 洲 市 場

世界の油料子實消費市場たる歐洲に仕向けられる大豆は從來他の油料子實と同樣殆んど全部ロンドン市場を通じて取引が行はれて來た。英國、和蘭、丁抹、瑞典等の諸國に於ては大豆のみならず輸入油料子實の大部分を所謂「ロンドンブ

ローカー」の手により供給を仰ぎづつあるが、歐洲最大の需要國たる獨逸に於ては1933年にナチス政權樹立に伴ひ、その經濟政策の一として滿洲大豆の輸入も自國商社の手によつてなすべき方針を樹てられ遂に1935年2月獨逸油房原料共同購入會社(D.O.R)を設立し、次で同年8月には同社原料買入を一手に委託してゐたユニレバー會社(和蘭及英國の資本)との特約を解除し、爾後D.O.Rが直接購買することゝなり、こゝに在來の滿洲大豆對歐取引形態は一變するに至つた。

卽ち獨逸に於ては各油房の所要數量と各賣手のオファーを D.O.R. に於て取纏め輸入監視所に通知し、輸入監視所は油料子實の需給關係及これが支拂に充つべき外國爲替の狀況を照合して之を許可する。この許可を受けたD.O.Rは之を實際の買手たる油房と賣手に通告し、こゝに始めて正式の賣買約定が成立するのである。

2. 取引方法並慣習

(イ) 農民對糧棧の取引

これには農民の搬出するものを途中に迎へ、又は集市によつて買付け自己院內に於て受渡を行ふ現物取引と靑田面積、又は一定收穫數量を約定する二つの先物取引とがある。先物取引は兩者とも農民の資金缺乏期たる春耕期、除草期に約定して代金の支拂をなし、收穫期に大豆の受渡を行ふ。而して現物先物ともに賣買の慣習は大略次の通りである。

取引上の呼値	1斗（北滿に於ては舊習一布度による）
取引單位	1石
受渡場所	糧棧院內
受渡標準品	當該年度の普通品

(ロ) 地方糧棧對中央市場又は輸出商の取引

これらの間に於ても現物及先物取引の二種がある。先物取引は期限最長3ヶ月、短期は1箇月又は10日位である。其の代金決濟方法は

A 賣買契約と同時に賣方に代金を交付するもの

B 賣買證據金として代金中の一部を交付するもの

C 契約のみにて代金の交付、又は證據金の交付をなさざるもの

の三種がある

取引の慣習としては大體次の如くである。

呼値	百斤（又は一布度）
取引單位	1車
受渡場所	驛（鈷）又は倉庫渡
受渡品質	普通品

(ハ) 海外取引

海外取引は先物のみであつて大體左の如き商習慣になつてゐる。

A 對日本取引

取引期間	1ヶ月乃至3ヶ月
呼値	100斤
取引單位	1車(352袋)
受渡場所	內地CIF又は海港F.O.B.
受渡品質	混保檢査品を基本とし其の他は之に準ず（特殊大豆は銘柄による）

B 對歐洲取引

取引期間	3ヶ月乃至6ヶ月、海港地積出日を以て期日とす
呼値	一英噸英貨建ロンドンCIF相場
取引單位	一英噸
受渡場所	輸入港沖渡
受渡品質	同月內積出品の平均標準品

(二) 大豆・豆粕・豆油

1. 消費及輸出

大豆は滿洲に於ける代表的農產品で、世界產額の六割以上を滿洲に於て生產し、且つ滿洲輸出貿易の三割乃至四割を占めてゐる。而もその耕作面積は建國前430萬陌に達した記錄さへあり、近年の不振にも拘らず全耕作面積の25%350萬陌に上り依然第一位たるを失はない。

殊に生產高の5割乃至7割5分は大豆のまゝ海外輸出に充てられ（次表參照）殘る國內消費もその7割乃至8割は國內油房工業の原料として利用せられ、豆油

豆粕に加工せられて海外に輸出せらるるのである。以てその重要性の一端を窺ふに足らう。

かくの如き輸出商品として重要性を存する大豆もその品種極めて多くその代表的なものは黄豆、青豆、黒豆等で、就中黄豆は輸出大豆の9割7分以上を占め、大豆卽ち黄豆と稱するも過言ではない。含油量最も多く食用飼料及び搾油用に供せられる。

近年國內の不作に加ふるに滿洲市況の不振就中最大需要國たる獨逸、支那、英國等各市場の人爲的輸入抑壓策に市場を封鎖せられ、數量的減に加へて金額では市價値下の影響を受けて累年萎微沈衰をつゞけ昭和10年には昭和7年基準數量指數69價格指數58と慘減、輸出額に對する百分率も昭和7年の40%から昭和10年には33%に低下し、更に米國に於ける大豆增產計畫も加はつて、前途暗澹として光明を見出し得ず、大豆減產論さへ識者間に論議せらるゝ情勢を招來したが、俄然昭和11年は國際的環境の好轉、市價の著しい恢復により數量的には指數77と建國年度には尙ほ相當の距離があるが、金額では指數96と昭和7年に次ぐ巨額而も純輸出總額の41%と建國以來の高率を示現し、大豆輸出、否滿洲國輸出貿易にも回春の喜びを與ふるに至つた。

建國前に於ける主要輸出地方を見れば歐洲市場6割、日本2割、支那2割、其他5分となり、歐洲市場が最大の需要先にして今日も尙ほ變化なきこと勿論である。これを國別に見るとき著しき變化を來してゐる。卽ち日本向百分率は昭和7年の14%より累年增進して昭和10年には30%、翌11年は29%と稍低下したとは謂へ、最大輸出國となり建國年度の第4位より昭和9年には第3位に、翌10年及び11年は獨逸及埃及（埃及に於て需要せらるゝものにあらず結局は歐洲各國に需要せらるゝものなり）を遙かに凌ぎ第1位に躍進、日滿依存關係をこゝにも反映し來つた。

これに對し支那は滿洲國品に對する課稅を行ひ自繩自縛に陷つて建國前の第1位は累年低下して昭和9年第5位となり、全輸出額に對する地位も20%より9%に減じ、昭和9年に比し昭和11年度は指數42と6割方の慘減である。

次いで建國以來最大得意先として出現した獨逸は、昭和8年全輸出額の33%と約3分の1を輸出してゐたが、同國爲替の拂底せるために昭和9年來漸減して

翌10年には其の首位を日本に譲り第2位に下つた。昭和11年滿獨貿易協定の成立は大豆の對獨逸輸出に劃期的飛躍を齎すものと期待せられたのであるが、實情は同國の經濟的逼迫から市價の好調に金額では前年より55%の增となつたが、數量的には僅かの增加に止まり、百分率は却て16%に低下、建國來の最低率を示して第3位に轉落した。

また昭和7年基準指數は數量48金額58と遙かに及ばざる狀態で經つた。これに對し埃及は時に消長あるも通過市場としての重要性は依然變らず昭和7年の17%から翌8年は22%9年には29%と第1位に上り、10年13%と金額で約3分の1と激落したが、11年には又復23%に增進し昭和7年基準指數數量140、金額131と建國來の記錄を作り日本に次いで重要な市場をなしてゐる。

かくて大豆の輸出市場として日本市場の重要性加重、埃及通過取引の增加、支那及獨逸市場の退潮が建國後の著しい變化として特筆せらるべき價値を有する。（次表參照）

大豆滿洲需給表　（單位千噸）

年次 / 管內	昭和7年		昭和8年		昭和9年		昭和10年		昭和11年	
	數量	百分率	數量	百分率	數量	百分率	數量	百分率	數量	百分率
全滿生產高	4,290	100	4,627	100	3,372	100	3,809	100	4,175	100
滿洲國管內	4,268	99	4,601	99	3,347	99	3,785	99	4,175	100
關東局管內	22	1	26	1	25	1	24	1	—	—
全輸出高	2,573	10	2,365	51	2,498	74	1,766	46	1,968	47
地元消費及工業原料高	1,717	40	2,262	49	874	26	2,043	54	2,207	53

大豆輸出累年表　（單位數量千擔）（價額千圓）

年次	實數		輸出額	指數	
	數量	金額	百分比	數量	金額
昭和7年	42,536	225,114	37.5	100	100
〃 8年	39,112	169,095	39.9	92	75
〃 9年	41,309	160,349	38.2	97	71
〃 10年	29,204	130,053	33.2	69	58
〃 11年	32,540	216,475	41.0	77	96
五箇年平均	36,940	180,217	38.0	87	80

大豆國別輸出累年表　其の1　（單位　數量千擔）（價額千圓）

仕向國別＼年次	昭和7年			昭和8年			昭和9年		
	數量	價額	百分比	數量	價額	百分比	數量	價額	百分比
日本	5,568	32,464	14.4	7,382	33,589	19.9	8,238	31,298	19.5
朝鮮	906	3,161	1.4	1,035	3,683	2.2	2,659	8,353	5.2
獨逸	10,474	59,643	26.5	12,203	54,932	32.5	8,887	36,258	22.6
英國	1,439	7,969	3.5	1,357	5,983	3.5	3,173	13,714	8.6
埃及	6,998	38,719	17.2	8,362	37,509	22.1	11,329	46,179	28.8
中華民國	7,247	45,139	20.1	1,711	7,803	4.6	2,579	9,031	5.6
蘇聯	7,521	23,337	10.4	4,010	11,827	7.0	2,458	7,824	4.9
香港	336	2,102	0.9	313	1,620	1.0	296	1,106	0.7
其他	2,117	12,580	5.6	2,738	12,137	7.2	1,685	6,585	4.1
合計	**42,536**	**225,114**	**100.0**	**38,112**	**169,095**	**100.0**	**41,309**	**160,349**	**100.0**

大豆國別輸出累年表　其の2　（單位　數量千擔）（價額千圓）

仕向國別＼年次	昭和10年			昭和11年			昭和7年基準指數		
	數量	價額	百分比	數量	價額	百分比	數量	價額	百分比
日本	8,589	38,992	29.9	9,378	62,912	29.1	168	194	—
朝鮮	1,172	4,527	3.5	1,776	9,413	4.2	196	197	—
獨逸	4,926	22,169	17.1	5,028	34,388	15.9	48	58	—
英國	4,047	18,215	14.0	3,128	21,411	9.9	218	269	—
埃及	3,619	16,284	12.5	7,280	50,558	33.4	140	131	—
中華民國	2,649	12,049	9 3	3,102	18,816	8.7	43	42	—
蘇聯	1,070	3,674	2.8	164	971	0.5	2	4	—
香港	307	1,447	1.1	253	1,741	0.8	75	83	—
其他	2,821	12,695	9.8	2,331	16,265	7.5	110	129	—
合計	**29,204**	**130,053**	**100.0**	**32,540**	**216,475**	**100.0**	**77**	**96**	—

2. 製油方法

製油方法の發達過程を見ると滿洲在來のものは凡て畜力による楔式壓搾法であつたが日清戰後、汽力による螺旋式壓搾法の創始せられて以來面目を一新し、更に小寺氏の創設にかゝる水壓式壓搾機の利用によつていよいよ近代工業化されたのであるが、進んで最近アルコール、或はベンヂン等による抽出法の工業化によつて更に新紀元が畫せらるゝことゝなつた。然し未だ現在に於ては各地工場の大部分は壓搾式であつて抽出式は大連豐年製油及滿洲大豆工業兩會社で操業してゐるに過ぎない。抽出式は壓搾式に比し生產費は增加するも品質優良にして用途も廣い。

滿洲油房搾油法

（イ）壓　搾　式

（1）楔式によるもの(丸粕)

楔を用ひ大豆を壓搾する方法で、作業は全然人力及畜力による原始的な小規模なものである。奥地にはこの式が多い。

（2）螺旋式によるもの(丸粕)

楔の代りに螺旋を用ひるもので、搾油の作業は人力によるが其他の作業は機械によることが多い。數から云へば此の式によるものが多い。

（3）水壓式によるもの

A 丸　　粕

螺旋に代ふるに水壓を用ふる新式の製油法で、現在大連其他に於ける大規模油房は此の式によつて居る。

B 板　　粕

壓搾式としては最も進歩したもので、强力な壓力を加へて製油するもので、粕は板狀である。哈爾濱カバルキン油房は此式による。

（ロ）抽　出　式

（1）ベンヂンを用ふるもの

大豆中の油分をベンヂンによつて抽出する方法で、滿洲に於ては大連の豐年製油のみである。

（2）アルコールを用ふるもの

本法の特色は從來の抽出式製油方法よりも油及豆粕共に品質が非常によく、その上レシチンと云ふ副產物がとれることである。卽ち油は食料に

豆粕は飼料及食料に供せられ、(小麥粉混入用にしてパン、菓子、其他調味料製造原料として使はれる) レシチンは醫業、製菓、皮革工業等の原料として貴重な用途を有する。

3. 製法別工場數、能力

大豆搾油工場は油房と呼ばれ、製粉業、高粱釀造業及柞蠶製糸業と共に滿洲に於ける四大工業の一にして、滿洲各地に散在し、南滿に於ては大連、營口、安東、北滿に於ては哈爾濱が其中心である。

滿洲主要油房工場の現勢

地方別	工場數	機械臺數		一晝夜製造能力		昭和11年生産高(千枚)
		水壓式	螺旋式	豆粕(枚)	豆油(斤)	
大連	43	2,099	973	139,598	697,990	19,457
營口	20	526	186	31,072	155,360	2,023
安東	21	152	1,176	31,424	157,120	1,672
哈爾濱	28	948	330	59,688	298,440	4,022
北滿各地	20	374	155	24,044	120,220	1,041
南滿各地	235	158	3,066	70,168	350,840	3,337
合計	367	4,257	5,886	355,994	1,779,970	31,552

而して最近硫安の進出、日本農村の疲弊による豆粕需要の減退及支那關稅政策による支那への輸出減により豆粕市場は慘憺たるものがある。

4. 輸出特産物の品質及輸出檢查

輸出特産物の經濟上の重要性については前述の通りであるが、これを品質に就いて見ると、大豆始め原料のまゝ輸出せらるゝもの多くはその耕作調製の方法甚だ粗雜であつて、夾雜物多く乾燥亦不十分且つ重量不足、包裝不備等幾多遺憾の點がある。

滿鐵は夙にこの點に着目し、これが改善と輸送上及收藏上の利便を增進する目的のために大正2年より大豆混合保管制度を設け、寄託品に對する檢查を實施し、その後豆粕、豆油及小麥に對してもこの制度を實施した。このほかに輸出穀類、豆粕及豆油の普通品證明檢查、包米水分檢查、蕎麥夾雜物檢查、製油

原料夾雜物檢查等を實施しつゝあり又民間團體に於ても安東輸出同業組合の豆粕檢查、營口輸出同業組合の豆粕其の他穀類檢查、間島省直營大豆品質檢查等が行はれつゝあるが、就中滿鐵の混合保管檢查はその規模に於て運用に於て容易に他の追隨を許さず、過去數年に滿洲特産の取引及品質改善の上に寄與するところ尠くない。然しながら種々の關係上日本に於ける取引上に或る程度の標準として認められてゐるが、歐洲其の他に於ては未だこの檢查を取引上の標準として認めらるゝに至つてゐない。

滿洲建國以來この點につき各方面に深き關心が拂はれつゝあつたが、康德2年特産物商品標準化委員會が組織され約1箇年に亘り愼重調查研究の結果康德4年9月17日を以て重要特産物檢查法の制定公佈を見、來る康德5年1月1日を期して國營檢查が開始さるゝことゝなつた。

5. 邦滿外商の勢力

滿洲に於ける特産三品の輸出推移に就ては前述せる如く其の年により多少の差異はあるが大體に於て年々增加の傾向を辿つて居る。然し乍ら最近2.3年間は收穫高の減少と海外諸國に於ける輸入制限及他種油料子實と硫安の目覺しき進出等によつて輸出の絕對的數量に於ては減少を見た。之等特産品の輸出は大體に於て日本向に對しては邦商、支那向に對しては滿商、歐洲向に對しては邦商及外商、南洋向に對しては邦商、滿商及外商、米國向に對しては邦商及外人の特産商によつて輸出されてゐるが滿洲事變後特に最近に於ては各國仕向に對する邦商の進出は相當目覺しい狀態を示してゐる。

附表によつて見る如く邦商の取扱にかゝる特産物は昭和6年度の51%より昭和10年度には65%に增加した。然し事變後8年の71%よりは近年減少の傾向にある。

外商の取扱にかゝる特産物は昭和6年度の20%より漸次增加し昭和9年度には24%を占むるに至つた。

又滿商の取扱にかゝる特産物は昭和6年度に於て29%を占めたるが其の後漸減して昭和9年度には11%に低下した。

之を要するに邦商、外商、滿商等の特産商が如何なる原因によつて前述の如き盛衰を示したるかは大體に於て次の如き原因によるものである。

(1) 邦商の占むる割合が從前に比して增加せるは滿洲事變後滿洲國の獨立は日滿不可分關係を形成し滿洲產業開發の任を負つて日本資本は所有形態に於て急速度に滿洲に浸透した。而して之等日本資本の進出は特產經濟部面に於ても相當進展し從つて邦商の活躍を擴大したのである。

(2) 外商の占むる割合が從前に比して增加せるは滿商の下落に依る比率の增大と歐洲向の近年優勢なる爲である。

(3) 滿商の占むる割合が從前に比して減せるは滿洲國の建國に依つて從來密接なる關係に於て結ひつけられてゐた支那本土資本との連繫が斷ち切られ支那本土資本は引揚げ之と共に滿商は非常なる減少を示した。而して支那本土資本の引揚げは在滿特產商の資本を縮少せしめ其れに加へて打續く特產恐慌に見舞はれ倒產せるもの多きに達した。以上の諸原因に依り滿商の衰退を見た。

更に昭和10年度に於ける輸出大豆に就て見るに邦商の取扱は全體の54%を占め外商扱は35%、滿商扱は11%である。

輸出豆粕に於て見るに邦商の占むる割合は88%にして絕對多數を占め外商扱は僅かに2%にして滿商扱も10%に過ぎない。

又輸出豆油に就て觀るに邦商扱は64%を占め外商扱は9% 滿商扱は27%である。

以上の如く特產三品を通じて如何に邦商の活動が優勢なるかゞ窺はれるのである。但し歐洲向大豆に關する限りに於て邦商が外商の爲に漸次其の地位を奪はれてゐる狀態である。

各國特產商別特產三品滿洲輸出數量表 (單位千噸)

自其年10月 至翌年9月	邦商		外商		滿商		計	
	數量	割合	數量	割合	數量	割合	數量	割合
昭和6年	2,201	51	837	20	1,143	29	**4,181**	**100**
〃 7年	2,116	62	835	25	449	13	**3,400**	**100**
〃 8年	2,394	71	676	20	317	9	**3,387**	**100**
〃 9年	2,029	69	515	17	404	14	**2,948**	**100**
〃 10年	1,771	65	662	24	300	11	**2,733**	**100**

(三) 油料子實

1. 輸出

油料子實は大豆其他雜穀の累年の不振に反して作付面積も年々增大し輸出高も累增の一途を辿つてゐる。これ歐米油脂工業の發達につれ、その歐米市場に於ける需要は年々增大して來た爲めであつて、殊にこゝ數年來世界的油脂原料の拂底に市價も著しく騰貴するに至り、油脂原料種實は最も惠まれた地位に上つた。

その對外輸出數量は昭和7年の116千噸より累年增大し、昭和10年には指數294, 344千噸となり建國以來の記錄を示し、其の金額も昭和7年の1,600萬圓より昭和10年3,570萬圓、指數222に上り更に翌11年は數量的には1割3分方の減にも拘らず金額では市價値上の影響を受けて 3,800萬圓の空前の記錄的輸出を見前年より7%250萬圓增となつた。而も昭和7年の特產輸出總額に對する地位は僅か3.4%に過ぎなかつたが、年々その率を增大して昭和10年には13%と頓に重要性を加へ、翌11年に於ても13%弱となり、すでに豆油とその地位を換へ昭和11年豆油輸出が2,300萬圓に滿たなかつたに對し、前記の如く 3,800萬圓と未曾有の巨額を算し、特產輸出不振の中にあつて異彩を放つてゐる。

これを更に細別すれば落花生が4割乃至5割でその主體をなし、蘇子大麻子これに次いでゐる。

輸出市場別に見れば蘇子、小麻子、棉實及莖麻子は大部分對日輸出に充てられるほかは各品とも歐米市場が殆んど大部分を占めてゐる。

先づ日本に向けられる油脂原料種實としては蘇子が最も巨額であつて、朝鮮を合し昭和7年260萬圓、卽ち99.8% に達し爾來百分率には消長を示しながらも金額では翌8年は300萬圓、昭和9年400萬圓、翌10年は740萬圓、11年には實に1,300萬圓を算し全輸出額の95%を保持し年々幾何級數的增大を示し、昭和7年基準指數數量で492、金額で504と數量・金額共45倍といふ驚異的增加を示現した。

胡麻子も對日輸出は昭和7年全輸出の97%120餘萬圓から累增して昭和9年は380萬圓と3倍以上に增大した。10年以後は減少の途を辿つたとはいへ、11年度には尙ほ98%を占め最大需要國たる點に於ては依然として變化がない。

歐米市場向の王座は落花生で、就中獨逸、和蘭、佛蘭西三國が最大需要國である。佛蘭西は近年頓に振はず昭和7年27%と第1位を占めてゐたが、11年は4%弱の55萬圓と約4分の1に激減、この中にあつて日本向輸出は逐年增加し、11年は120萬圓と昭和7年に比し2倍半となり、百分率も6%より8%に累增せることは特筆に値する。

小麻子は對獨輸出が壓倒的優勢を示し昭和7年の如き46%に達したが、昭和10年來輸入制限策により5%內外に慘落、これに對し米國向が獨逸の減を補ふ如く昭和9年340萬圓と60%翌10年は減退したとは云へ、尙ほ50%を占め、また日本向も累年增大し昭和9年以來20%を確保しつゝある。

棉實及蓖麻子は大部分が對日輸出に充てられ蓖麻子は11年度全輸出300餘萬圓のうち280萬圓即ち91%棉實も79萬圓の中99.9%までは對日輸出で、金額よりすればまだ左程重要性を有してゐない。

a. 油料子實滿洲輸出高表 (單位千圓)

種別	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
落花生	8,435	8,826	14,129	15,141	16,110
蓖麻子	790	1,703	2,013	2,795	3,036
棉實	320	438	570	1,464	792
小麻子	2,632	3,053	4,410	5,649	3,597
蘇子	2,618	3,051	4,152	7,533	13,818
胡麻子	1,276	4,664	5,865	3,122	832

b. 昭和10年油料子實生產高表 (單位千瓩)

省別 \ 品目別	落花生	蓖麻子	棉實	小麻子	蘇子	胡麻子
吉林省	—	662	—	10,715	30,647	2,115
龍江省	—	1,074	—	14,640	111,730	1,120
黑河省	—	—	—	19	—	—
三江省	—	5	—	466	156	104
濱江省	—	212	—	24,009	53,328	1,009
間島省	—	—	—	118	215	97
安東省	11	59	30	174	1,052	245
奉天省	46	8,694	183,171	3,767	9,792	6,160
錦州省	3	6,364	93,090	1,589	1,014	4,147
總計	**60**	**17,070**	**276,261**	**55,497**	**207,934**	**14,997**

第二十二節 棉花及綿絲布

(一) 棉 花

1. 作付面積及收穫高

a. 既往4箇年に於ける滿洲國棉花作付面積及收穫高表

省別	縣名	作付面積 (陌)				收穫高 (日斤)			
		昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
奉天	遼陽	17,510.00	32,603.20	19,156.46	19,881.06	36,771,000	59,863,640	20,114,283	20,234,119
	遼中	1,502.30	2,238.60	1,861.80	3,150.90	2,854,370	2,832,930	2,653,597	3,999,082
	海城	1,897.60	5,482.83	4,749.38	8,430.00	3,984,960	9,879,322	5,656,517	10,667,407
	蓋平	3,200.00	11,611.52	5,832.47	9,790.30	6,720,000	16,321,153	8,999,508	13,153,789
	復	1,400.00	300.00	355.61	339.40	2,660,000	412,800	339,687	346,353
	營口	180.00	592.20	162.96	532.20	324.000	626,580	243,582	659,220
	新民	591.30	892.02	533.87	686.22	709,560	1,077,874	567,838	481,859
	本溪	84.00	426.00	162.00	10.20	142,800	355,355	82,944	6,550
	瀋陽	300.00	84.78	6.30	2.28	390,000	58,285	4,190	1,516
	撫順	168.00	36.24	20.67	2.34	210,000	17,649	11,174	1,880
	鐵嶺	3.24	41.87	25.14	5.40	3,564	49,021	8,221	4,080
	法庫	324.00	224.64	261 45	162.36	291,600	116,251	84,518	55,750
	康平	1,229.34	2,127.91	2,114.64	2,058.00	1,106,406	2,144,951	1,697,712	71,172
	開原	2.16	22.20	39.48	70.04	3,780	25,974	29,097	2,005,601
	昌圖	52.80	102.54	34.86	—	50,160	86,400	50,160	—
	梨樹	—	199.23	73.60	—	—	58,794	35,106	—
	遼源	—	3.82	—	—	—	2,120	—	—
	雙山	—	10.38	—	—	—	6,068	—	—
	西豐	—	25.53	—	—	—	10,609	—	—
	清原	—	84	—	—	—	170	—	—
	新濱	—	13.62	—	—	—	5,455	—	—
	小計	**28,444.74**	**57,039.97**	**35,390.69**	**45,120.70**	**56,222,200**	**93,951,398**	**40,572,134**	**51,688,378**

	黒山	4,835.93	9,047.90	6,191.62	9,143.10	10,155,453	12,766,590	6,383,564	9,818,738
	北鎮	1,100.00	5,773.80	3,231.60	4,540.00	2,090,000	6,524,511	3,523,879	4,992,568
	錦	1,524.85	2,840.00	1,400.29	2,892.50	2,897,215	3,383,600	163,337	3,633,927
	義	5,277.00	8,383.22	2,787.33	8,075.94	11,081,700	12,195,902	3,378,245	10,417,332
	錦西	280.00	1,616.80	783.60	1,157.60	532,000	1,780,696	771,595	1,738,885
錦州	興城	882.00	297.75	261.69	501.15	1,587,600	344,699	223,556	559,311
	綏中	23.40	61.73	140.46	281.44	39,780	72,056	100,764	339,015
	朝陽	2,400.00	1,500.00	1,078.20	2,760.00	3,600,000	1,446,750	1,133,769	3,186,060
	阜新	750.00	1,308.00	738.00	1,322.25	750,000	1,705,000	750,350	1,566,799
	彰武	103.20	162.11	99.60	455.00	98,040	131,666	77,828	353,700
	臺安	1,000.00	2,015.14	1,137.00	1,933.08	1,200,000	1,527,680	1,374,234	2,574,759
	盤山	123.60	481.82	2,113.20	1,043.76	148,320	349,722	1,337,656	997,730
	小計	**18,299.98**	**33,488.27**	**19,962.59**	**34,105.82**	**34,180,108**	**42,228,872**	**20,686,777**	**40,179,304**
	凌源	900.00	968.00	842.40	1,087.00	1,260,000	1,433,870	1,347,840	1,505,578
	凌南	2,400.00	505.80	616.56	795.96	2,880,000	584,832	816,700	1,056,993
	平泉	180.00	12.60	12.00	79.44	216.000	11,655	14,580	103,272
	青龍	600.00	410.94	122.49	1,074.01	660,000	352,079	60,699	988,085
熱河	承德	57.00	63.05	—	63.92	57,000	75,758	—	53,926
	灤平	180.00	27.00	—	33.82	180,000	34,172	—	30,780
	隆化	30.00	—	—	—	27,000	—	—	—
	建平	600.00	192.00	—	—	780,000	69,120	—	—
	興隆	180,00	—	—	—	198,000	—	—	—
	小計	**5,127.00**	**2,179.39**	**1,593.45**	**3,134.15**	**6,258,000**	**2,561,486**	**2,239,819**	**3,738,634**
	安東	39.60	—	1.80	—	63,360	—	1,499	—
	莊河	168.00	18.57	1.50	18.30	210,000	11,917	1,377	16,432
	岫巖	96.00	3.90	13.86	26.00	122,200	2,262	13,070	20,800
安東	鳳城	276.00	50.76	7.32	5.70	358,000	38,070	1,588	4,332
	寬甸	—	22.45	—	—	—	13,001	—	—
	桓仁	—	58.68	—	—	—	31,378	—	—
	輯安	—	5.10	—	—	—	4,582	—	—
	小計	**579.60**	**159.46**	**24.48**	**50.00**	**753,560**	**101,210**	**17,534**	**41,564**
吉林	懷德	38.30	2.53	—	—	34,470	642	—	—
	小計	**38.30**	**2.53**	—	—	**34,470**	**642**	—	—
	總計	**52,489.62**	**92,869.62**	**56,971.21**	**82,410.67**	**97,448,338**	**138,843,608**	**63,516,264**	**95,647,880**

備考　本表は滿洲棉花協會發表の數字である

b.　昭和12年棉花作付面積及實棉豫想收穫高表

省別	縣名	作付面積（陌）				豫想收穫高（新制斤）			
		在來棉	陸地棉	改良棉	計	在來棉	陸地棉	改良棉	計
奉天省	復	△ —	366.0	32.0	**398.0**	—	606,518	54,600	**661,118**
	蓋平	△ 558.2	10,188.6	670.0	**11,416.8**	915,448	14,773,470	1,274,074	**16,962,992**
	營口	△ 95.0	593.0	100.0	**788.0**	95,095	576,989	126,700	**818,784**
	海城	△ 2,516.0	9,289.9	664.9	**12,470.8**	3,482,144	12,309,117	1,198,632	**16,989,893**
	遼陽	△ 15,924.2	5,070.8	327.0	**21,322.0**	22,835,303	6,551,474	606,970	**29,993,747**
	遼中	△ 3,736.0	70.0	169.3	**3,975.3**	4,856,800	84,000	262,176	**5,202,976**
	新民	△ 846.2	—	30.0	**876.2**	522,952	—	48,360	**571,312**
	本溪	15.7	—	—	**15.7**	12,098	—	—	**12,098**
	撫順	3.1	—	—	**3.1**	3,144	—	—	**3,144**
	瀋陽	0.3	—	—	**0.3**	237	—	—	**237**
	鐵嶺	2 9	—	—	**2.9**	2,628	—	—	**2,628**
	開原	26.5	—	—	**26.5**	25,312	—	—	**25,312**
	法庫	98.5	—	—	**98.5**	109,880	—	—	**109,880**
	康平	1,594.0	—	—	**1,594.0**	1,864,096	—	—	**1.864,096**
	小計	**25,416.6**	**25,578.3**	**1,993.2**	**52,988.1**	**34,725,137**	**34,901,568**	**3,591,512**	**73,218,217**
錦州省	黒山	8,480.0	1,501.0	580.0	**10,561.0**	12,168,800	2,228,985	1,294,800	**15,692,585**
	臺安	2,199.7	594.0	67.0	**2,860.0**	2,209,700	650,000	90,000	**2,949,700**
	盤山	—	—	—	—	—	—	—	—
	北鎮	△ 4,542.8	—	311.0	**4,853.8**	5,451,360	—	497,600	**5,948,960**
	錦	△ 4,122.0	—	283.9	**4,405.9**	4,534,200	—	291,900	**4,826,100**
	錦西	△ 1,180.3	588.0	122.3	**1,890.6**	1,897,922	764,400	200,572	**2,862,894**
	興城	△ 503.6	810.5	124.1	**1,438.3**	654,680	1,134,700	248,200	**2,037,580**
	綏中	△ 150.0	589.0	125.0	**864.0**	210,000	824,600	225,000	**1,239,600**
	義	△ 7,680.0	1,830.0	497.5	**10,007.5**	9,984,000	2,379,000	671,625	**13,034,625**
	朝陽	△ 2,339.1	4,700.0	628.0	**5,328.0**	—	6,345,000	942,000	**7,287,000**
	阜新	△ —	0.1	15.0	**2,354.2**	3,040,830	134	25,890	**3,066,854**
	彰武	△ 108.8	—	—	**108.8**	85,796	—	—	**85,796**
	小計	**31,305.6**	**10,612.6**	**2,753.8**	**44,672.0**	**40,237,288**	**14,326,819**	**4,487,587**	**59,051,694**
熱河省	建昌	△ 15.3	2,116.0	68.8	**2,200.1**	18,054	2,922,196	113,520	**3,053,770**
	青龍	※ 285.7	788.3	—	**1,074.0**	315,433	870,269	—	**1,185,702**
	寧城	※ 47.6	31.8	—	**79.4**	74,355	49.571	—	**123,926**
	承德	—	63.9	—	**63.9**	—	64,711	—	**64,711**
	灤平	—	12.6	—	**12.6**	—	13,761	—	**13,761**
	小計	**348.6**	**3,012.6**	**68.8**	**3,430.0**	**407,842**	**3,920,508**	**113,520**	**4,441,870**
安東省	莊河	19.7	—	—	**19.7**	26,277	—	—	**26,277**
	岫巖	4.4	—	—	**4.4**	2,317	—	—	**2,317**
	安東	4.2	—	—	**4.2**	4,190	—	—	**4,190**
	鳳城	—	※ 5.7	—	**5.7**	—	5,198	—	**5,198**
	小計	**28.3**	**5.7**	—	**34.0**	**32,784**	**5,198**	—	**37,982**
	總計	**57,099.1**	**39,209.2**	**4,815.8**	**101,124.1**	**75,403,051**	**53,154,093**	**8,192,619**	**136,749,763**

備考　○本表は各縣公署及棉花協會駐在技術員調査報告を取纏めたるものにして滿洲棉花協會發表のもの
○△符號を附せるは棉花協會技術員駐在縣を示す
○※符號を附せるは調査未了に付前年同樣と推定計上したものである
○盤山縣は8月4日—25日の大水害に因り全滅と看做す

2. 品種及收量

a. 品　　種

品　　種	特　　徴
鄭家屯白種系品種	早熟種で、纖維細く長く、單獨で經濟的には32番手まて紡出が出來る、繰棉歩合は稍低い。 滿洲棉花地方の最北部に栽培すべきもので、好適地域は康平縣を中心とする遼河西岸地方が擧げられる。北は鄭家屯附近迄栽培が可能である。
赤木系品種	滿洲に於ける中熟種にして、繰棉歩合は前者に比し稍高い、纖維太く短い、單獨では普通23番手の紡出可能である、奉天以南連京線及奉山線並錦承線沿線の諸縣を適地とす、幼苗時代低溫過濕の時はフザリウムに罹り易い。
陸地棉早熟種	關農1號及木浦113號は共に陸地棉としては極めて早熟種であるが滿洲に於ては晩熟種に屬す。 纖維は鄭家屯白種より少しく劣るが纖維は長い、普通30番手程度まで單獨紡出可能である。 海城縣及黑山縣以南の連京線沿線の諸縣と錦承線以南の義、朝陽、凌南の諸縣を適地とす。 花蕾形成當初より開花頃迄螟蟲の害に對し特に弱い

b. 試　驗　成　績　(其の1)

品　種　名	平均年數	開花期	開絮期	絲棉收量(陌當)	收量比率 昭10	昭11	平均	繰棉歩合	纖維量	纖維張力
		月日	月日	瓩				%	粍	瓦
赤木黑種	1	8. 2	9.25	94.3	100	—	—	21.8	22.7	5.8
赤木黑種65—11	1	7.27	9.17	304.2	—	100	—	25.4	23.4	7.1
鄭家屯白種	2	7.26	9.13	284.7	263	106	185	21.5	27.5	6.2
遼陽1號	1	7.26	9.12	393.2	—	129	—	24.8	27.4	6.8
森岡	1	8. 1	9.25	159.5	169	—	—	27.6	25.7	6.4
紫蘇2號	2	7.29	9.18	208.4	202	74	138	23.2	26.4	6.1
龍岡103	2	7.28	9.24	217.4	238	69	154	26.7	25.6	6.7
King's 113—4	2	8. 1	9.30	219.6	132	103	118	33.0	25.3	5.1
金州King's 315	2	8. 1	10. 4	164.1	145	63	104	32.7	25.1	4.3
金州King's 334	2	7.31	9.30	210.7	202	76	139	33.7	25.2	4.8
關農1號	2	7.31	10 .1	184.1	137	78	108	33.2	25.8	5.0

備考　1. 本表は遼陽棉花試驗地に於ける試驗成績である
　　2. 滿鐵農事試驗場要覽249頁の遼陽に於ける試驗成績に據る

c. 試　驗　成　績　(其の2)

品　種　名	平均年數	開花期	開絮期	繰棉收量	赤木黑種を100とせる收量比率 昭3	昭4	昭5	昭6	昭7	昭8	平均	繰棉歩合	纖維長	纖維張力
		月日	月日	瓩								%	粍	瓦
赤木黑種	6	7.20	9. 4	316.0	100	100	100	100	100	100	100	25.7	24	8.4
鄭家屯白種	6	7.18	8.29	269.3	98	64	79	152	93	77	94	23.4	28	6.9
森岡	5	7.22	9.11	431.5	—	118	143	181	125	115	136	31.3	26	7.7
紫蘇2號	4	7.29	9.19	380.5	—	96	142	126	122	—	122	33.8	25	8.8
龍岡	6	7.24	9.12	359.5	135	106	117	139	114	104	118	27.9	27	7.8
King's 113-4	5	7.25	9.19	395.5	—	84	124	227	101	125	132	35.3	27	5.5
King's 449	6	7.26	9.22	400.7	124	100	133	286	83	127	142	34.6	27	5.9
Turkestan1306	4	7.26	9.21	401.7	—	—	99	228	99	127	138	34.9	27	5.2
關農1號	1	7.19	9.10	597.6	—	—	—	—	—	138	—	38.3	29	8.0

備考　1. 滿鐵農事試驗場要覽(249頁)に據る
　　2. 本表は熊岳城に於ける試驗成績である
　　昭和9年以降熊岳城棉花部門は遼陽棉花試驗地に移された

3. 優良品種

(1) 遼陽一號

「遼陽1號」は滿鐵棉花試驗地で育成したる早熟豐産良質の優良種で、昭和4年に熊岳城農事試驗場で開原錢家店の二地方より取寄せた滿洲在來棉鄭家屯白種(最早熟)を原とし純系分離を開始し、昭和9年遼陽棉花試驗地の設立と共に同所にて各試驗を繼承し昭和10年に至り完成を見たる改良種で、次の如き優秀なる諸特性を有つてゐる。

(イ) 極めて早熟にして熟期は鄭家屯白種より2—3日早く、赤木黑種より一週間乃至10日間陸地棉早熟種「關農1號」「Kings113號」等より20日以上早い。

(ロ) 遼陽以北の適地にては極めて豐産にて遼陽開原等に於ける試驗結果は何れも地方在來種の70%以上の增收を示してゐる。

(ハ) 纖維長く品質優良にて經濟上適當と認められる、單獨紡出番手は30～32番手にて陸地棉 Kings 系統よりやゝ細手を又赤木黑種より遙かに高級なる絲を紡出し得。

以上諸特性の中遼陽一號を最も特色づけるものは熟期の早い點で本種の栽培適地地帶は遼陽以北に位する棉花地帶及それ以南でも土地平坦で地下水位高く比較的排水佳良なる地方等である。尙本種は熟期早き爲氣象狀態の不良なる年にも安全に栽培し得る。

（2） 交配改良種「鄭家屯白種×Milliondollar」

本種は未完成であるが、滿鐵熊岳城農事試驗場にて昭和4年滿洲棉早熟種鄭家屯白種と支那棉豐產種 Million Dollar を交配して得たる東洋棉交配改良種で、昭和9年遼陽棉花試驗地にて試驗を繼承し、現在 F_8 に達し略固定せるものである。

本種は遼陽附近を中心とする滿洲中部棉作地帶に適應する優良種で、次の如き特性を備へてゐる。

イ、熟期極めて早く滿洲在來棉早熟種鄭家屯白種と略々同程度である。

ロ、一蒴重大にして繰棉步合高く極めて豐富である。

ハ、纖維は長く鄭家屯白種と略々同程度で品質優秀である。

外形は比較的鄭家屯白種に似てゐるが色彩が鮮明で花や蒴が比較的大きいので鄭白とははつきり區別がつく。

（3） 關東改良棉

關東農事試驗場で滿洲在來棉赤木黑種に支那棉南通雞脚を交配して育成したもので繰棉步合極めて高く豐產種である。莖葉の色は赤木黑種に類似し葉形は南通雞脚棉に似て裂刻が深い。尙種子は裸である。

（4） 關農一號

關東農事試驗場で朝鮮產早熟種陸地棉 Kings Inproved 種より純系分離により改良せるもので、本種は大正14年に試驗を開始し、昭和5年に完成したる早熟豐產種である。本種は昭和8年滿洲國奬勵品種に決定され、目下旺んに種子の增殖中で、海城、蓋平、錦縣等を中心とする滿洲南部棉作地帶に適應する優良種である。

（5） Kings 113 號

本種は朝鮮木浦で改良したる陸地棉早熟種「木浦113號」を昭和3年以降滿鐵棉花試作場（舊苗圃を改稱したものにて現在の棉花試驗地とは別箇）にて集團淘汰

法により多少改良の手を加へ、遼陽附近の氣候に適應する一系統を選出し得たるものにして熟期、收量等は關農一號と大同小異である。從來屢々「木浦113號」なる原種名で呼ばれてゐる。

備考 1. 遼陽棉花試驗地田村氏の原稿に據る

4. 收 支 計 算

支 出 の 部 （康德元年度 天地當圓）

種別	數量	單價	金額	備考
種子	110斤	2.68	2.95	
肥料	土糞 20臺	1.00	20.00	馬車賃 1.5臺@ 2.50 3.75 人夫賃 1.5人@ 0.40 0.60
整地	春耕2回馬耕1臺	2.50	2.50	
	施肥男 2人	0.50	1.00	施肥後春耕を行ふ
播種	馬耕 0.5臺	2.50	1.25	
	男 1.5人	0.50	0.75	播種 鎭壓 覆土 1.5人
間引	3回 女 11人	0.20	2.20	1回4人 2回3人 3回4人
除草	3回 男 9人	0.40	3.60	每回3人
中耕	3回馬耕 1.5臺	3.00	4.50	馬耕1臺1日2天地作業することを得
摘心	2回 女 6人	0.20	1.20	
除賚芽	1回 女 3人	0.20	0.60	
收穫	女 45人	0.20	9.00	
繰棉費	334斤	2.00	6.68	
農具代		0.32	0.32	農具損料
種金		9.00	9.00	稅金 2.50 村公所費 6.50
計	男 12.5人 女 65.0人 馬 3.0臺	—	65.55	勞銀 26.60 其他 38.95

收 入 の 部

繰棉	334斤	35.96	120.11
棉實	667斤	1.70	11.34
莖稈	1,280斤	0.35	4.48
計		—	135.93

差 引 損 益

益		—	70.38

備考 1. 滿洲棉花協會海城支部發行海城縣の棉花附錄表に據る

2. 上表は陸地棉、在來棉の平均である

○年度別棉花及主要作物收支比較表 （單位 天地圓）

收 入 の 部

作物名＼年次	大同元年	大同2年	康德元年	平均
棉花	81.58	140.00	135.93	119.17
高粱	45.71	37.90	97.60	60.40
粟	39.16	38.00	58.20	45.12
大豆	50.00	40.00	62.40	50.80

支 出 の 部

作物名＼年次	大同元年	大同2年	康德元年	平均
棉花	52.08	46.50	65.55	54.71
高粱	46.33	25.40	46.57	39.43
粟	46.00	21.36	45.55	37.64
大豆	46.50	27.50	41.37	38.46

差 引 損 益

作物名＼年次	大同元年	大同2年	康德元年	平均
棉花	29.50	93.50	70.38	64.46
高粱	－ 0.62	12.50	51.03	20.97
粟	－ 6.84	16.64	12.65	7.48
大豆	3.50	12.50	21.03	12.34

平均收支狀況

項目＼種別	棉花	高粱	粟	大豆	棉花を100としたる場合の比較 棉花	高粱	粟	大豆
收入	119.17	60.40	45.12	50.80	100	51	38	43
支出	54.71	39.40	37.64	38.46	100	72	69	70
差引損益	64.46	20.97	7.48	12.34	100	33	12	19

備考 1. 康德3年滿洲棉花協會海城支部發行海城縣の棉花に據る
2. 昭和2年地方部農務課、滿洲の棉花61頁 66頁 68頁參照

5. 需 給 狀 況

滿洲の棉花產額は年300,000？擔內外、此の內約1/2が中入棉として需要され殘の1/2卽150,000擔前後が國內紡績用原棉に供せられるが不足の爲年額300,000擔內外の外棉を輸入してゐる。最近5箇年間の棉花需給次の通り。尙ほ滿洲國に於ては產業開發5箇年計畫を樹て棉花產額は5箇年後（昭和16年）に750,000擔となす目標のもとに增產に努めてゐる。

滿洲に於ける棉花需給表 （單位 擔）

年次	生產	輸入	輸出
昭和 7 年	300,000	359,975	1,509
同 8 年	324,828	230,056	5,110
同 9 年	462,812	281,007	12,645
同 10 年	211,721	203,813	14,602
同 11 年	318,826	383,761	35

備考 生產は滿洲棉花協會調による
輸出入は滿洲國外國貿易統計年報による

（二） 綿 糸

1. 需 給 狀 況

滿洲に於ける綿糸需給表 （單位 梱）

年次	生產	輸入	輸出	差引需要高
昭和 6 年	74,265	51,580	39,144	86,701
同 7 年	90,024	44,387	36,509	97,902
同 8 年	87,650	95,958	31,144	152,464
同 9 年	92,164	55,185	27,107	120,242
同 10 年	109,480	27,061	23,847	112,694

備考 滿鐵經濟調查會編、日滿支に於ける工業製品需給狀況調查(第1卷)、及滿洲國外國貿易統計年報、輸出高の內20,000梱內外が日本へ向けられてゐる、關東州特惠稅制度により20,000梱迄無稅で輸出出來る爲である。

2. 工 場 能 力

在滿紡績會社一覽表 （昭和12年1月現在）

會社名	資本金	設備			增設設備	
		精紡機	撚糸機	織機	精紡機	織機
	圓	錘	錘	臺	錘	
奉天紡紗廠	4,500,000	30,816	888	250	—	—
營口紡織公司	3,000,000	20,760	—	624	35,000	750
滿洲紡績會社	5,000,000	58,120	1,080	740	20,000	300
內外綿金州支店	本社 13,250,000	92,384	—	1,008	—	—
滿洲福紡會社	1,500,000	29,520	1,020	—	20,000	—

以上の外新設中のものに次の2社がある。

滿洲製糸會社(瓦房店)、精紡機30,000錘、(カタン糸、撚糸專門工場)

東棉紡織公司(錦　縣)、精紡機52,400錘、織機2,340臺

3. 工　　費

工費は會社によつて一樣でない。在滿紡績會社中某有力會社の昭和11年の實績による20番手の工費は次の通

綿糸20番手工費

	円
利　　息	0.04
職 工 費	6.38
事 務 費	4.16
修 繕 費	2.42
工場用品	0.64
原 動 費	6.54
計	20.18

4. 日本紡績との關係

資　　本

奉天紡紗廠を除く在滿紡績會社は凡て日本紡績資本によつて經營されてゐる。

製　　品

滿洲に於ては下級綿絲布を自足せしめ、それ以外の綿絲布は、日本より仰ぐことを立前としてゐる。從つて在滿紡績工場も此の統制方針に基き下級品の製造に當つてゐる。

(三) 綿　　布

1. 需 給 狀 況

滿洲に於ける綿布需給表 （單位　千碼）

年次	生産高	輸入高	輸出、再輸出	推定消費高
昭和 5 年	161,029	403,157	18,655	545,531
同 6 年	110,978	131,574	3,394	239,158
同 7 年	125,315	134,906	6,586	253,635
同 8 年	195,154	280,412	2,549	473,017
同 9 年	153,910	229,744	6,271	377,383

備考　滿鐵經濟調査會編「日滿支に於ける工業製品需給狀況調査(第1卷)」による
生産高は土布を含めた一切のものの總計

2. 工 場 能 力

滿洲に於ける兼營工場の織機臺數 （昭和10年1月現在）

會社名	織機臺數	製品
	臺	
奉天紡紗廠	250	粗布
營口紡織公司	624	大尺布、粗布、細布
滿洲紡績會社	740	粗布、細布
內外綿金州支店	1,008	粗布、細布
計	2,622	

3. 原　　價

在滿媒兼營工場に於ける昭和12年10月度の生產原價次の通

在滿媒兼營工場綿布原價　（1反當）

費目	細綾	細布	金巾
事務費	.23	.29	.37
統稅	.16	.23	.28
修繕費	.10	.13	.16
職工費	.27	.35	.43
工場用品	.25	.32	.40
原動費	.07	.10	.11
原料	5.06	7.07	7.15
計	**6.14**	**8.49**	**8.90**

（四）土　　布

1. 工 場 分 布

在滿土布工場織機臺數　（昭和10年7月現在）（單位臺）

地名	廣幅 動力	廣幅 手機	小幅 電力	小幅 手機	計
呼蘭	—	—	—	100	100
哈爾濱	60	1,105	—	—	1,165
新京	128	132	86	1,468	1,814
四平街	—	—	24	33	57
楡樹臺	—	—	—	120	120
黎樹縣	—	—	—	280	280
八面城	—	—	—	80	80
開原	—	—	—	84	84
鐵嶺	—	—	191	765	956
奉天	852	483	3,052	79	4,466
新民屯	—	—	—	1,500	1,500
山城子	—	—	—	400	400
錦縣	—	—	—	450	450
北鎭	—	—	—	400	400
錦西	—	—	—	400	400
安東	902	298	—	—	1,200
營口	453	—	2.124	—	2,577
金州	—	—	500	—	500
計	**2,395**	**2,018**	**5,977**	**6,159**	**16,549**

備考　內外綿株式會社調

2. 生　　産

土布は大尺布粗布を中心とする下級綿布にして其の生產量の統計なきも綿糸消費高より推算すれば粗布換算にて約330萬反と推定される。(綿絲消費高 100萬梱と押へ、梱より粗布33反出來るものとす)

〔土布工業の趨勢〕

兼營工場は相當の成績を擧げをるも土布製造業者、特に加工綿布を製織するものに於ては輸入品及國內新式工場の壓迫より廢業又は休止するもの多く唯大尺布等の下級綿布を製造するものゝみが生產工費引下により辛うじて經營維持の現狀である。

○ 綿絲布用語解釋

番手（バンテ）　綿絲の太さを示す言葉、綿絲1綛（長さ840碼）の重量1封度(120匁)のものを1番手としてゐる。10綛で1封度のものは10番手、20綛で1封度のものは20番手といふ具合である。

之は英國式番手と稱せられるものであるが此の外に大陸式番手といふものがあり主として佛國に行はれてゐるが省略する。

粗布（ソフ）　(Sheeting) 14番乃至16番手單絲の綿平織物、幅36吋長さ40碼1反の重量12封度乃至18封度、13封度のものを中品標準として取引量最多、我國の需要は少く支那の需要が多い。生地のものと漂白したものがある。

金巾（カナン）　(Shirting)經緯共30番乃至46番手の單絲を用ひた綿平織物、幅30吋乃至46吋、長さ38碼乃至120碼、世界で最需要の多い綿布である。生地のものと漂白したものがある。普通にキヤラコと呼ばれるものは金巾の一種である。晒金巾はシヤツに使用することが多い。

細布（サイフ）　(Heng Shirting)、金巾の一種である。單絲は20番乃至24番手單絲、幅36吋長さ40碼、重量12封度乃至14封度半、12封度物が標準、日本內地製產の內大部分は輸出される。

大尺布（ダイシヤクフ）　15番手前後の單糸で織つた小巾木綿、幅18吋、長さ21碼、重量570匁前後、日本內地の需要殆んどなく、滿洲、支那で需要される。但し最近滿洲では粗布が大尺布に比し割安の結果粗布が大尺布に代用されることが多い。

第二十三節　羊毛及毛織物

(一) 原 料 羊 毛

緬羊飼育頭數の品質等に關しては第4節資源(2)畜産資源の項を參照せられたい。國內毛織物使用原毛の過半數は國產毛にて占め輸入原毛は主として高級品製造に充てられてゐる。

滿洲國羊毛需給一覽表　(單位噸)

年次	生産	輸入	輸出
昭和 6 年	52,811	753	22,131
同 7 年	46,921	1,332	7,574
同 8 年	40,000	1,997	34,183
同 9 年	36,387	3,710	26,387
同 10 年	—	11,541	51,043

備考　滿鐵產業部編「日滿支に於ける工業製品需給狀況調查(第2卷)」に據る

(二) 毛 織 物

1. 工場及能力

國內主要毛織工場の年產能力は次の通り

a. 國內主要毛織工場の年產能力　(昭和12年1月調)

品種	滿蒙毛織會社	裕慶德工廠	計
毛布	204,000 枚	77,000	281,000
ラシヤ	300,700 米	120,000	320,700
サージ	486,740	—	486,740
帽子	44,000 ヂ	—	44,000
フエルト	100,000 斤	—	100,000
絨毯	37,500 方尺	—	37,500

b. 滿蒙毛織會社生產高の詳細

	昭和7年度		昭和8年度		昭和9年度		昭和10年度	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
サージ	315,044 碼	461,266	200,110	363,482	206,592	366,939	475,738	907,735
ラシヤ類	177,284 碼	337,654	206,636	502,889	384,796	852,906	347,986	1,070,196
毛布	68,451 枚	321,236	126,434	498,586	207,157	860,070	175,026	946,526
敷物	375 ㎡	14,994	186	38,669	300	30,060	566	18,458
フエルト	6,460 約	5,640	4,211	4,566	8,094	9,327	51,306	12,310
帽子	— 箇	—	130,135	96,994	227,720	142,739	200,744	99,906
フエルト靴	140,141 組	29,989	82,055	20,260	—	—	14,840	3,999
毛糸	117,278 封度	127,524	100,029	164,378	72,031	139,379	28,550	53,254
加工毛	26,000 封度	62,650	1,816	1,924	—	—	—	—
計	—	**1,360,953**	—	**1,696,742**	—	**2,401,423**	—	**3,112,384**
毛糸、加工毛控除	—	190,174	—	166,302	—	139,379	—	53,254

資料　出所同前

2. 需 給 狀 況

○滿洲に於ける毛織物の需給狀況を昭和10年度に就き見るに、生產が300萬圓、輸入が1,600萬圓、輸出及再輸出が60萬圓、差引推定消費が1,840萬圓見當を示してゐる。

○關東州を控除せる滿洲國內のみの同年に於ける推定消費高は其の純輸入高が大約850萬圓見當にして總輸入高より大約750萬圓少きが故に結局大約1,100萬圓見當と推算される。

○總輸入額と純輸入高との差750萬圓は關東州殘存量であるが同數量は關東州人口と對比して同州內消費量としては過大に失するが故に結局其の大半は北支及滿洲國へ密輸入されたるものと推定さるべく、然るときは全滿洲消費額は1,850萬圓より少く、1,100萬圓より大なるものと言ふべきである。

○最近消費の趨勢は著しく增加傾向に在り昭和7年900萬圓なりしものが10年には1,850萬圓とし3箇年間に950萬圓、10,070萬圓强の激增を示してゐるが、右

の増加部分は殆ど輸入に依て賄はれつゝあり生産の増加に依る部分は極少量である。

滿洲に於ける毛織物需給總括　（單位圓）

年次	生産高	輸入高	輸出及再輸出高	差引需要高
昭和 7年	1,170,779	8,435,256	638,023	8,968,012
同 8年	1,530,440	11,606,321	331,128	12,805,633
同 9年	2,262,044	14,058,123	513,814	15,806,353
同 10年	3,059,130 3,112,581	15,922,276	607,112	18,374,294

備考　滿鐵産業部編「日滿支に於ける工業製品需給狀況調査(第2卷)」に據る
生産額は滿蒙毛織會社のもののみ他は不明

○販　　路

國産毛織物の殆ど總ては國內消費に充てられ、ロシヤ式毛布の極一部が支那其の他に輸出されるに過ぎない。

第二十四節　小麥及麥粉

(一)　小　　麥

1. 作付面積收穫高　單位陌畝

省別縣名	昭和8年 作付面積	昭和8年 收穫高	昭和9年 作付面積	昭和9年 收穫高	昭和10年 作付面積	昭和10年 收穫高	昭和11年 作付面積	昭和11年 收穫高	昭和12年 作付面積	昭和12年 收穫高
吉林省	—	—	**83,010**	**83,390**	**60,224**	**54,714**	**55,502**	**46,130**	**80,824**	**60,474**
○永吉	—	—	40	10	282	294	305	271	464	263
○額穆	4,516	2,253	170	940	315	175	99	59	617	445
○敦化	4,056	1,497	2,040	16,790	2,034	1,365	2,231	1,738	2,476	881
○樺甸	1,188	445	1,110	330	450	338	458	344	528	239
○盤石	276	31	140	20	49	39	240	169	258	147
伊通	—	—	1,110	—	3,400	2,683	—	—	492	476
双陽	90	153	100	60	72	108	24	26	61	66
九臺	221	231	130	1,200	1,106	1,046	88	77	568	371
長春	1,843	1,880	1,230	1,310	1,216	968	1,406	953	3,600	3,413
懷德	2,802	2,619	1,470	410	1,173	800	1,222	826	1,250	1,206
長嶺	1,843	1,150	3,720	1,430	5,063	3,747	3,960	2,740	4,383	3,206
乾安	—	—	—	—	—	—	—	—	37	28
扶餘	17,913	33,411	36,850	33,390	11,455	10,951	11,699	9,453	21,332	13,375
農安	3,113	14,323	5,300	2,680	8,363	7,694	9,456	8,681	9,389	9,025
德惠	—	1,697	1,660	1,010	6,977	6,670	4,186	3,458	4,884	3,184
榆樹	53,084	33,098	26,280	23,450	16,751	16,165	18,426	16,012	28,142	22,148
○舒蘭	1,504	536	760	360	387	440	534	379	1,176	934
郭爾羅斯前旗	—	—	—	—	1,131	731	1,168	—	1,179	1,067
龍江省	—	—	**130,030**	**73,460**	**182,855**	**198,393**	**227,688**	**173,985**	**279,314**	**286,559**
龍江	21,448	31,250	37,660	15,470	16,755	17,911	23,876	17,238	30,678	25,770

景星	590	221	810	50	2,217	1,998	2,660	1,825	2,464	1,895
甘南	6,636	4,673	3,480	820	2,995	3,073	3,407	2,184	3,825	2,096
富裕	3,845	4,202	3,660	1,060	3,528	3,771	4,793	3,278	6,091	5,226
訥河	15,630	11,387	4,250	5,440	16,177	18,668	25,241	19,574	33,556	36,274
嫩江	1,480	1,016	1,440	910	5,968	6,887	6,266	4,555	5,461	4,598
德都	332	322	1,580	790	1,960	2,095	3,054	2,742	4,770	5,466
龍鎮	2,507	3,409	1,470	400	1,856	1,904	1,886	1,596	4,424	4,924
通北	369	321	590	530	1,320	1,206	1,810	1,526	3,691	3,141
克東	10,270	8,355	1,840	1,720	10,156	11,293	10,968	9,564	17,266	19,200
○克山	29,492	13,368	7,250	4,380	29,229	33,730	31,266	24,606	39,924	45,633
拜泉	59,145	60,323	46,130	29,990	44,282	49,242	57,339	44,151	59,977	68,554
明水	6,964	5,778	5,420	3,470	16,653	17,519	19,092	14,739	25,640	27,522
依安	3,583	10,026	4,600	4,570	10,566	11,295	14,015	10,189	16,543	15,765
林甸	7,373	5,640	2,440	1,550	7,106	6,857	9,390	6,996	8,269	6,566
泰康	536	456	1,200	860	668	586	769	641	1,365	1,084
泰來	—	—	240	40	2,802	2,645	3,222	2,349	6,914	6,292
鎭東	111	0	—	20	256	215	254	173	339	236
大賚	—	—	3,370	—	2,871	2,762	3,435	2,824	3,576	2,965
安廣	92	85	600	790	1,900	1,851	2,196	1,494	2,098	1,525
洮安	1,349	629	660	290	1,527	1,179	938	742	590	461
洮南	634	2,648	580	740	1,580	1,311	746	419	612	370
○開通	—	—	—	—	118	103	125	86	158	113
膽榆	—	—	10	10	12	10	121	79	180	106
突泉	—	—	740	60	353	282	635	415	1,083	777
黑河省	—	—	**3,100**	**3,670**	**5,354**	**4,653**	**6,354**	**4,864**	**7,617**	**6,091**
瑷琿	2,212	1,599	530	340	2,132	1,853	2,641	1,941	3,580	2,853
漠河	151	235	150	1,920	95	83	100	74	104	88
鴉浦	100	0	150	20	134	116	193	154	202	172
呼鴉	(588)	(326)	370	—	525	456	552	406	579	493

奇克	450	894	1,050	680	851	740	1,057	842	1,165	960
遜河	—	—	740	570	978	850	1,135	885	1,251	953
烏雲	63	111	50	80	478	415	503	401	553	421
佛山	12	7	60	60	161	140	173	161	183	151
三江省	—	—	**111,820**	**114,190**	**185,743**	**178,114**	**190,908**	**165,703**	**208,510**	**176,129**
○樺川	92,160	62,664	30,960	33,670	59,035	57,618	58,208	52,154	51,226	42,415
富錦	22,856	33,301	22,700	30,000	45,864	44,763	45,890	40,704	45,844	39,838
寶清	6,083	7,385	4,880	3,740	10,288	10,041	10,493	9,307	11,382	7,774
○勃利	3,848	1,869	2,920	2,890	7,042	6,514	5,803	4,375	12,181	11,645
依蘭	—	—	30,950	24,710	27,506	25,068	31,173	27,931	38,991	34,975
方正	4,320	3,188	4,500	3,860	10,996	9,501	11,216	7,661	11,249	8,189
○通河	4,976	2,633	640	860	4,316	3,915	6,045	4,129	8,937	6,613
鳳山	1	2	10	10	147	133	154	105	58	42
湯原	14,008	7,030	9,910	10,690	13,103	13,247	13,103	11,622	16,081	13,910
蘿北	28	14	260	180	517	505	316	258	452	350
綏濱	2,580	3,133	260	250	3,470	3,078	4,747	298	6,514	5,810
同江	6,459	5,034	3,760	3,440	2,438	2,272	3,240	2,845	4,753	3,916
撫遠	(4)	(7)	70	80	551	496	386	4,211	500	387
饒河	—	—	—	10	470	423	134	103	342	265
濱江省	—	—	**325,280**	**223,900**	**481,777**	**515,617**	**528,301**	**442,893**	**562,161**	**504,982**
○呼蘭	60,788	5,373	32,880	11,330	47,177	50,196	50,473	43,861	39,595	31,342
賓	31,977	24,228	23,120	18,890	24,965	21,994	33,535	28,672	31,988	26,550
○阿城	28,570	8,788	13,820	10,730	24,342	21,948	27,864	19,254	28,756	23,034
○五常	4,700	3,517	3,320	3,330	5,489	5,484	4,941	3,948	8,924	6,393
雙城	28,754	4,608	43,190	29,610	47,601	52,824	57,802	51,213	43,054	39,739
肇州	14,437	20,099	3,180	620	13,228	13,347	12,877	11,061	13,255	9,862
肇東	11,065	8,088	12,190	3,920	15,033	14,762	22,775	19,769	19,373	13,677
蘭西	14,230	11,518	1,510	860	23,327	23,537	27,895	23,739	27,911	25,594

○安	達	7,364	1,958	1,930	880	6,014	6,170	8,006	6,317	8,966	8,069
青	崗	19,538	17,001	11,260	7,830	17,607	18,523	22,148	17,475	26,531	26,770
望	奎	20,634	14,030	12,000	7,150	19,565	29,300	25,190	22,344	37,930	27,636
海	倫	51,979	49,892	46,430	30,360	43,575	56,038	42,010	36,885	57,737	60,335
○綏	稜	2,765	1,155	1,330	840	8,575	9,887	9,433	8,037	13,105	12,410
綏	化	32,997	20,574	17,390	15,710	36,339	46,732	40,532	35,222	52,825	54,463
慶	城	14,038	7,159	11,170	9,880	14,671	18,221	17,731	14,947	18,286	16,915
鐵	驪	393	197	90	160	1,512	1,609	1,633	1,391	2,297	1,426
東	興	339	231	350	250	1,468	1,307	822	625	1,012	825
巴	彦	44,237	47,267	53,060	44,490	35,170	37,421	35,873	31,819	42,752	41,839
木	蘭	3,170	1,940	4,720	2,990	13,650	13,322	13,650	10,497	13,650	10,497
延	壽	1,106	861	2,410	2,050	8,324	7,700	5,197	3,679	5,686	4,225
珠	河	1,106	689	220	140	4,673	4,117	2,839	2,010	1,691	1,256
葦	河	295	2,530	40	30	1,841	1,622	1,427	1,099	355	283
寧	安	14,008	5,261	19,640	15,680	33,598	29,600	34,578	28,492	29,241	21,580
穆	稜	1,180	831	2,530	2,700	10,696	9,423	7,813	4,633	6,927	5,521
東	寧	6,260	6,245	2,930	1,240	2,059	1,814	2,625	1,580	2,315	1,556
密	山	—	—	4,420	2,080	20,124	17,729	18,329	14,132	14,619	13,216
虎	林	—	—	150	150	1,154	990	303	192	721	603
哈爾濱		—	—	—	—	—	—	—	—	6,487	5,462
間島省		—	—	**16,800**	**4,760**	**1,698**	**1,183**	**3,648**	**2,896**	**2,513**	**1,815**
○延	吉	36,864	13,428	15,480	4,280	610	423	677	538	518	408
汪	清	1,769	828	940	330	600	455	2,299	1,929	975	817
琿	春	—	—	—	—	—	—	25	19	17	12
和	龍	221	182	290	150	339	226	330	184	159	127
安	圖	36	39	90	—	149	79	417	223	844	451
安東省		—	—	**1,340**	**770**	**3,158**	**2,925**	**3,049**	**3,006**	**3,933**	**2,811**
安	東	—	—	20	20	—	—	—	—	—	—

莊	河	74	37	140	150	156	134	13	9	11	7
岫	巖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳳	城	37	46	30	20	—	—	—	—	—	—
寬	甸	—	—	—	—	16	11	56	47	213	161
恒	仁	667	729	390	200	372	312	284	223	350	278
通	化	1,003	773	450	300	550	413	585	459	671	408
輯	安	21	93	50	60	33	21	73	81	11	7
臨	江	198	196	210	10	243	193	258	204	337	213
撫	松	756	847	—	—	1,680	1,759	1,720	1,911	1,803	1,308
長	白	63	29	50	10	108	82	60	72	529	619
奉天省		—	—	**61,740**	**28,150**	**48,705**	**33,898**	**55,937**	**32,326**	**46,926**	**26,733**
瀋	陽	1,639	2,147	690	530	712	617	490	515	79	47
撫	順	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
本	溪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
遼	陽	3,595	2,690	5,380	3,140	5,011	3,297	6,279	4,125	6,290	5,554
遼	中	24,218	14,468	25,840	9,180	12,481	5,829	17,127	7,569	12,965	5,912
海	城	6,013	3,972	3,890	2,790	3,549	3,191	7,831	5,831	8,460	6,195
營	口	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—
蓋	平	19	36	10	10	10	7	10	11	—	—
復		405	379	700	390	488	224	488	449	275	158
新	民	2,240	1,758	5,660	2,770	10,412	7,601	7,484	1,728	5,317	1,845
鐵	嶺	7,090	5,888	3,840	3,250	3,615	2,961	3,068	2,345	1,648	982
法	庫	4,547	7,254	850	610	1,159	907	831	587	699	312
康	平	442	232	50	190	307	167	356	194	903	397
遼	源	442	340	550	280	607	473	571	374	612	399
雙	山	201	87	210	70	300	202	381	216	1,039	675
梨	樹	425	103	410	100	1,233	1,275	1,846	617	1,717	776
昌	圖	170	82	3,600	1,740	3,502	2,581	3,375	3,060	2,584	1,362
開	原	979	1,759	890	800	1,526	1,117	1,546	1,002	477	231

西豐	126	141	840	170	240	167	153	147	138	108
西安	37	34	40	20	276	286	255	275	148	80
東豐	1,229	1,552	1,540	50	1,228	1,492	1,228	1,173	817	533
海竜	8,600	1,288	110	120	41	53	24	29	21	9
清原	46	172	120	—	60	47	95	73	110	46
興京	25	66	70	100	42	34	55	46	60	24
柳河	4,301	3,343	4,910	1,200	1,097	716	1,478	1,138	1,385	434
金州	43	33	530	330	60	56	359	260	577	176
輝南	504	367	120	50	166	153	170	91	125	44
濛江	398	222	440	260	583	445	497	471	443	222
奉天市	—	—	—	—	—	—	—	—	37	22
錦州省	—	—	6,740	3,900	8,413	6,857	7,410	538	8,779	2,161
錦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北鎭	—	—	—	—	—	—	—	—	10	10
黑山	123	158	230	210	76	90	129	173	61	73
臺安	3,994	1,435	4,730	2,580	6,142	5,430	5,341	3,912	7,098	1,434
盤山	605	506	770	530	1,940	1,189	1,368	916	1,353	491
綏中	—	—	10	80	—	—	82	101	10	10
興城	2	4	—	—	—	—	61	66	—	—
錦西	—	—	20	20	18	23	18	25	—	—
義	1	1	—	—	1	1	3	4	—	—
朝陽	—	—	180	90	—	—	—	—	31	37
阜新	—	—	30	10	—	—	70	31	66	37
彰武	565	222	770	380	236	124	338	129	150	69
總計	948,072	719,055	748,640	540,840	977,927	936,354	1,035,284	882,675	—	—

備考 1 昭和8.9年は滿洲國實業部農務司、滿洲農業統計に、昭和10年滿鐵產業部、滿洲農業統計原稿に、昭和11年は滿洲國實業部、滿洲農產物收穫高豫想調查(第三回)に、昭和12年度は滿洲農產物收穫高豫想調查聯合會第三回縣別統計に據る
2 昭和8年度の○印各縣の作付面積は換算に誤りあり該各縣面積の各々に 0.4 を乘ずる必要がある
3 昭和9年度は熱河省其他を含む
4 昭和8年度昭和12年に於ける行政區劃は本表區劃と異なるも都合上一表に取纏めた
5 省の作付面積收穫高と省內各縣合計と必ずしも一致しない場合がある

2. 品種及收量

a. 分類

普通小麥
- 有芒
  - 赤稃—赤粒(公85. 公86. 公87. 公88)
  - 白稃
    - 白粒(公126)
    - 赤粒(農安、安達、方正、ベケイトウ、公89.公90.公91.公92.公93.公94.公96.公97.公98.公99.公127)
- 無芒—白稃—赤粒(雙城堡、哈爾濱2號、ロシヤ、三姓、富錦、湯原新甸、ウラジオ地方產、チエルニエス公124. 公125)

この他近年北滿の一部地方に栽培さるゝ硬粒小麥の數變種がある。

備考 滿洲に於ける農林植物の品種解說に據る。

公主嶺農事試驗場品種試驗に於ける累年結果は次表の如し。

b. 品種試驗成績

品種名	子實平均收量	收量比率	1重量	立反收量	當	試驗期間
	瓩		瓦	石		
札幌春小麥	956	100	728	0.749		23箇年、大正3年—昭和11年
改良3號	993	104	775	0.759		14箇年、大正12年—昭和11年
フーロン	771	81	725	0.585		9箇年、大正14年—昭和8年
マークキス	815	85	744	0.602	同	上
チエルニエーフ	747	78	711	0.578		8箇年、大正15年—昭和8年
ボルズイム	603	63	666	0.498	同	上
諸威春小麥	716	75	684	0.575	同	上
レゼネレーテツト春小麥	618	65	675	0.503	同	上
コーダ	638	67	727	0.483	同	上
パンユツプ	635	66	702	0.497	同	上
方正	820	86	727	0.620	同	上
パイオニヤ	660	69	752	0.483	同	上
ケールレフセンス	763	80	733	0.572	同	上
公101	1,097	115	733	0.808		3箇年、昭和9年—11年
公102	981	103	680	0.776	同	上
公104	1,096	115	757	0.788	同	上
公105	1,107	116	692	0.819	同	上
公107	962	101	720	0.685	同	上

公 108	1,055	110	704	0.795	3箇年、昭和9年—11年
公 118	753	79	659	0.637	同　上
雙城堡	932	97	700	0.732	5箇年、大正3年—8年(4年除く)
呼蘭	924	96	702	0.723	同　上
農安	1,050	110	733	0.787	10箇年、大正3年—13年(4年除く)
ミネソタ163	829	87	670	0.680	4箇年、大正3年—6年
ミネソタ165	934	98	704	0.730	3箇年、大正4年—6年
ミネソタ169	1,092	114	708	0.848	同　上
公主嶺	808	85	698	0.687	4箇年、大正3年—7年(4年除く)
スワンドルフ	884	92	689	0.708	3箇年、大正3年—6年(4除く年)
無芒グリン マウンテン	1,034	108	738	0.770	2箇年、大正4年—5年
レツドフアイフ	925	97	675	0.757	9箇年、大正4年—12年
リヴイングストン	1,197	125	726	0.907	10箇年、大正4年—13年
サスカチエワン アサイフ	841	88	704	0.657	3箇年、大正4年—6年
ローレル	1,053	110	697	0.831	5箇年、大正4年—8年
哈爾濱2號	1,103	115	703	0.863	3箇年、大正5年—7年
ロシア	964	101	751	0.706	8箇年、大正10年—昭和3年
三姓	804	84	727	0.608	同　上
安達	882	92	749	0.647	同　上
改良6號	722	76	747	0.532	8箇年、大正12年—昭和5年
改良18號	730	76	745	0.539	同　上
改良23號	731	76	741	0.543	同　上
改良24號	705	75	735	0.527	同　上
ルーマニアン	1,036	108	738	0.771	11箇年、大正4年—昭和11年(大正14年—昭和10年除く)

備考　1. 滿鐵農事試驗場要覽13頁「小麥品種試驗」に據る

以上の成績の如く子實收量共に優良なのは、リヴイングストンで哈爾濱に2號公101. 公105之に亞いで多い。品質收量共に優良なのは改良3號である。

改良3號は大正5年以來在來種大青毛及札幌音小麥を原種として數回淘汰の結果得たもので7月下旬成熟期に達し草丈高く有効分蘖率80%を超え粒は豐圓大粒、100粒重3.7 gr 1立重770瓦あり半硝子質にして品質優良なものである、(農事試驗場要覽)

滿洲國5箇年計畫に於ては本種を奬勵品種として目下北滿地方に增殖しつゝある。

3. 各地小麥の品質

	平齊線	三河地方	松花江下流地方			線別平均									
	泰來	三河	佳木斯	富錦	三姓	濱洲	齊北	訥河	濱綏	京濱	濱北	圖佳林及密	平齊	三河地方	松花江下流地方
原物ゾロトニツク	—	133.50	133.50	—	124.00	121.83	120.33	123.00	124.00	124.50	124.78	124.20	—	133.50	128.75
完全粒ゾロトニツク	—	—	—	—	129.00	125.17	121.33	124.50	126.75	126.25	126.75	126.75	—	—	129.00
完全粒%	93.64	87.67	92.68	94.65	95.44	90.42	91.72	92.46	89.84	92.65	93.69	88.90	93.64	87.67	94.26
夾雜物%	6.36	12.33	7.32	5.35	4.56	9.58	8.28	7.54	10.16	7.35	6.31	11.10	6.36	12.33	5.74
1. 不完全粒%	0.82	0.82	1.56	0.71	1.00	1.35	2.15	1.22	3.93	4.05	1.30	3.15	0.82	0.82	1.09
2. 被害粒%	0.09	0.04	0.24	0.18	0.09	0.26	0.12	0.05	0.91	0.27	0.15	0.94	0.09	0.04	0.17
3. 破碎粒%	0.18	6.47	0.40	0.27	0.38	0.29	0.38	0.22	0.23	0.22	0.19	0.61	0.18	6.47	0.36
4. 麥類%	1.36	0.20	0.73	—	1.10	1.31	1.49	0.97	1.65	0.70	1.36	1.82	1.36	0.20	0.97
5. 麥以外雜穀%	—	0.04	0.08	0.01	0.07	0.08	0.11	0.20	0.12	0.08	0.07	0.15	—	0.04	0.05
6. 草實%	—	1.84	0.17	0.09	0.12	0.15	0.63	0.49	0.23	0.04	0.19	0.30	—	1.84	0.13
7. 油麥%	0.73	2.34	1.30	2.14	0.07	4.08	1.02	1.30	0.30	0.18	1.49	0.69	0.73	2.34	1.17
8. 土石%	0.27	0.03	0.28	0.54	0.24	0.89	0.97	1.49	0.53	0.43	0.55	0.95	0.27	0.03	0.35
9. 藁屑%	0.09	0.03	0.22	0.09	0.09	0.13	0.13	0.18	0.20	0.13	0.09	0.25	0.09	0.03	0.13
10. 砂塵%	不明	0.52	2.34	0.25	1.40	1.04	1.28	1.42	2.06	1.25	0.92	2.24	2.82	0.52	1.33
硬度	不明	9.30	8.41	7.90	8.60	8.58	7.70	8.40	7.89	7.95	8.11	8.44	7.70	9.30	8.30
硝子率%	不明	58.30	53.15	58.50	64,50	89.40	87.50	90.80	53.34	70.05	61.76	58.64	98.00	58.30	58.72
水分%	—	10.00	8.80	9.60	9.40	8.83	9.05	8.90	9.00	9.22	9.54	9.10	—	10.00	9.27
製粉歩合%	—	74.00	73.00	—	—	68.80	68.27	69.20	71.00	71.30	71.29	60.30	—	74.00	73.00
グルテン	—	39.00	34.30	—	—	58.94	55.07	53.80	37.50	46.90	43.50	36.90	—	39.00	34.30

備考　○公農試、伊藤健次、滿洲小麥の品質鑑定に據る　○製粉歩合は正密ならず概ね表記數字に5%を加へたるものと見るか妥當である　○不明の箇所は活字不明瞭の爲判讀し得ないものである　○本表の數字は昭和11年產小麥の分析結果である

上表の成績は1箇年のものにして之によつて直に各地方の小麥の品質を云々するは勿論不可能なるも概して齊北、濱洲線地方のものは良く乾燥しグルテンに富むも粒痩小にしてゾロ低く夾雜物特に土砂の混入著しく、松花江下流東部滿洲、南滿並に三河地方はグルーテンの含量稍低下するも一般に粒肥大、ゾロ高く含水量も多い、寧ろ地方並綏化地方產の小麥は最も品質良好にして製粉用として適する樣である。

4. 收支計算（北滿克山地方）

○支出の部（晌當支那斗）

費目	作業別	數量	單價	金額
		斗	円	円
種子代		5.4	1.45	6.53
勞役費		—	—	9.68
	整地人夫	0.3	0.40	0.12
	同馬	0.7	0.30	0.21
	播種人夫	3.0	0.50	1.50
	同馬	2.0	0.30	0.60
	除草人夫	2.0	0.50	1.00
	中耕培土人夫	—	—	—
	同馬	—	—	—
	收穫人夫	3.0	0.50	1.50
	運搬人夫	1.5	0.50	0.75
	同馬	3.0	0.30	0.90
	脫穀調製人夫	4.0	0.45	1.80
	同馬	2.0	0.30	0.60
	脫穀場作製人夫	0.5	0.50	0.25
	同馬	1.5	0.30	0.45
	人夫計	**14.3**	—	**6.92**
	馬計	**9.3**	—	**2.76**
小作料		—	—	5.81
租稅公課		—	—	0.71
農具費		—	—	1.53
合計		—	—	**24.26**

○收入の部

項目	收量(瓩)	單價	金額
		円	円
子實	427	5.41	25.24
莖稈莢類	1.5(車)	2.00	3.00
其他	—	—	0.50
合計	—	—	**28.74**

○收支差引

收入	28.74
支出	24.26
差引	＋ 4.48

備考 1. 上記收支計算は農業の滿洲第7卷6月號1頁村越信夫：克山の主要作物收支經濟に據る。
2. 1晌は7反2畝歩　在來桝1斗は我1斗7升4合である。
2. 本收支計算は昭和9年度のものである。
4. 各子實並莖稈收量は克山農事試驗場試作成績による。

○他作物との收支比較

種目＼作物別	大豆	小麥	粟	荏	大麻
收入	20.37	28.74	17.51	39.61	21.13
支出	24.94	24.26	22.61	23.90	24.02
差引	(−) 4.57	(−) 4.48	(−) 5.10	(+) 15.74	(−) 2.90

備考 1. 本收支計算は昭和9年度のものである。
2. 農業の滿洲第7卷6月號村越信夫：克山の主要作物收支經濟に據る。
3. 單位は晌

（二）製　　粉

1. 需給狀況

a 滿洲小麥粉需給表　（單位擔）

	昭和7年	割合	昭和8年	割合	昭和9年	割合	昭和10年	割合	昭和11年	割合
		%		%		%		%		%
輸入高	4,086,467	57	8,369,879	67	8,648,710	70	7,695,656	60	3,480,897	38
生産高	3,054,708	43	4,114,378	33	3,688,963	30	5.044,996	40	5,721,307	62
總供給高	7,141,175	100	12,484,257	100	12,337,673	100	12,740,652	100	9,202,204	100
輸出及再輸出高	137,097	—	41,517	—	1,161	—	3,192	—	1,762	—
差引消費及保有高	7,004,078	—	12,442,740	—	12,336,512	—	12,737,460	—	9,200,442	—

備考　○昭和7年生産高は「滿洲産業統計」、昭和10年は商工課資料「都邑別製粉原料用小麥取得狀況表(康德2年)」に據る。

○昭和11年生産高は新京、哈爾濱の生産高を示す。

b 滿洲麥粉仕出國別輸入高　（單位擔）

仕出國	昭和7年	割合	昭和8年	割合	昭和9年	割合	昭和10年	割合	昭和11年	割合
		%		%		%		%		%
日本朝鮮	2,381,269	58	4,813,363	57	4,489,847	52	4,768,898	62	1,900,178	55
中華民國	1,447,584	35	2,769,528	33	1,254,704	15	80,312	1	381,389	11
北米合衆國	43,701	1	84,984	2	168,133	2	7,005	—	11,891	—
加奈陀	3,320	—	9,203	—	—	—	500	—	2,196	—
濠洲	209,591	5	676,975	8	2,736,026	31	2,837,470	37	1,185,169	34
其他	1,002	—	15,826	—	—	—	1,471	—	74	—
計	4,086,467	100	8,369,879	100	8,648,710	100	7,695,656	100	3,480,897	100

備考　滿洲外國貿易年報による。

c 全滿製粉工場能力表　（康德3年12月調）

地方別	全工場 數	全工場 日産能力(袋)	全工場 割合	操業工場 數	操業工場 日産能力(袋)	操業工場 全操業工場能力に對する割合	休業工場 數	休業工場 日産能力(袋)
			%			%		
哈爾濱	24	75,080	50.2	15	61,200	48.3	9	13,880
濱北線	10	8,380	5.6	8	7,420	5.9	2	960
北黑線	4	2,580	1.7	2	1,300	1.0	2	1,280
齊北線	9	6,500	4.4	9	6,500	5.1	—	—
濱洲線	8	10,360	6.9	6	8,160	6.5	2	2,200
濱綏線 圖佳線	10	6,900	4.6	9	6,200	4.9	1	700
松花江下流地方	10	13,080	8.7	9	11,480	9.1	1	1,600
京濱線	7	19,920	13.3	7	19,920	15.7	—	—
其他地方	5	6,900	4.6	3	4,400	3.5	2	2,500
合計	87	149,700	100	68	126,580	100	19	23,120

備考　○哈爾濱特別市及其の郊外

本地方工場中には下記名稱のみ判明し內容の明かならざるものあり。

廣源盛、厚康、東亞、六一萬

○濱北線地方

海倫に電燈廠火磨あるも日滿製粉に買收せられ機械設備等は既に移轉せられた

○齊北線地方

別表の外訥河に同源、齊々哈爾に元發祥あるも規模過少なる爲計上せず。

○濱洲線地方

別表の外牙克石、博克圖に夫々工場あるも計上せず。

○濱綏及圖佳線地方

龍井村に日產300袋位の工場操業開始の由。

○其他の地方

撫順(福達、千金寨)遂陽(泉泰)大連(中華、大陸製粉)に工場ある由なるも未調査に付計上せず。

○本表の外實業部より認可せられ建設中のものあり。

四平街	三泰棧	4,000袋	(1,000バーレル)
四平街	康德製粉	4,000袋	(1,000バーレル)
奉天	東洋製粉	4,000袋	(1,000バーレル)
牡丹江	康德製粉	4,000袋	(1,000バーレル)

○本表は滿洲國實業部臨時產業調查局調(康德3年12月現在)による。

2. 各種産小麥の製粉率

小麥種類	製粉歩合	麩歩合	計
日本內地小麥	74.5	24.5	99.0
濠洲小麥	82.0	19.0	101.0
加奈陀1號小麥	78.5	21.5	100.0
米國ワラ小麥	79.0	20.0	99.0
米國赤ワラ小麥	79.0	20.0	99.0
滿洲小麥	73.5	21.5	95.0

備考 ○日滿製粉會社調による。
○濠洲小麥は出斤ある爲%超過するものなり。

3. 生産原價

イ 日滿麥粉生産原價輸入稅比較

(1) 滿洲麥粉一袋當生産原價 2.731圓
內生産費 0.44 圓

(2) 日本麥粉一袋當生産原價 2.882圓
內生産費 0.355圓(優秀工場0.25圓內外)

(3) 日滿輸入關稅

	小麥(百斤に付)	小麥粉(百斤に付)	麥粉一袋當(日本100斤＝2.712袋 滿洲一擔＝2.733袋)
日本	2.50圓	4.30圓	1.585
滿洲國	0.50圓	1.00圓	0.366

(4) 小麥粉及小麥の稅金差額による保護(百斤に付)
日本 4.30圓－(2.50圓÷75%)＝0.967圓
滿洲 1.00圓－(0.50圓÷75%)＝0.334圓
但し日本に於ては輸出麥粉に對し袋當1.12圓見當戻稅の制あり。
(註)實業部臨時產業調查局調「小麥に關する調查報告書(康德3年3月)」に據る。

ロ 日滿製粉工業採算比較
總括

	日本粉(一袋に付)		滿洲粉(一袋に付)	
原料値段			(＋)	33.3錢
麩値段	(＋)	22.5錢		
製粉歩合	(＋)	26.0錢		
格差金			(＋)	11.0錢
關稅			(＋)	37.0錢
統稅	(＋)	10.0錢		
生産費	(＋)	8.5錢		
計		67.0錢	(＋)	81.3錢
差引			(＋)	14.3錢

內譯

(1) 麩値段

日本	正味百斤當		3.46圓
哈爾濱	,,		1.52圓
差額	,,		1.94圓

右により小麥粉一袋に影響する所は

歩合	麥粉 73%	麩 22%

計算 (1.94圓×22%)÷(73%×2.71)＝0.225圓
卽ち一袋に付22.5錢北滿粉不利となる。

(2) 製粉歩合
原料値段は一應兩者同一とし、哈市百斤當5.26圓、麩値段も同樣にして1.52圓とす

日本	製粉歩合	麥粉 82%	麩 19%

(5.26圓－19%×1.52圓)÷(82%×2.71)＝2.23圓

滿洲	製粉歩合	麥粉 73%	麩 22%

(5.26圓－22%×1.52圓)÷(73%×2.71)＝2.49圓

比較 2.23圓－2.49圓＝0.26圓
右により26錢北滿粉の不利となる。

(3) 採算仕上り比率格開金格差金

麥粉等級	採算仕上り比率	格開金	格差金
日本粉			
一等粉	80%	—	—
二等粉	20%	(−) 0.30	(−) 0.06
北滿粉			
一號品	2%	(+) 0.30	(+) 0.006
二號品	15%	(+) 0.20	(+) 0.030
三號品	45%	—	—
四號品	30%	(−) 0.25	(−) 0.070
五號品	8%	(−) 1.45	(−) 0.116
計	100%		(-) **0.150**
差額	0.15 − 0.06 = 0.09		

（註） 以上は日滿製粉會社調による

右により9錢北滿粉不利となるも品質良好なる爲1袋20錢高に賣買せらる爲11錢有利となる。

(4) 原料値段

濠洲小麥沖着値段百斤當 5.92圓、北滿小麥 5.26圓とすれば

$$(5.92\text{圓} - 5.26\text{圓}) \div (73\% \times 2.712) = 0.333\text{圓}$$

右により北滿粉は一袋 33.3錢有利となる。

備考 實業部臨時產業調查局調「小麥粉に關する調查報告書(康德3年3月)」による。

附、支那に於ける需給狀況

a 支那小麥粉需給高 （單位擔）

項目	1932年	割合	1933年	割合	1934年	割合	1935年	割合	1936年	割合
		%		%		%		%		%
生産高	27,837,337	81	27,837,337	90	27,837,337	97	27,837,337	97	27,837,337	98
輸入高	6,636,658	19	3,236,021	10	985,367	3	844,377	3	512,852	2
總供給高	34,473,995	100	31,073,358	100	28,822,704	100	28,681,714	100	28,350,189	100
輸出高	541,322	—	657,101	—	106,802	—	6,389	—	152,452	—
需要高	33,932,673	—	30,416,257	—	28,715,902	—	28,675,325	—	28,197,737	—

備考 ○生產高は支那政府稅務署調查により76,079,442袋(民國22年)を2,733袋＝1擔として換算せるものを示す、猶本生產高は機械製粉にして需要の大部分を占むる舊式製粉(土粉)を含まず

○輸出入は海關中外貿易統計年刊により1934年以降は1公擔＝ 1,654擔として換算せるものを示した。

b 支那小麥粉仕出地別輸入高 （單位擔）

仕出地	1932年	割合	1933年	割合	1934年	割合	1935年	割合	1936年	割合
		%		%		%		%		%
日本	2,014,376	30	523,800	16	16,317	2	36,181	4	84,791	17
加奈陀	96,964	1	118,028	4	181,393	18	216,039	26	181,960	35
米國	3,916,139	59	1,002,902	31	587,789	60	285,411	34	57,713	11
濠洲	701,056	10	1,543,076	48	198,182	20	302,204	36	185,989	36
合計 (其他を含む)	6,636,658	100	3,236,021	100	985,367	100	844,377	100	512,852	100

備考 ○海關中外貿易統計年刊による。

○1934年以降は1公擔＝ 1,654擔として換算せるものを示す。

第二十五節　電氣事業

(一)　概　　說

1. 沿　　革

滿洲に於ける電氣事業は日本より15年遲れ帝政ロシアは南下政策の下に滿洲經營の根據地として大連に發電所の建設を計畫し明治35年卽ち1902年10月點燈開始を見たのが濫觴である。これは間もなく日露戰役で日本側に繼承され其後滿洲の電氣事業は大部分が日本側の資本技術によつて發展し日露戰役後明治の終に至る迄には旅順、大連、安東、營口、奉天、撫順、長春、本溪湖、遼陽、鐵嶺の10都市に事業開設を見、大正に入つてより、更に開原、瓦房店、大石橋、公主嶺、四平街、范家屯と相次いで滿鐵或は民間の投資に依る電氣事業會社が設立された。之と共に關東州內に於ては旅順を始め金州に事業が起されたが貔子窩、普蘭店は舊事業者より之を買收し今日各地の民政署によりて經營されてゐる。

他方露支側に於ては明治38年東淸鐵道が自家用として哈爾濱に發電設備を施設したのが最初で39年には滿洲里次いで吉林、奉天、長春と主要都市に事業開始を見た。

然るに大正の初から滿洲事變直前迄は支那側の所謂民族運動、利權回收運動が次第に强烈となつた時代で其の餘波も本事業に及び日本側が正當に獲得した附屬地外の供給權すら悉く拒否せられるる樣な狀態で之が爲一都市內に於ても二重投資が敢て行はれ日本側事業に壓迫が加へられた。斯くて日本側の優秀なる電氣經營技術も僅かに關東州と滿鐵附屬地の區域に跼蹐するの外なく前途誠に憂ふべき狀態にあつた。他方支那側は資本の不足、技術の拙劣其他の事因と相俟つて日と共に事業衰微の機運を醸成しつゝあつた。

然るに滿洲事變勃發し次いで新興滿洲國の成立を見るや此等日支雙方の紛爭禍根は一掃され先づ關東軍に於ては滿洲國と協議の結果多年の懸案なりし全滿電力供給事業の一元的統制が企圖され一統制會社をして經濟的にも最高能率を擧げ得る經營形態に移すと云ふ確固たる方針が樹てられた。斯くて昭和9年11月全滿主要都市に於ける電氣事業者が合同され各地に散在する地方小事業者を

其の統制下に置く日滿合辦の滿洲電業會社が設立された。

又斯る企業統制と相前後して周波數の統一、電壓の統制、電氣事業法の統一と云ふ電氣事業の基本的要素につき劃期的な統制を見たことは本統制の實現を一層速かならしめ且合同後の使命遂行を圓滑ならしめた重大事項である。

2. 滿洲事變後に於ける事業の統制

電氣事業は各般經濟の基調を爲す先驅的産業として重要なる役目を爲すを以て其の發達の初期に於て規準ある國家統一を行はずして圓滿なる電氣文化の發達を期し難く、從つて國民福利の增進に障碍あることは先進諸國の苦き經驗に徵しても明かなる所である。

滿洲に於ける既存の電氣事業は孰れも地方的に割據孤立し國際間に複雜なる關係あり更に建國と共に各種發電計畫相次いで畫策せられんとするに際し公共事業として低廉、豐富にして確實なる電力供給の使命を達成せしむるには滿洲に於ける特殊事情に順應し且つ將來を考へ事業の技術及經營に關し全國的統制方針を確立し實施を圖つてゐる。

イ　事業の技術統制

滿洲に於ける電氣周波數は區々であり技術的に視て多大の缺陷があるので此の統制は必然的に日滿兩國相提携するを必要とし此の議起るや兩國關係官廳並に事業者の協力に依り大同2年3月滿洲電氣協會內に滿洲電氣委員會を設立し爾來愼重なる討議及調査の結果同年11月供給用發送電に關しては標準周波數を50サイクルと爲す成案に到達した。更に電力統制並に普及上之と密接なる關係を有する電壓卽ち送配電線路及其他機器電壓の種類、區々なる現狀を整理し規格統制の爲康德元年10月前記委員會は標準電壓を決定したるを以て將來の施設は出來る限り該標準電壓に依ることゝ方針が定められた。

ロ　事業の經營統制

電氣事業は資源開發の原動力、文化向上、治安維持又は國防上重大なる使命を有し之に國家的統制を加へ合理的の方法を施さんとするは國家經濟建設の根本方針であり之が實現には技術的のみならず經濟的にも日滿渾然としたる事業の統制が必要である。

兩國は之に留意し相協同して全滿事業の合理工作案の審議を重ね次記の9大

以上の如く9大事業の合同を見たるも尙地方的の經營に就き統制を要するもの多く此等を滿洲電業會社の直營下に入らしむる樣な努力が行はれてゐる。殊に舊北滿鐵道接收後該鐵道自家用發電所も電業會社の直轄の中に迎へられ次第に全滿の電氣の統制へと其の基礎が固まりつゝある。

ハ　電氣料金の統制

從來電氣料金の算定は日本滿洲何れも電氣事業者で區々に個別的原價計算を行ひ該供給區域の料金と定めてあつた結果原價は何れも相異り全く均齊なる料金は實現を望むことが出來ない有樣であつた。從つて交通至便なる鐵道沿線と奥地との料金は勿論南滿北滿の地等に於ては料金上の差が非常に大であつた。從つて生活等にも差異を來し滿洲産業開發には著るしき障害を與ふるが故に料金政策に大改革を加へ均齊統一化を可及的短期間に實現すべく康德4年1月より政府は之が實施に着手してゐる。

産業開發上最重要なる地位を占むる特殊大口電力に對しては産業5箇年計畫と照應しつゝ該産業の事情と需要電力との性質により一般料金とは反對に産業の種類で料金を定むることゝし水力電氣と相俟つて之が實施に入らんとしてゐる。

3. 水力發電調査

滿洲に於ける電力の需要は躍進的增加を爲すことは明かなるが悉く此等電力は汽力又は內燃力發電に依つてゐるが燃料政策上考慮を要すべく永遠に不滅の水力資源を有效に開發し廉價豐富なる電力を供給せんと畫策せねばならぬ。

滿洲の河川は一般に長大なれども地勢概ね平坦降雨量も我內地の半に充たず河川の流量變動甚だしく水路式發電は困難なれども豐富なる水量を利用する堰堤式水力發電は極めて有望である。現に發電開發計畫の行はれて居るもの又は水力開發可能なる河川の主なるものは次の如くである。

鴨綠江水系、圖們江、第2松花江、牡丹江、漱江、遼河水系、灤河水系。

4. 發送電計畫

滿洲建國以來日滿兩國は愈々緊密不離となり、兩國經濟の合理的融合は益々其の重要性を加へて來た。玆に於て我國の諸産業增産計畫に照し康德4年以來5箇年に亙る産業開發計畫を樹て國富の增進及國防力の物質的基礎を急速に擴

事業を合同し日滿合辦の滿洲國法人の設立方を決定した。

△日本側合同參加事業者

南滿洲電氣株式會社	(滿鐵會社投資)
營口水道電氣株式會社	(日本側出資)
北滿電氣株式會社	(日本側出資)

△滿洲國側合同參加事業者

奉天電燈廠	(官營)
哈爾濱電業局	(官營)
新京電燈廠	(新京特別市營)
吉林電燈廠	(中央銀行營)
齊々哈爾電燈廠	(中央銀行營)
安東電業股份有限公司	(日滿合辦)

爾來兩國監督官廳並に各事業者より設立準備委員を擧げ鋭意進捗を計り幾多經緯を踏み具體案作成後最終の官廳の手續を了し、康德元年11月25日日本金9,000萬圓の滿洲電業會社を設立し、同12月1日各事業の引繼を了すると同時に營業を開始した。

其の資本金の內容は次の如くである。 (單位圓)

出資者名		現物出資	現金出資	計
日本側	南滿洲電氣會社	54,676,950	3,708,650	58,385,600
	營口水道電氣會社	4,137,100	280,600	4,417,700
	北滿電氣會社	—	1,800,650	1,800,650
	小計	**58,814,050**	**5,789,900**	**64,603,950**
滿洲側	滿洲國政府(奉電、哈電)	16,004,400	1,511,500	17,515,900
	新京特別市電燈廠	2,899,500	—	2,899,500
	中央銀行(齊電、吉電)	3,453,650	—	3,453,650
	安東電業公司	1,336,350	90,650	1,427,000
	小計	**23,693,900**	**1,602,150**	**25,296,050**
個人名義		—	100,000	100,000
小計		—	**100,000**	**100,000**
合計		**82,507,950**	**7,492,050**	**90,000,000**

充せんことを圖つた。5箇年計畫の企圖する產業の開發並に生產力の擴充は自然的開發を待つては到底期待し得ず、よつて可成急激な發展を5箇年間に要求するのである。此の厖大なる5箇年計畫遂行にはこれに相應するだけの大容量の電力が必要である。依つてこの爲に現存の3倍に達する發電計畫及びそれに附帶したる送電計畫とがある。その內容は主として水力に力を注ぎ第2松花江系水力18萬キロワツトの開發、鏡泊湖水系8萬キロワツト及び鴨綠江本流60餘萬キロワツトの開發の外電業會社の阜新中央火力發電所5萬キロワツト及び鴨綠江水系を鞍山大連の重工業地帶へ輸送すべき20萬ボルト送電線路等の計畫がある。

(二) 發電事業

1. 火力發電

所在地　大連市大正通　204　天の川發電所　(昭12-6現在)

設備容量　15,640KW　2臺　計31,280KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和7年	105,813,452	—	69,745	0.659
昭和8年	130,587,278	—	82,427	0.632
昭和9年	147,807,401	—	91,282	0.618
昭和10年	80,524,280	—	53,548	0.665
昭和11年	98,665,992	90,321,912	60,428	0.613

第9回、10回　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　關東州海猫屯會甘井子　甘井子發電所　(昭12-6現在)

設備容量　25,000KW　2臺　4,000KW　1臺　計54,000KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和7年	—	—	—	—
昭和8年	—	—	—	—
昭和9年	—	—	—	—
昭和10年	168,687,450	—	116,852	0.693
昭和11年	221,216,040	197,977,340	132,931	0.600

第9回、10回　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　營口南本街 306　營口發電所　(昭12-6現在)

設備容量　2,800KW 1臺 1,500KW 1臺 1,000KW 1臺 2,500KW 1臺　計7,800KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和 7 年	5,908,260	—	6,926	1.172
昭和 8 年	10,064,250	—	10,394	1.033
昭和 9 年	15,136,690	—	16,599	1.095
昭和 10 年	17,495,325	—	18,598	1.063
昭和 11 年	18,127,340	16,635,970	21,076	1.163

第9回　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　新京高砂町4ノ2　新京發電所　(昭12-6現在)

設備容量　14,000KW 1臺 7,000KW 2臺 6,250KW 1臺 15,000KW 1臺　計49,250KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和 7 年	17,280,085	—	16,373	0,947
昭和 8 年	25,222,314	—	23,357	0,926
昭和 9 年	39,051,014	—	36,184	0,926
昭和 10 年	55,952,146	—	48,436	0,866
昭和 11 年	75,487,350	67,542,860	65,517	0,867

第9回　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　安東南七條通 2　安東發電所　(昭12-6現在)

設備容量　5,000KW 2臺　3,000KW 2臺　計 16,000KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和 7 年	33,594,200	—	25,264	0.752
昭和 8 年	38,013,258	—	28,409	0.742
昭和 9 年	40,340,031	—	32,413	0.804
昭和 10 年	54,044,807	—	46,358	0.858
昭和 11 年	68,259,129	63,778,870	54,955	0.805

第9回　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　哈爾濱　馬家溝發電所　(昭12-6現在)

設備容量　14,000KW 2臺 6,480KW 1臺 4,200KW 1臺 2,000KW 2臺　計42,680KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和 7 年	—	—	—	—
昭和 8 年	—	—	—	—
昭和 9 年	—	—	—	—
昭和 10 年	—	—	—	—
昭和 11 年	62,789,000	57,431,970	57,325	0.914

滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　鞍山　昭和製鋼所發電所　(昭12-6現在)

設備容量　12,500KW 1臺　10,000KW 2臺　計32,500KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量瓩
昭和 7 年	75,812,500	73,074,288	ガス 405,852,871 石炭 15,092	ガス 5.354 石炭 0.199
昭和 8 年	80,026,010	77,126,696	ガス 424,298,839 石炭 10,306	ガス 5.402 石炭 0.128
昭和 9 年	92,526,500	88,221,398	ガス 459,312,416 石炭 19,033	ガス 5.064 石炭 0.205
昭和 10 年	74,971,600	144,164,077	ガス 334,949,514 石炭 21,122	ガス 4.468 石炭 0.282
昭和 11 年	84,705,900	178,443,541	ガス 333,841,376 石炭 29,254	ガス 3.941 石炭 0.345

昭和製鋼所業務統計に據る

所在地　撫順　大官屯第一發電所　(昭12-6現在)

設備容量　12,500KW 2臺　5,000KW 1臺　計30,000KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量立方米(瓲)	發電キロワット時當り燃料消費量 (瓲) 立方米
昭和 7 年	74,008,040	68,647,760	ガス 200,391,000 石炭 40,508	ガス 2.708 石炭 0.547
昭和 8 年	81,225,739	75,626,225	ガス 210,948,490 石炭 52,109	ガス 2.597 石炭 0.642
昭和 9 年	103,324,470	96,268,210	ガス 212,204,700 石炭 79,861	ガス 2.054 石炭 0.773
昭和 10 年	108,603,666	101,607,223	ガス 204,505,500 石炭 81,975	ガス 1.883 石炭 0.755
昭和 11 年	133,344,572	125,181,515	—	—

撫順炭礦作業統計に據る　滿洲電氣事業要覽に據る

所在地　撫順　大官屯第二發電所　(昭12、6現在)

設備容量　25,000KW　4臺　50,000KW　1臺　計150,000KW

年度別	發電量(KWH)	送電量(KWH)	燃料消費量(噸)	發電キロワット時當り燃料消費量(瓩)
昭和7年	131,546,130	121,497,632	108,952	0.828
昭和8年	147,245,000	137,876,968	125,370	0.851
昭和9年	175,075,800	163,199,290	144,568	0.826
昭和10年	355,407,200	329,147,546	279,912	0.788
昭和11年	447,306,900	412,077,022	—	—

撫順炭礦作業統計に據る　滿洲電氣事業要覽に據る

2. 水力發電

滿洲國內に於ては本邦の如く山間を流るる急流に乏しく降雨量も亦我國の半に達しない狀態であつて凡そ水力電氣等とは頗る緣遠い筈のものだと察せらるるのであるが東西北の三方面にかけては長白山、小興安嶺、大興安嶺等と云ふ雄大な山脈があり之に源を發する松花江、遼河、鴨綠江、圖們江、瀾河等と云ふ大河が橫へてゐるので此等に皆水力發電地點が發見せられてゐる。此等の河川は本邦の河川の如く急流ではないが水量が豐富なる大河であるから河川の本流を溯り其處に堰堤を築造しその落差によつて發電の計畫が行はれてゐる。此等順次具體的に實現化し事業化し能ふべきことも大に期待し得べくその發電量は恐らく3,000,000K.W. を下らざるものと察せらるる。滿洲國は此等の水系の開發發電計畫、工事を國營主義で行ひ綜合的なる河川利用計畫をモツトーとする方針に出てゐる。併し只一つの特例として鴨綠江の水力發電のみは滿洲國側にては所謂特殊會社制を採り朝鮮側の民營會社と共同して之が開發に當らしめてゐる。現に滿洲國に於て工事に着手し若くは着手せんとする水力發電事業計畫の大要は次の如くである。

水系	位置	發電方式	貯水容量立方米	堰堤長(米)	堰堤高(米)	使用水量立方米/毎秒
鴨綠江	水豐洞	堰堤式	15.5 ×10⁹	850	94	平均 690
松花江	吉林	〃	11.2 ×10⁹	1,100	80	平均 420
牡丹江	鏡泊湖	堰堤水路式	1.23×10⁹	1,700	13	平均 120

水系	有效落差(米)	發電力 第一期	發電力 最終期	建設費 第一期	建設費 最終期	營業形態
鴨綠江	77.4	640,000KW	—	100,000,000圓	—	鴨綠江水電
松花江	61.0	180,000KW	450,000KW	64,700,000圓	79,250,000圓	國營
牡丹江	最大65.0	80,000KW	—	10,000,000圓	—	〃

(三) 需給狀況

1. 電燈需要量

各省別電燈需要狀況　滿洲國側滿洲電業の分　昭和9年末現在 昭和11年末現在

區別 / 省州別	需用家數	電燈數	需用家一戶當り燈數	總戶數對需用戶數	人口1,000人當り燈數
關東州	73,883	433,909	5.9	40.0%	382
吉林省	41,680	295,349	7.1	5.2	55
龍江省	8,176	54,041	6.6	2.3	24
黑河省	1,410	6,615	4.7	11.8	120
三江省	1,574	6,753	4.3	0.9	7
濱江省	40,691	356,502	8.8	5.0	75
間島省	7,207	28,631	4.0	6.9	46
安東省	23,899	106,820	4.5	5.6	37
奉天省	113,776	800,970	7.0	7.2	80
錦州省	5,526	46,338	8.4	0.9	13
熱河省	1,415	9,982	7.1	0.2	4
興安省	4,322	25,745	6.0	1.6	17
計	**323,558**	**2,171,656**	平均 **6.7**	平均 **5.4**	平均 **60**

第10回　滿洲電氣事業要覽に據る

各主要都市別電燈需要狀況 (1) 滿洲電業供給の分

區別 / 都市別	需用家數	電燈數	需用家一戶當り燈數	總戶數對需用戶數	人口1000人當り燈數
大連	69,365	432,957	6.5	% 96	1,120
新京	32,588	283,996	8.7	51	980
奉天	53,622	475,411	8.9	39	680
哈爾濱	42,197	381,755	9.0	42	821
營口	12,456	58,918	4.7	53	433
安東	21,319	98,349	4.6	59	552
吉林	10,882	65,744	6.0	42	520
鞍山	8,887	55,113	6.2	80	1,057
チチハル	9,840	58,937	5.9	48	625
錦縣	5,343	46,675	8.7	27	571
牡丹江	3,705	24,344	6.6	29	417
計	**270,213**	**1,982,199**	**7.3**	**52**	**758**

昭和11年 滿洲電業社業統計に據る

各主要都市別電燈需要狀況 (2)

區別 / 都市別	需用家數	電燈數	需用家一戶當燈數	總戶數對需用戶數	人口1,000人當り燈數
撫順	12,738	96,812	7.6	% 34	496
本溪湖	4,726	18,454	3.9	73	529
計	**17,464**	**115,266**	—	—	—

(註) 第10回電氣事業要覽に據る

2. 電力需要量

各省州別電力需要狀況 昭和9年末滿洲電業の分滿洲國側昭和11年末現在

區別 / 省州別	需用家數	設備容量KW	需用家一戶當り設備容量KW	備考
關東州	4,084	74,508	18.2	
吉林省	1,625	16,035	9.9	
龍江省	123	1,303	10.6	
黑河省	7	18.2	2.6	
三江省	2	8.2	4.1	
濱江省	1,690	8,002	4.7	
間島省	23	78.5	3.4	
安東省	621	12,059	19.4	
奉天省	4,758	324,507	51.2	
興州省	101	882	8.7	
熱河省	1	2.2	2.2	
興安省	26	408	15.7	
計	**13,064**	**437,810**	平均 **33.6**	

第10回 滿洲電氣事業要覽による

各主要都市別電力需要狀況 (1) 滿洲電業供給の分

區別 / 都市別	需用家數	設備容量KW	需要家一戶當り設備容量KW	備考
大連	1,385	106,949	77.3	
新京	694	15,833	22.4	
奉天	1,721	57,016	33.1	
哈爾濱	1,735	16,690	9.7	
營口	241	4,184	17.6	
安東	525	19,984	38.1	
吉林	155	2,822	18.2	
鞍山	169	13,271	78.5	
チチハル	149	1,910	12.8	
錦縣	70	1,361	19.6	
牡丹江	76	1,188	15.6	
計	**6,920**	**241,208**	**34.8**	

昭和11年 滿洲電業社業統計に據る

各主要都市別電力需要狀況 (2)

區別 / 都市別	需用家數	設備容量KW	需用家一戶當り設備容量KW	備考
撫順	253	153,342.6	606.097	
本溪湖	106	16,816.3	158.554	
計	**359**	**170,158.9**	—	

（註） 第10回 電氣事業要覽に據る

全滿用途別電動機取附馬力數 （日本側遞信局管轄の分昭和11年3月末現在）

用途	馬力數	割合
紡織工業	4,137.200	1.5
金屬工業	4,524.350	1.6
機械工業	10,113.640	3.6
窯業	2,061.100	0.7
化學工業	4,538.800	1.6
食料品嗜好品、製造工業	13,776.425	4.9
乾溜工業	11,235.600	4.0
其他工業	9,332.400	3.3
採鑛精鍊工業	206,902.850	73.1
農業	1,282.250	0.5
家庭用	39.500	0.0
其の他	14,686.160	5.2
合計	**282,401.035**	**100.0**

箇所別用途別使用電力量 (KWH)

滿洲電業關係	總發受電量				794,758,711		—
	總販賣電量				696,742,666		100%
	內譯	家庭用(電燈及電熱)			106,129,764		15%
		工業用	動力	化學	152,297,751	31.7	69%
				金屬	144,678,068	30.2	
				紡績	36,515,002	7.6	
				食料品	27,999,510	5.8	
				機械器具	26,776,710	5.6	
				窯業	18,874,766	3.9	
				鑛業	9,071,695	1.9	
				豆油	7,157,841	1.5	
				製材木製品	5,835,315	2.1	
				農產水產	2,003,052		
				印刷製本	1,487,215		
				雜	946,088		
				其の他	45,727,530	9.7	
				計	**479,370,543**	—	
			電熱		2,136,684	—	
			小計		**481,507,227**	—	
		他の電氣事業に販賣			109,105,675	—	16%
撫順炭礦					303,110,148		—
昭和製鋼所					179,088,042		—

3. 發　電　量

a 全滿發電量增加狀況

K.W.H. 年次	發電量	增加比率%	備考
明治 40	1,050	—	
大正 1	21,640	1.227	
〃 6	87,480	1.133	
〃 11	153,320	1.150	
昭和 2	341,450	1.170	
〃 7	592,910	1.149	
〃 8	662,400	1.117	
〃 9	771,717	1.165	
〃 10	1,083,861	1.404	
〃 11	1,350,506	1.246	

註　發電量は滿電調査局の「滿洲に於ける電氣供給事業概說」に據る

b 箇所別發電量

箇所	發電量 KWH	比率 %
電業關係	585,852,324	—
撫順炭礦	525,421,776	—
昭和製鋼	83,793,500	—
本溪湖	53,335,810	—
其他	102,103,465	—
全滿計	**1,350,506,875**	**100%**

註　滿電調査局の「滿洲に於ける電氣供給事業概說」に據る

(四)　送配電線路及電氣鐵道

a 主要送電線路詳細表

名稱	兩端地名	使用電壓 V	回線數	亘長 K.M.	延長 K.M.
撫鞍線	撫順變—鞍山變	154,000	2	130,000	780,000
渾遼線	渾河變—遼陽變	44,000	2	57,758	346,548
京四線	新京變—四平街變	44,000	1	119,670	489,880
京吉線	新京變—吉林變	44,000	1	128,317	384,951
渾奉線	渾奉變—若松町變	44,000	2	7,597	45,582
奉鐵線	若松町變—鐵嶺變	44,000	1	65,698	197,094
鐵開線	鐵嶺變—開原變	44,000	1	33,464	100,392

名稱	電線種類	電線太さ M.M	支持物基數 鐵塔	鐵柱	木柱	建設費 圓
撫鞍線	鋼心アルミニユーム線	249.5	915	—	—	2,292,836
渾遼線	〃	B.S 1/10	—	669	—	629,210
京四線	裸硬銅撚線	7/2.3	1,022	—	—	745,777
京吉線	〃	7/2.6	—	76	1,633	589,177
渾奉線	〃	19/2.6	20	—	42	108,493
奉鐵線	鋼心アルミニユーム線	101.27	442	—	—	827,747
鐵開線	〃	101.27	223	—	—	377,155

（第9回遞信局電氣事業要覽に據る）

b 滿洲に於ける送電線亘長　（昭和12年6月現在）

公稱電壓 V	亘長 M
10,000	448,328
20,000	1,289,607
30,000	181,282
40,000	532,345
60,000	56,393
140,000	130,000
合計	**2,637,955**

（第9回遞信局電氣事業要覽に據る）

c 滿洲電業株式會社系統

線名稱	亘長 M					
	11 K.V.	22 K.V.	33 K.V.	44 K.V.	66 K.V.	154K.V.
甘大線	—	—	—	—	13,193	—
天春線	—	6,332.3	—	—	—	—
春敷線	—	2,819.0	—	—	—	—
神敷線	—	5,790.0	—	—	—	—
周神線	—	4,871.0	—	—	—	—
天神線	2,393	—	—	—	—	—
周甘線	—	5,924.0	—	—	—	—
福紡分岐	—	505.0	—	—	—	—
滿石線	—	1,306.0	—	—	—	—
甘石線	—	2,370.0	—	—	—	—
金州線	—	20,000.0	—	—	—	—
周水子分岐	—	1,354.0	—	—	—	—
金民分岐	—	1,431.0	—	—	—	—
牧城子	—	11,426.0	—	—	—	—
金着線	—	43,506.0	—	—	—	—
普瓦線	—	29,289.0	—	—	—	—
三十里堡岐	—	572.0	—	—	—	—
周南線	—	6,505.0	—	—	—	—
小野田	—	2,959.0	—	—	—	—
大正廣場線	—	—	—	—	—	—
大革分岐	—	508.0	—	—	—	—
沙河口鐵道工場分岐	—	4,081.0	—	—	—	—
鳳鷄線	17,174	—	—	—	—	—
安鳳線	57,663	—	—	—	—	—
新義州	2,806	2,545.0	—	—	—	—
水源地	20,671	—	—	—	—	—
田庄臺	4,211	—	—	—	—	—
河北	19,648	—	—	—	—	—
三家子	7,976	—	—	—	—	—
大石橋	21,675	—	—	—	—	—
揚家杖子	—	79,000.0	—	—	—	—
連興線	—	21,010.0	—	—	—	—
連壺線	—	11,371	—	—	—	—
鞍海線	38,230	—	—	—	—	—
海牛線	20,555	—	—	—	—	—
鞍立線	3,310	—	—	—	—	—
鞍八線	3,300	—	—	—	—	—
遼首線	—	—	—	6,570	—	—
北朝線	41,891	—	—	—	—	—
通錢線	—	25,420	—	—	—	—
錢大線	—	23,460	—	—	—	—
撫鞍線	—	—	—	—	—	130,000
渾奉線	—	—	—	7,597	—	—
渾遼線	—	—	—	57,758	—	—
撫奉線	—	—	—	53,508	—	—
奉鐵線	—	—	—	65,698	—	—
鐵開線	—	—	—	33,464	—	—
四馬路變	—	—	—	7,374	—	—
煙臺線	16,068	—	—	—	—	—
大東邊門線	—	—	—	7,000	—	—
京四線	—	—	—	119,670	—	—
長通線	—	—	—	4,299	—	—
京吉線	—	—	—	128,317	—	—
哈達灣線	—	—	—	410	—	—
安達街線	—	—	—	5,600	—	—
道裡線	—	4,795	—	—	—	—
哈七線	—	20,128	—	—	—	—
鐵道工場分岐	—	336	—	—	—	—
昻々溪線	24,800	—	—	—	—	—
白城子	—	31,481	—	—	—	—
牡寧線	—	31,103	—	—	—	—
鶴佳線	—	76,500	—	—	—	—
合計	302,371	478,637	—	497,275	13,193	130,000

d 其 他 各 社

事業者名	線名稱	亘長 (M) 11K.V.	22K.V.	33K.V.	44K.V.	66K.V.	154K.V.
滿洲電業株式會社	鞍遼線	—	—	—	22,604	—	—
	西朝線	—	96,677.0	—	—	—	—
	沙山支線	—	35,866.0	—	—	—	—
	朝磐線	—	39,291.0	—	—	—	—
	牡寧線	—	48,000.0	—	—	—	—
	綏芬河—河沿	—	48,000.0	—	—	—	—
	富拉爾基線	13,794	—	—	—	—	—
本溪湖煤鐵公司	本溪湖—廟兒溝	—	31,000.0	—	—	—	—
遼陽電燈公司	遼弓線	—	34,428.0	—	—	—	—
大石橋電氣株式會社	石蓋線	28,490	—	—	—	—	—
開原電氣株式會社	開豐線	—	67,321.0	—	—	—	—
大同電氣株式會社	四八線	—	27,288.0	—	—	—	—
	四雙線	30,000	—	—	—	—	—
	雙泉線	13,093	—	—	—	—	—
	八三線	—	36,494.5	—	—	—	—
	三鄭線	—	28,192.5	—	—	—	—
大同公主嶺支店	公伊線	—	47,088.0	—	—	—	—
延吉電業股份有限公司	延龍線	—	15,577.0	—	—	—	—
	延朝線	—	11,700.0	—	—	—	—
	龍頭線	—	19,308.0	—	—	—	—
	朝銅線	—	10,057.0	—	—	—	—
	朝八線	—	19,752.0	—	—	—	—
	圖延線	—	—	—	—	43,200	—
北安電業股份有限公司	北泰線	—	103,618.0	—	—	—	—
	前扶線	—	7,682.0	—	—	—	—
	大資線	—	66,500.0	—	—	—	—
	山秦線	—	17,130.0	—	—	—	—
滿鐵撫順炭礦發電所	大官屯	—	—	—	—	—	—
八道壕炭礦電氣廠	老虎臺—龍臺	60,580	—	—	12,466	—	—
	新民線	—	—	89,350	—	—	—
	北鎮線	—	—	29,236	—	—	—
	新立屯	—	—	26,200	—	—	—
	孫家灣線	—	—	36,496	—	—	—
	阜新分岐線	—	—	6,240	—	—	—
全合計		448,328	1,289,607	181,282	532,345	56,393	130,000

e 主要變電所

名稱	出力 K.V.A.	設備	電壓 1次 K.V.	電壓 2次 K.V.	建設費
撫順變電所	60,000	K.V.A. 20,000×4	10	140	930,000
鞍山變電所	90,000	K.V.A. 30,000×4	140	40	1,600,000
渾河變電所	30,000	K.V.A. 10,000×4	140	40	990,000

f 滿洲に於ける變電設備

事業者別	變電設備箇所數	變電設備容量
滿洲電業會社	108	K.V.A 450,166
同關係會社	50	20,055
自家用兼供給事業	32	111,680
官營	7	3,340
其の他	2	100
合計	199	K.V.A 585,341

電業社業統計及第9回遞信局電氣事業要覽による

g 主要都市に於ける配電設備概要

都市名	線路亘長 KM	變壓器 數量 箇	變壓器 容量 KVA	電柱本數
大連	759.38	2,176	26,989.0	20,252
營口	171.30	412	3,629.0	4,593
鞍山	135.90	322	2,014.5	3,786
奉天	759.00	1,280	11,765.5	8,744
安東	283.30	739	7,025.0	7,625
撫順	768.20	1,603	135,847.0	18,799
新京	439.02	1,734	17,061.0	11,322

h 滿洲に於ける配電設備概況

事業者	亘長(米)	支持物數	變壓器數量	變壓器容量
滿洲電業會社	M 3,895,910	本 107,290	個 12,773	K.V.A 138,350
同關係會社	978,832	24,827	2,362	15,644
自家用兼供給事業	147,614	25,445	1,686	56,753
其の他	141,212	4,074	36	633
計	5,163,568	161,636	16,857	K.V.A 211,380

滿洲に於ける電氣鐵道概況（昭和12年3月末現在）

事業者名	施設地方	式	軌間(米)	電車線電壓	軌道延長 單線(米)	軌道延長 複線(米)	軌道延長 計(米)	軌道延長	軌條 形成	軌條 太さ(kg/m)	車輛 種別	車輛 重量(噸)	車輛 數	車輛 電動機數	車輛 各電動機1馬力數
大連都市交通會社	大連市内線	架空單線式	1,435	600	7,202	27,826	35,028	66,447	T型25～45		客車、ボギー車	15.0	10	2	40
											同	14.9	30	2	40
											同	15.0	5	2	45
											同	14.0	20	2	40
											同	19.0	20	2	50
											客車、同 單車	10.4	12	2	40
											同 同	8.5	20	2	25
											同 同	8.0	15	2	25
											貨撒、ボギー車	14.0	5	2	50
											撒水 ボギー單	18.0	1	2	0
											電車 機關	5.0	1	2	—
											同	85.0	35	4	325
											同	73.0	2	4	290
											同	55.0	3	4	275
											同	50.0	8	4	150
											同		9	4	
											同	40.0	3	4	125
											同	30.0	1	2	110
											同	25.0	8	2	100
											同	12.0	23	2	55
滿鐵會社撫順炭礦區	撫順炭礦區内線	架空單線式	1,435	1,200	34,916	9,732	44,648	144,315	T型26～41		客車、ボギー車	28.0	4	2	55
											同 同	26.7	5	2	45
											客車附隨車 ボギー車	23.5	2	4	80
											同 同	23.7	3	—	80
											貨車附隨車 ボギー車	19.0	6	—	40
											同 同	19.0	2	—	—
											同 四輪	60.0-40.0	490	—	—
												30.0	27	—	—
											同 同	50.0-30.0	140	—	—
												30.0	75	—	—
合計			—	—	42,118	37,558	79,676	210,762					機 76 客 169 貨 739	—	—

第10回 電氣事業要覽による

（五） 電氣事業者業態

a 資本金、公積金及借入金 （單位國幣圓）

全滿各省電氣會社に於けるもの （昭和10年末現在）

省名	公稱資本金	拂込資本金	固定資本金	各種公積金	社債及借入金
吉林省	953,775	631,500	693,468	40,981	56,388
龍江省	520,000	260,000	442,722	7,428	123,400
黑河省	198,000	198,000	183,713	1,585	—
三江省	223,075	223,075	220,394	1,472	37,053
濱江省	2,273,636	1,295,893	1,747,883	20,730	296,096
間島省	481,592	447,140	617,447	76,118	163,000
安東省	200,000	200,000	173,771	700	—
奉天省	14,653,318	13,727,343	22,527,498	6,158,415	5,901,897
錦州省	18,731,570	2,731,570	2,784,217	159,263	77,000
熱河省	40,000	40,000	117,629	—	89,000
興安東省	61,600	—	21,600	—	—
興安北省	282,975	282,975	281,449	2,210	5,000
哈爾濱特別市	1,632,166	1,632,166	1,632,166	—	—
新京特別市	90,000,000	90,000,000	92,303,417	—	—
合計	**130,252,207**	**111,669,662**	**123,752,374**	**6,468,902**	**6,753,834**

第3回 電氣事業要覽（産業部）に依る

全滿 （單位圓）

形態別	公稱資本金	拂込資本金	積立金	社債及借入金	固定資産
官營	—	—	—	—	2,303,833
滿洲電業會社	90,000,000	90,000,000	3,043,000	25,000,000	108,115,842
株式會社	16,665,679	14,259,655	2,074,833	1,395,299	16,426,948
其の他	40,000,000	22,375,000	1,001,357	—	3,823,983
自家用兼供給	7,000,000	7,000,000	—	—	19,935,656
計	**153,665,679**	**133,634,655**	**6,119,190**	**26,395,299**	**136,427,379**

（昭和11年12月末現在）

昭和12年11月電業會社は公稱資本金を160,000,000圓に增資することに決定し現在拂込資本金125,000,000圓となつてゐる。

b 資産及收支狀況

滿洲電業會社（昭和11年度）

資産（12月末現在）

區分	固定資産							投資	流動資産	雜勘定	計
	發電所	變電所	送電線路	配電線路	屋内設備	諸設備其他	計				
本店	—	—	—	—	—	7,541,543.19	7,541,543.19	—	—	—	—
大連支店	15,489,919.32	2,773,757.81	1,966,801.76	4,066,471.09	3,162,986.35	1,332,160.03	28,792,096.36	—	—	—	—
奉天支店	2,364,261.31	4,351,061.36	5,446,662.21	4,267,854.36	1,836,195.95	1,095,995.43	19,362,030.62	—	—	—	—
新京支店	5,683,711.93	1,069,904.19	2,160,010.01	2,612,101.38	1,106,433.95	1,253,138.76	13,885,300.22	—	—	—	—
哈爾濱支店	8,012,503.81	373,661.78	645,677.09	3,343,459.07	356,574.98	941,084.31	13,672,961.04	—	—	—	—
安東支店	3,014,721.37	149,697.80	515,255.00	1,097,162.98	803,658.11	290,837.97	5,871,333.23	—	—	—	—
營口支店	1,721,572.87	132,568.50	275,631.68	731,017.52	973,716.25	248,681.51	4,083,188.33	—	—	—	—
鞍山支店	66,809.95	392,231.08	273,262.95	577,789.33	403,849.77	212,737.87	1,926,680.95	—	—	—	—
吉林支店	1,409,909.30	239,006.18	31,410.78	474,188.86	247,396.83	294,302.90	2,696,214.85	—	—	—	—
齊々哈爾支店	1,356,709.66	—	56,304.54	326,565.43	94,899.81	349,118.24	2,183,597.24	—	—	—	—
牡丹江支店	1,456,434.53	78,445.52	99,389.44	378,411.36	49,227.32	224,196.41	2,286,104.58	—	—	—	—
其の他支店	2,434,950.32	214,560.16	796,724.41	1,144,083.79	495,091.25	729,381.02	5,814,790.95	—	—	—	—
計	**43,011,504.37**	**9,774,894.38**	**12,267,129.87**	**19,019,105.17**	**9,530,030.57**	**14,513,177.64**	**108,115,842.00**	**6,041,528.40**	**11,777,415.10**	**3,697,259,28**	**129,632,044.78**

滿洲電業社業統計に據る

收支狀況

區分	收入				支出											利益
	電燈收入	電力收入	雜收入	計	發電費	電力購入費	變電費	送電費	配電費	屋内設備	營業費	總係費	支拂利息	計		
本店	—	—	1,325,490.62	1,325,490.62	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
大連支店	2,943,342.35	4,074,562.59	370,762.82	7,388,667.76	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
奉天支店	3,127,633.81	3,093,230.67	74,199.68	6,295,064.16	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
新京支店	2,219,359.79	1,342,574.01	45,421.77	3,607,355.57	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
哈爾濱支店	2,428,425.25	1,120,290.91	85,996.27	3,634,712.43	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
安東支店	760,168.21	1,130,987.20	17,760.98	1,908,916.39	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
營口支店	469,596.95	431,924.42	12,804.27	914,325.64	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
鞍山支店	397,526.20	428,076.46	9,224.11	834,826.77	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
吉林支店	632,878.24	178,089.77	10,216.53	821,184.54	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
齊々哈爾支店	585,503.22	161,735.37	14,542.20	761,780.79	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
牡丹江支店	376,270.78	148,287.16	21,799.44	546,357.38	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
其の他支店	953,353.84	241,162.81	24,892.11	1,219,408.76	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—
計	**14,894,058.64**	**12,350,521.87**	**2,013,110.80**	**29,258,090.81**	**8,084,165.97**	**2,293,006.90**	**298,454.51**	**301,076.95**	**1,741,911.67**	**1,204,541.05**	**4,010,750.28**	**8,057,342.26**	**667,487.20**	**21,658,686.79**		**7,599,404.02**

滿洲電業社業統計に據る

○全滿各省電氣會社に於けるもの　(昭和10年末現在)

收入狀況

省名	電燈收入	電力收入	雜收入	計
關東州民政署	417,757	294,815	—	712,572
滿洲電業社會	13,031,264	9,648,906	1,667,368	24,347,538
吉林省	513,889	93,453	25,753	633,095
龍江省	197,771	3,974	22,064	223,809
黑河省	92,194	—	13,837	106,031
三江省	129,159	—	2,215	131,374
濱江省	505,559	67,409	17,127	590,095
間島省	335,140	39,218	4,212	378,570
安東省	34,757	71	2	34,830
奉天省	1,751,525	918,052	72,963	2,742,540
錦州省	386,690	61,045	55,016	502,751
熱河省	54,577	120	9,938	64,635
興安東省	44,392	—	—	44,392
興安北省	154,823	17,359	5,041	177,223
哈爾濱特別市	21,436	4,460	3	25,899
合計	**17,670,933**	**11,148,882**	**1,895,539**	**30,715,354**

第3回　電氣事業要覽(產業部)に據る

○全滿各省電氣會社に於けるもの　(昭和10年末現在)

支出狀況

省名及社名	發電費	變電費	送電費	配電費	屋內設備	電力購入費	營業費	減價償却	財產除却	支拂利息	其の他	計
關東州民政署	685	13,890	11,774	90,906	50,439	286,081	48,690	—	—	—	—	502,465
滿洲電業會社	4,762,471	176,371	159,025	539,472	967,023	1,501,609	3,254,098	1,788,787	260,183	365,465	3,085,454	16,859,958
吉林省	109,506	4,329	1,012	39,522	1,057	119,961	180,192	27,001	10,147	20,095	4,598	517,420
龍江省	88,132	—	63	17,692	—	—	64,713	20,812	12,440	8,104	—	211,956
黑河省	19,561	—	—	1,149	—	—	28,798	9,522	—	—	—	59,030
三江省	67,068	—	—	1,190	2,401	—	18,440	10,410	2,969	—	—	102,478
濱江省	235,791	—	610	8,366	—	—	134,607	1,409	79	10,341	5,079	396,282
間島省	90,482	—	—	19,876	—	52,811	84,915	8,825	25,323	6,809	—	289,041
安東省	13,538	—	—	2,418	—	5,342	5,978	3,697	61	—	54,439	85,473
奉天省	559,190	44,795	39,633	170,537	56,831	997,502	509,031	128,477	92,234	54,825	57,959	2,711,014
錦州省	214,949	—	—	53,388	—	13,175	105,625	32,981	4,219	1,020	—	425,357
熱河省	21,463	—	—	5,785	—	—	16,475	—	1,000	1,178	—	45,901
興安東省	10,851	—	—	2,416	297	—	13,500	—	—	—	408	27,472
興安北省	96,769	—	—	6,573	650	—	43,456	—	5,011	94	3,550	156,103
哈爾濱特別市	19,895	—	—	2,979	—	—	690	—	—	—	3,760	27,324
合計	**6,310,351**	**239,385**	**212,117**	**962,269**	**1,078,698**	**2,976,481**	**4,509,208**	**2,031,921**	**413,666**	**467,931**	**3,215,247**	**22,417,274**

第3回　電氣事業要覽(產業部)に據る

c 滿洲に於ける電氣鐵道會社收支狀況 (昭和11年度末)

支　　出

事業者名	營業費	變電所運轉費	電線路維持費	車輛維持費	軌道維持費	電力購入費	合計
滿鐵會社撫順炭礦	548,228	—	83,561	381,631	299,912	—	1,313,332
大連都市交通會社	539,769	22,280	122,839	157,733	—	136,423	979,042
計	**1,087,997**	**22,280**	**206,400**	**539,364**	**299,912**	**136,423**	**2,292,374**

收　　入

事業者名	客車	貨車	其の他	合計
滿鐵會社撫順炭礦	225,146	1,315,111	58,560	1,598,817
大連都市交通會社	1,659,830	3,412	14,607	1,677,848
計	**1,884,976**	**1,318,523**	**73,167**	**3,276,665**

第10回　滿洲電氣事業要覽に據る

(六) 電氣料金

a 各主要都市別電燈料金(從量燈) (單位錢)　(昭和12年9月末現在)

區別 / 都市別	電氣料(K.W.H.)1燈月 3K.W.H.まで	6K.W.H.まで	15K.W.H.まで	15K.W.H.超過	準備料金1燈月 10燈まで	20燈まで	50燈まで	50燈超過	設備損料1燈月
大連	11	11	9	7	13	13	11	8	5
奉天	11	11	9	7	13	13	11	8	5
營口	15	15	13	10	14	14	12	10	5
安東	11	11	9	7	13	13	11	8	5
錦縣	20	20	18	16	15	15	14	13	5
新京	11	11	9	7	13	13	11	8	5
吉林	20	20	18	16	15	15	14	13	5
哈爾濱	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牡丹江	20	20	—	—	32	—	—	—	—
チチハル	23	23	21	19	15	15	14	13	5
鞍山	11	11	9	7	13	13	11	8	5
撫順	10	9	8	8	13	13	11	3	5
本溪湖	12	10	8	8	15	13	13	10	5

第10回　電氣事業要覽(電協編)に依る

b 各主要都市別電燈料金(定額) (1) 單位錢(昭和12年9月末現在)

區別 / 都市別	屋內夜間燈料(1燈月) W	10	20	30	40	60	100	200	晝夜間燈料	設備損料	備考
大連	45	60	75	90	120	180	330		屋內夜間燈料15割增	5	金票
奉天	45	60	75	90	120	180	330		〃	5	〃
營口	65	85	105	125	165	245	410		〃	5	〃
安東	45	60	75	90	120	180	330		〃	5	〃
錦縣	105	135	175	215	290	450	別定にむ		〃	5	國幣
新京	45	60	75	90	120	180	330		〃	5	〃
吉林	100	120	150	180	240	360	600		〃	5	〃
哈爾濱	95.1	135.3	170.6	195.1	285.3	480.4	670.6		〃	5	〃
牡丹江	120	160	200	240	320	480	別定にむ		〃	10	〃
チチハル	120	150	190	230	300	450	700		〃	5	〃
鞍山	45	60	75	90	120	180	330			(ハ) 5	金票
撫順	42	60	75	90	120	180	330			5	〃
本溪湖	45	65	—	100	135	205	360			(ハ) 5	〃

(註) (ハ)使用を休止したる場合臨時燈及街燈は徵收せず

c 各主要都市別電燈料金(定額) (2) 單位錢(昭和12年9月末現在)

區別 / 都市別	街路燈料金(1燈、月) 10W	20	30	40	60	100	200	300	400	500	門軒燈料(1燈、月)	設備損料	備考
大連	32	42	53	63	84	126	230	335	435	540	街路燈料に同じ	5	金票
奉天	32	42	53	63	84	126	230	335	435	540	同	5	〃
營口	45	60	74	88	115	172	285	390	500	580	同	5	〃
安東	32	42	53	63	84	126	230	335	435	540	同	5	〃
錦縣	74	95	123	151	203	315	別に定む				同	5	國幣
新京	32	42	53	63	84	126	230	335	435	540	同	5	〃
吉林	70	84	105	126	168	252	420	590	750	910	同	5	〃
哈爾濱				別に之を協定す							屋內燈料3割引	5	〃
牡丹江	84	112	140	168	224	336	別に定む				街路燈料に同じ	10	〃
チチハル	84	105	133	161	210	315	490	660	845	1,010	屋內燈料に同じ	5	〃
鞍山	32	42	53	63	84	126	230	335	435	540	街路燈料に同じ	5	金票
撫順	27	42	53	63	84	126	230	別に定む			同	5	〃
本溪湖	32	46	—	70	95	145	252	—	413	473	同	5	〃

d 各主要都市別電力料金　單位錢（昭和12年9月末現在）

區別 / 都市別	低壓電動力料金					高壓電動力料金
	準備料又は最低料金	電氣料金(KWH付)1箇月間使用量 1,000 K.W.H. まで	5,000まで	1,0000まで	1,0000以上	
大連	150	3.4	2.8	2.6	2.4	準備料金電氣料共低壓電動力料金の五分引とす但し奉天に於て六千六百ボルトを以て供給する場合は六分引とす
奉天	150	3.4	2.8	2.6	2.4	
營口	150	3.4	2.8	2.6	2.4	同
安東	150	3.4	2.8	2.6	2.4	同
錦縣	200	7.0	6.4	6.2	6.0	低壓の5%引
新京	150	3.4	2.8	2.6	2.4	大連地方と同じ
吉林	(國幣)200	5.2	4.6	4.4	4.2	低壓の5%引
哈爾濱	(〃)200	6.0	5.4	5.2	5.0	同
牡丹江	(〃)250	8.0	7.4	7.2	7.0	同
チチハル	(〃) —	13.0	13.0	13.0	13.0	同
鞍山	150	3.4	2.8	2.6	2.4	大連地方と同じ
撫順	△ 150～14	2.5	2.4	2.2	2.0	同
本溪湖	▲ 200	契約容量一單位當一ヶ月間の平均使用量 100K.W.H.迄	100—200	4.5	—	同
			200—	4.0 / 3.5		

第10回　滿洲電氣事業要覽に據る

單位錢

種別 / 都市別	電熱料金 最低料金(1K.W.H.に付) 契約容量4KWまで	4K.W.以上	電氣料金(1K.W.H.に付)	備考
大連	150	100	4	
奉天	150	100	4	
營口	150	100	4	
安東	150	100	4	
錦縣	200	150	別に定む	
新京	150	100	4	
吉林	200	150	6	
哈爾濱	192.31	144.24	5.77	
牡丹江	360	360	13	
チチハル	別に定む			
鞍山	200	100	5	使用休止又は設備撤廢の場合は(採燈用を除く)承口又は計器1箇に付50錢の手數料を要す。
撫順	100	100	3	
本溪湖	150	100	4	

用語解說

一般　電　流　單位時間中に導體を流れる電氣量水に就て云へば一秒間5立方米の水流と云ふが如きもので實用單位をアンペアと云ふ。

電　壓　電流を生ぜしめんとする傾向の强弱を示す語にして實用單位をボルトにて表はす、水に就て水位の差に相當する。

家庭用電燈線の電壓は100ボルトにして滿洲に於ける標準電壓は 100^{V}. 200^{V}. 400^{V}. $2{,}000^{V}$. $3{,}000^{V}$. $6{,}000^{V}$. $10{,}000^{V}$. $20{,}000^{V}$. $30{,}000^{V}$. $40{,}000^{V}$. $60{,}000^{V}$. $100{,}000^{V}$. $140{,}000^{V}$. $200{,}000^{V}$

電　力　電氣エネルギーの爲し得る仕事で馬力又はワット、キロワットにて表はす、1キロワット＝1,000ワット、1馬力＝746ワット

電力量　一定期間に於ける電力の總計にて、通常（キロワット）×（時間）でこれを「キロワット時」と云ふ。

卽ち、1,000キロワットづゝ3時間使用したる、電力量は3,000キロワット時である。

直　流　電流の流れる方向が常に一定方向に流れる電流を云ふ。

交　流　略一定時間毎に交互に逆の方向に流れる電流を云ふ。

周波數　交流が一秒間に幾度其方向を變へるかを表はす數を云ふ單位をサイクルと云ふ。通例の周波數は50、又は60サイクルである。滿洲の周波數は50サイクルが標準である。

電力損失　發生電力と使用電力との差で線路內で熱等に變形して實際使用されぬ電力を云ふ、例へば送水する際の漏水の如きものに相當する。

電壓降下　電力源と使用側との電壓の差を電壓降下と云ふ、送電線の電壓降下は10%以內に止むるを通例とし受電々壓の10%增を以て送電々壓としてゐる。

負　荷　電氣機械を運轉して實際に爲さしめつゝある仕事量を云ふ單位はキロワット又は馬力を用ふ。

電線路　電線と之を支持又は保藏する工作物を云ふ。

火 力 發 電 所

火力發電所の種類　一般には石炭を燃き蒸汽を發生しその汽力にてタービン發電機を運轉して電力を發生する所なるが使用する燃料によつて重油を用ふる內燃機發電所、ガスを用ひたるガス力發電所等がある。此等を總稱して汽力發電所と云ふが適してゐる。

火力發電所の熱効率　發電に使用したる熱量と汽罐に加へたる熱量との比にして發電搖籃時代には５％位のものであつたが現在は25％位まで增進し稀には30％以上のものもある。

自用電力量　所內電力量とも云ひ電力發生の爲發電所用諸動力に使用する電力量で通例發生電力量の７％乃至20％位である。

燃料消費量　電力を發生せしむるに要する燃料の使用量にして汽罐及發電機の大さ燃料の種類、發熱量に依つて異れども、１キロワツト時發生に要する石炭消費量は大體、電業會社發電所にては大容量發電所にて0.55kg乃至1.0kg 程度である。

水 力 發 電 所

水力發電所の種類　水位の差をつける方式より分けると水路式及堰堤式の二つに分けられる。前者は河川に沿うて水路を掘鑿し河川の急勾配と屈曲とを利用して水位差を得る方式で後者は堰堤に依つて河川の水を堰き上げる事に依つて主として水位差をつけてゐる。その他、潮汐干滿の差を利用する潮力發電、又はポンプ揚水式の發電等がある。

出　力　水力發電所の使用水量を每秒Q立方米、水位の差をH米とすると理論發生電力は9.8QHキロワツトにして水車及び發電機の綜合能率をｅとすると發生電力は9.8 QHe キロワツトである。

送　電、變　電

變壓器　電流の感應を利用して交流電壓を昇降せしむる裝置を云ふ。

送電々壓　普通標準電壓の 10％ 增の電壓を以て 送電々壓とし滿洲に於ては 11,000ボルト 22,000ボルト 33,000ボルト 44,000ボルト 66,000ボルト 154,000ボルトが現在用ひられてゐる。

送電方式　通常交流３相３線式が用ひられてゐる、これに對して直流送電も

考へられてゐるが、機器の設備其他で未だ實用されてゐるのが少い。

線路の亘長及延長　亘長とは線路架設距離を云ふ。

延長とは電線の長さの言にして３線式なれば亘長の３倍である。

配　電　關　係

配電方式　交流３相３線式が普通用ひられてゐるが、時には３相４線式を用ひてゐる場合もある。尙市街電車、昇降機、電氣分解等の如く負荷の種類によつて直流低壓の配電を行ふ場合もある。

配電々壓　１次變電所より２次變電所へは 11,000ボルト 22,000ボルトを用ひ２次變電所より 3,300 ボルトに降壓し市街配電を行ひ、更に需要家への電燈用として 100～110 ボルト動力用として 200～220 ボルトで供給を行つてゐる。

配電用變壓器　大口需要家を除き一般需要家への配電用變壓器は電柱上に備付けられたる柱上變壓器で電壓を 3,300 ボルトより100～200ボルトに降してゐる。變壓器は小型のものより大型のものまであれど大體１臺50キロボルトアンペア以下のものが使用せられてゐる。

送電配電による損失　送電變電及び配電による電力損失は電力及び線路の太さで異つてゐるが送電線路では經濟的設計の場合その損失2～10％である。變電の損失は 2～5％ 配電損失は線路の種類により 6～15％位である。

第二十六節　鐵　　道

(一)　經營別線別粁數

a.　滿鐵經營線別營業粁程表　(昭和12年12月1日現在)

經營主體		線名	區間	營業粁程	備考
滿鐵	社線	連京線	大連埠頭～新京	704.3	營業中
〃	〃	安奉〃	安東～蘇家屯	260.2	〃
〃	〃	撫順〃	蘇家屯～撫順	52.9	〃
〃	〃	營口〃	大石橋～營口	22.4	〃
〃	〃	旅順〃	周水子～旅順	50.8	〃
〃	〃	煙臺〃	煙臺～煙臺炭礦	15.6	〃
〃	〃	吾妻〃	大連～吾妻	2.9	〃
〃	〃	入船〃	沙河口～入船	4.0	〃
〃	〃	甘井子〃	南關嶺～甘井子埠頭	11.9	〃
〃	〃	楡樹臺渾河〃	渾河～楡樹臺	4.1	〃
〃	〃	小計		1,129.1	
滿鐵委任	國線	奉山線	奉天～山海關	419.6	〃
〃	〃	皇姑屯奉天總站〃	奉天總站～皇姑屯	2.8	〃
〃	〃	錦承〃	錦縣～承德	436.1	〃
〃	〃	河北〃	溝幫子～河北	91.1	〃
〃	〃	北票〃	金嶺寺～北票	17.9	〃
〃	〃	葉峰〃	葉柏樹～赤峰	146.9	〃
〃	〃	壺盧島〃	連山～壺盧島	13.2	〃
〃	〃	新義〃	新立屯～義縣	131.5	〃
〃	〃	奉吉〃	奉天～吉林	447.4	〃
〃	〃	平梅〃	四平街～梅河口	156.3	〃
〃	〃	梅通〃	梅河口～通化	130.1	〃
〃	〃	京圖〃	新京～圖們	528.0	〃
〃	〃	小新連絡〃	小姑家～新站	9.1	〃
〃	〃	奶子山〃	蛟河～奶子山	9.5	〃
〃	〃	朝開〃	朝陽川～上三峰	62.3	〃
〃	〃	圖佳〃	圖們～佳木斯	583.8	〃
〃	〃	虎林〃	林口～虎林	335.7	〃
〃	〃	濱綏〃	哈爾濱～綏芬河	546.4	〃
〃	〃	拉濱〃	拉法～濱江	271.7	〃
滿鐵委任	國線	三棵樹碼頭線	三棵樹～三棵樹碼頭	3.5	營業中
〃	〃	道裡碼頭〃	哈爾濱～道裡碼頭	3.8	〃
〃	〃	京濱〃	新京～哈爾濱	242.0	〃
〃	〃	濱江〃	哈爾濱～濱江	2.6	〃
〃	〃	八區碼頭〃	哈爾濱～八區碼頭	2.8	〃
〃	〃	馬船口〃	新松浦～馬船口	11.7	〃
〃	〃	濱北〃	三棵樹～北安	326.1	〃
〃	〃	北黑〃	北安～黑河	302.9	〃
〃	〃	黑河碼頭〃	黑河～黑河碼頭	4.2	〃
〃	〃	齊北〃	齊々哈爾～北安	231.5	〃
〃	〃	寧墨〃	寧年～墨爾根	180.3	〃
〃	〃	平齊〃	四平街～齊々哈爾	571.4	〃
〃	〃	大鄭〃	大虎山～鄭家屯	366.2	〃
〃	〃	京白〃	新京～白城子	332.6	〃
〃	〃	白溫〃	白城子～溫泉	337.0	〃
〃	〃	濱洲〃	哈爾濱～滿洲里	934.8	〃
〃	〃	楡樹〃	楡樹屯～昂々溪	6.4	〃
〃	〃	小計		8,195.2	〃
滿鐵委任	北鮮線	西部線	圖們～清津	173.5	〃
〃	〃	東部〃	圖們～雄基	147.3	〃
滿鐵	〃	雄羅〃	雄基～羅津	15.2	〃
滿鐵委任	〃	會寧炭礦〃	會寧～鷄林	10.6	〃
		小計		346.6	〃
合計				9,674.9	〃

b.　私設鐵道營業粁程表

經營主體	線名	區間	營業粁程	備考
金福鐵路公司	金福線	金州～城子疃	214.0	一般營業
開豐〃	開豐〃	石家臺～西豐	64.0	〃
穆稜煤鐵公司	穆稜〃	下城子～梨樹溝	65.0	〃
鶴立煤礦公司	鶴立崗〃	蓮江口～無山鎮	56.0	〃
琿春鐵路公司	琿春〃	訓戒～琿春	29.6	〃
小計			428.6	〃

昭和十年度	合	1,642,440.2	35,039.9	1,607,400.3
	農	1,127.0	173.0	954.0
	林	157,918.7	1,545.7	156,373.0
	鑛	852,861.0	426.0	852,435.0
	水	—	—	—
	窯	106,641.0	1,942.0	104,699.0
	食	7.0	7.0	—
	嗜	—	—	—
	畜	20.0	—	20.0
	布	14.0	14.0	—
	工	136,314.0	2,295.0	134,019.0
	雜	74,984.2	28,175.2	46,809.0
	合	1,329,886.9	34,577.9	1,295,309.0

（備考）　昭和

(二) 經營別輸送數量表

a. 社線貨物部門別輸送數量表 (單位 瓲)

年度	部門別	計			社外貨物			社內貨物			社用貨物		
		計	小口扱	一車扱	計	小口扱	一車扱	計	小口扱	一車扱	計	小口扱	一車扱
昭和六年度	農産品	**4,294,510.7**	91,303.5	4,203,207.2	**4,294,510.7**	91,303.5	4,203,207.2	—	—	—	—	—	—
	林産品	**359,090.0**	19,580.3	339,509.7	**256,508.0**	18,477.3	238,030.7	—	—	—	**102,582.0**	1,130.0	101,479.0
	鑛産品	**8,933,566.2**	20,870.6	8,912,695.6	**8,235,087.2**	20,749.6	8,214,337.6	—	—	—	**698,479.0**	121.0	698,358.0
	水産品	**147,122.0**	18,925.0	128,197.0	**147,122.0**	18,925.0	128,197.0	—	—	—	—	—	—
	窯業品	**184,365.8**	26,215.9	158,149.9	**184,365.8**	26,215.9	158,149.9	—	—	—	—	—	—
	食料品	**193,304.2**	28,585.2	164,719.0	**193,304.2**	28,585.2	164,719.0	—	—	—	—	—	—
	嗜好品	**28,956.9**	21,241.1	7,715.8	**28,956.9**	21,241.1	7,715.8	—	—	—	—	—	—
	畜産品	**44,353.4**	9,534.3	34,819.1	**44,353.4**	9,534.3	34,819.1	—	—	—	—	—	—
	布帛類	**52,784.2**	34,830.0	17,954.2	**52,784.2**	34,830.0	17,954.2	—	—	—	—	—	—
	工産品	**506,963.4**	83,114.5	423,848.9	**506,063.4**	83,114.5	423,848.9	—	—	—	—	—	—
	雜品	**709,196.4**	136,818.8	572,377.6	**494,767.1**	116,757.9	378,009.2	—	—	—	**214,429.3**	20,060.9	194,368.4
	合計	**15,454,213.2**	**491,019.2**	**14,963,194.0**	**14,438,722.9**	**469,734.3**	**13,968,988.6**	—	—	—	**1,015,490.3**	**21,284.9**	**994,205.4**
昭和七年度	農産品	**4,302,238.1**	123,698.9	4,178,539.2	**4,301,625.3**	123,624.6	4,178,000.7	**422.8**	64.3	358.5	**190.0**	10.0	180.0
	林産品	**413,235.3**	28,431.8	384,803.5	**258,828.7**	26,664.8	232,163.9	**72,955.6**	93.0	72,862.6	**81,451.0**	1,674.0	79,777.0
	鑛産品	**8,915,685.4**	34,915.3	8,880,770.1	**645,675.5**	30,865.6	614,809.9	**7,872,698.1**	2,840.7	7,869,857.4	**397,311.8**	1,209.0	396,102.8
	水産品	**200,294.9**	22,979.3	177,315.6	**199,940.6**	22,979.3	176,961.3	**119.3**	—	119.3	**235.0**	—	235.0
	窯業品	**340,771.5**	35,287.5	305,484.0	**243,943.9**	33,774.9	210,169.0	**38,169.6**	309.6	37,860.0	**58,658.0**	1,203.0	57,455.0

昭和七年度	鑛産品	8,915,685.4	34,915.3	8,880,770.1	645,675.5	30,865.6	614,809.9	7,872,698.1	2,840.7	7,869,857.4	397,311.8	1,209.0	396,102.8
	水産品	200,294.9	22,979.3	177,315.6	199,940.6	22,979.3	176,961.3	119.3	—	119.3	235.0	—	235.0
	窯業品	340,771.5	35,287.5	305,484.0	243,943.9	33,774.9	210,169.0	38,169.6	309.6	37,860.0	58,658.0	1,203.0	57,455.0
	食料品	285,935.9	38,118.3	247,817.6	285,887.7	38,110.1	247,777.6	8.2	8.2	—	40.0	—	40.0
	嗜好品	42,323.3	28,028.9	14,294.4	42,307.6	28,013.2	14,294.4	15.7	15.7	—	—	—	—
	畜産品	44,579.9	10,414.6	34,165.3	44,542.1	10,396.8	34,145.3	37.8	17.8	20.0	—	—	—
	布帛類	71,280.8	48,435.0	22,845.8	71,253.0	48,407.2	22,845.8	27.8	27.8	—	—	—	—
	工産品	667,947.6	110,014.5	557,933.1	581,919.5	106,982.4	474,937.1	57,898.1	2,330.1	55,568.0	28,130.0	702.0	27,428.0
	雜品	1,288,523.0	208,388.9	1,080,134.1	1,167,077.2	187,667.1	979,410.1	70,121.3	3,324.3	66,797.0	51,324.5	17,397.5	33,927.0
	合計	16,572,815.7	688,713.0	15,884,102.7	7,843,001.1	657,486.0	7,185,515.1	8,112,474.3	9,031.5	8,103,442.8	617,340.3	22,195.5	595,144.8
昭和八年度	農産品	3,956,628.1	137,851.1	3,818,777.0	3,956,176.0	137,776.0	3,818,400.0	272.1	55.1	217.0	180.0	20.0	160.0
	林産品	687,846.7	35,590.9	652,255.8	437,357.6	33,751.8	403,605.8	86,712.1	746.1	85,966.0	163,777.0	1,093.0	162,684.0
	鑛産品	10,845,382.2	50,825.4	10,794,556.8	1,163,378.7	46,864.8	1,116,513.9	9,087,625.1	2,736.2	9,084,888.9	594,378.4	1,224.4	593,154.0
	水産品	202,019.3	27,998.3	174,021.0	201,929.3	27,998.3	173,931.0	60.0	—	60.0	30.0	—	30.0
	窯業品	650,403.7	45,397.8	605,005.9	453,888.4	43,178.5	410,709.9	106,696.3	939.3	105,757.0	89,819.0	1,280.0	88,539.0
	食料品	360,230.4	38,606.4	321,624.0	360,226.9	38,602.9	321,624.0	3.5	3.5	—	—	—	—
	嗜好品	48,938.5	31,409.1	17,529.4	48,928.0	31,398.6	17,529.4	10.5	10.5	—	—	—	—
	畜産品	41,428.7	12,847.2	28,581.5	40,771.6	12,810.1	27,961.5	657.1	37.1	620.0	—	—	—
	布帛類	92,456.7	67,675.4	24,781.3	92,415.5	67,664.2	24,751.3	41.2	11.2	30.0	—	—	—
	工産品	785,984.9	138,397.8	647,587.1	685,321.9	134,552.8	550,769.1	58,488.0	3,125.0	55,363.0	42,175.0	720.0	41,455.0
	雜品	1,179,521.0	304,736.3	874,784.7	1,018,320.9	271,711.6	746,609.3	91,497.2	8,341.8	83,155.4	69,702.9	24,682.9	45,020.0
	合計	18,850,840.2	891,335.7	17,959,504.5	8,458,714.8	846,309.6	7,612,405.2	9,432,068.1	16,005.8	9,416,057.3	960,062.3	29,021.3	931,042.0
昭和九年度	農産品	4,414,124.4	175,634.0	4,238,490.4	4,413,820.1	175,529.7	4,238,290.4	263.3	83.8	180.0	41.0	21.0	20.0
	林産品	945,132.9	46,291.6	898,841.3	579,693.5	44,439.2	535,254.3	125,409.4	934.4	124,475.0	240,030.0	918.0	239,112.0
	鑛産品	12,494,510.3	77,097.0	12,417,413.3	1,667,006.6	72,252.6	1,594,754.0	9,704,608.0	2,660.0	9,701,948.0	1,123,077.7	2,184.4	1,120,893.3
	水産品	227,838.3	40,083.1	187,755.2	227,678.9	40,082.9	187,596.2	0.4	0.4	—	159.0	—	159.0
	窯業品	769,416.0	59,031.8	710,384.2	595,938.7	57,154.5	538,784.2	60,442.3	223.3	60,219.0	113,035.0	1,654.3	111,381.0
	食料品	417,432.6	42,515.6	374,917.0	417,307.5	42,480.5	374,827.0	111.1	21.1	90.0	14.0	14.0	—
	嗜好品	56,094.9	37,267.1	18,827.8	56,034.8	37,207.0	18,827.8	60.1	60.1	—	—	—	—
	畜産品	42,332.3	12,866.5	29,465.8	42,165.4	12,829.6	29,335.8	146.9	36.9	110.0	20.0	—	20.0
	布帛類	102,689.0	79,368.0	23,321.0	102,643.6	79,362.6	23,281.0	45.4	5.4	40.0	—	—	—
	工産品	833,992.5	175,249.6	708,742.9	727,953.5	169,808.6	558,144.9	65,926.0	4,513.0	60,813.0	90,731.0	928.0	89,803.0
	雜品	1,317,778.5	341,625.5	976,153.0	1,158,587.9	306,017.9	852,570.0	83,658.1	6,287.1	77,371.0	75,332.5	29,320.5	46,012.0
	合計	21,671,341.7	1,087,029.8	20,584,311.9	9,988,880.5	1,037,164.9	8,951,665.6	10,040,071.0	14,825.0	10,025,246.0	1,642,440.2	35,039.9	1,607,400.3
昭和十年度	農産品	4,010,693.8	211,136.1	3,799,557.7	4,004,373.4	210,941.7	3,793,431.7	5,193.4	21.4	5,172.0	1,127.0	173.0	954.0
	林産品	769,239.9	74,736.9	694,503.0	550,538.3	73,142.3	477,396.0	60,782.9	48.9	60,734.0	157,918.7	1,545.7	156,373.0
	鑛産品	12,537,473.4	57,532.3	12,479,941.1	1,944,777.4	56,743.6	1,888,033.8	9,739,835.0	362.7	9,739,472.3	852,861.0	426.0	852,435.0
	水産品	230,925.6	44,658.8	186,266.8	230,925.6	44,658.8	186,266.8	—	—	—	—	—	—
	窯業品	782,249.1	74,137.1	708,112.0	668,317.2	70,400.2	597,917.0	7,290.9	1,794.9	5,496.0	106,641.0	1,942.0	104,699.0
	食料品	350,017.9	40,772.9	309,245.0	349,800.9	40,765.9	309,035.0	210.0	—	210.0	7.0	7.0	—
	嗜好品	61,899.1	37,501.1	24,398.0	61,899.1	37,501.1	24,398.0	—	—	—	—	—	—
	畜産品	52,921.2	20,640.2	32,281.0	52,870.5	20,619.5	32,251.0	30.7	20.7	10.0	20.0	—	20.0
	布帛類	97,860.4	73,032.4	24,828.0	97,836.6	73,008.6	24,828.0	9.8	9.8	—	14.0	14.0	—
	工産品	1,114,159.9	206,053.8	908,106.1	838,244.0	201,669.9	636,574.1	139,601.9	2,088.9	137,513.0	136,314.0	2,295.0	134,019.0
	雜品	973,261.0	288,621.4	684,639.6	861,969.8	259,715.2	602,254.6	36,307.0	731.0	35,576.0	74,984.2	28,175.2	46,809.0
	合計	20,980,701.3	1,128,823.0	19,851,878.3	9,661,552.8	1,089,166.8	8,572,386.0	9,989,261.6	5,078.3	9,984,183.3	1,329,886.9	34,577.9	1,295,309.0

（備考）　昭和6年度社外貨物中には社内貨物を含む

b. 國線貨物部門別輸送數量表

年度別	部門別	計	小口扱	一車扱
昭和九年度	農産品	2,966,396.2	111,661,2	2,854,735.0
	林産品	841,238.6	20,336,6	820,902.0
	鑛産品	1,361,741.0	19,976.0	1,341,765.0
	水産品	121,525.8	23,006.8	98,519.0
	窯業品	166,228.6	18,386.6	147,842.0
	食料品	226,446.0	56,362.0	170,084.0
	嗜好品	38,308.5	27,881.5	10,427.0
	畜産品	42,341.8	12,722.8	29,619.0
	布帛類	52,368.8	45,610.8	6,758.0
	工産品	382,378.3	114,780.3	267,598.0
	雜品	964,464.9	86,631.9	877,833.0
	小計	7,163,438.5	537,356.5	6,626,082.0
	局用品	4,709,663.0	12,188.0	4,697,475.0
	合計	11,873,101.5	549,544.5	11,323,557.0
昭和十年度	農産品	3,724,503.1	177,799.1	3,546,704.0
	林産品	1,001,154.8	30,652.8	970,502.0
	鑛産品	1,673,547.8	32,624.8	1,640,923.0
	水産品	185,395.4	36,044.4	149,351.0
	窯業品	230,077.7	37,717.7	192,360.0
	食料品	369,942.9	100,685.9	269,257.0
	嗜好品	56,704.8	42,041.8	14,663.0
	畜産品	72,904.3	16,092.3	56,812.0
	布帛類	69,218.2	62,718.2	6,500.0
	工産品	645,220.5	184,764.7	460,455.8
	雜品	1,600,555.0	142,999.0	1,457,556.0
	小計	9,629,224.5	864,140.7	8,765,083.8
	局用品	5,326,986,2	20,921.2	5,306,065.0
	合計	14,956,210.7	885,061.9	14,071,148.8

c. 北鮮線貨物部門別輸送數量表

年度別	部門別	計	小口扱	一車扱	
昭和九年度	農産品	179,931.0	14,468.0	3,858.0	161,605.0
	林産品	177,232.0	1,686.0	1,371.0	174,175.0
	鑛産品	203,197.0	1,216.0	2,395.0	199,586.0
	水産品	22,745.0	10,172.0	1,101.0	11,472.0
	工産品	147,154.0	20,368.0	6,419.0	120,367.0
	雜品	152,945.0	31,226.0	6,393.0	115,326.0
	小計	883,204.0	79,136.0	21,537.0	782,531.0
	局用品	128,353.0	—	—	128,353.0
	社用品	111,031.0	31.0	29.0	110,971.0
	小計	239,384	31.0	29.0	239,324.0
	合計	1,122,588.0	79,167.0	21,566.0	1,021,855.0
昭和十年度	農産品	260,259.0	16,509.0	4,388.0	239,362.0
	林産品	203,910.0	2,237.0	1,660.0	200,013.0
	鑛産品	331,040.0	1,329.0	1,896.0	327,815.0
	水産品	20,734.0	9,717.0	1,224.0	9,793.0
	工産品	258,831.0	20,818.0	6,558.0	231,455.0
	雜品	186,324.0	35,125.0	8,216.0	142,983.0
	小計	1,261,098.0	85,735.0	23,942.0	1,151,421.0
	局用品	120,677.0	—	—	120,677.0
	社用品	92,664.0	93.0	77.0	92,494.0
	小計	213,341.0	93.0	77.0	213,171.0
	合計	1,474,439.0	85,828.0	24,019.0	1,364,592.0

(三) 貨物旅客運輸概況並旅館概況

a. 貨物運輸概況

項目別		社線 6	7	8	9	10
平均營業粁		1,251.1	1,127.1	1,129.1	1,129.1	1,129.1
貨車粁	計	297,132,105	290,751,762	314,863,063	335,340,724	330,180,603
	積車	177,032,156	189,355,029	214,094,241	237,598,543	229,163,664
	空車	120,099,949	101,396,733	100,768,822	100,741,781	101,016,939
輸送噸數 總貨物 計		15,454,213.2	16,572,815.7	18,850,840.2	21,671,341.7	20,980,701.3
輸送噸數 總貨物 小口扱		491,019.2	688,713.0	891,335.7	1,087,029.8	1,128,823.0
輸送噸數 總貨物 一車扱		14,963,194.0	15,884,102.7	17,959,504.5	20,584,311.9	19,855,878.3
輸送噸數 社外貨物 計		6,562,645.0	7,843,001.1	8,458,714.8	9,988,830.5	9,661,552.8
輸送噸數 社外貨物 小口扱		466,186.8	657,486.0	846,309.6	1,037,164.9	1,089,166.8
輸送噸數 社外貨物 一車扱		6,096,458.2	7,185,515.1	7,612,405.2	8,951,665.6	8,572,386.0
輸送噸數 社內貨物 計		7,876,077.9	3,112,474.3	9,432,063.1	10,040,171.0	9,989,261.6
輸送噸數 社內貨物 小口扱		3,547.5	9,031.5	16,005.8	14,825.0	5,078.3
輸送噸數 社內貨物 一車扱		7,872,350.4	8,103,442.8	9,416,057.3	10,025,246.0	9,984,183.3
輸送噸數 社用貨物 計		1,015,490.3	617,340.3	960,062.3	1,642,440.2	1,329,886.9
輸送噸數 社用貨物 小口扱		21,284.9	22,195.5	29,020.3	35,039.9	34,577.9
輸送噸數 社用貨物 一車扱		994,205.4	595,144.8	931,042.0	1,607,400.3	1,295,309.0
輸送噸數 總貨物 計		5,374,451,119	5,699,756,618	6,485,264,186	6,965,700,547	6,755,854,318
輸送噸數 總貨物 小口扱		124,592,216	178,845,221	257,461,559	314,008,931	327,601,963
輸送噸數 總貨物 一車扱		5,249,858,903	5,520,911,397	6,227,802,627	6,651,691,566	6,628,252,350
輸送噸數 社外貨物 計		2,819,810,631	3,172,829,819	3,343,875,637	3,738,252,839	3,766,365,265
輸送噸數 社外貨物 小口扱		118,038,857	168,915,925	240,015,827	296,259,100	316,080,268
輸送噸數 社外貨物 一車扱		2,701,771,774	3,003,913,894	3,103,859,810	3,441,993,739	3,450,284,997
粁 社內貨物 計		2,463,418,809	2,455,466,356	3,009,662,488	3,042,641,102	2,842,024,110
粁 社內貨物 小口扱		1,014,849	3,563,872	8,005,351	5,988,261	650,317
粁 社內貨物 一車扱		2,462,403,960	2,451,902,484	3,001,657,137	3,036,652,841	2,841,373,793
粁 社用貨物 計		91,221,679.00	71,460,443.00	131,726,061	184,806,606	147,464,943
粁 社用貨物 小口扱		5,538,510.00	6,365,424.00	9,440,381	11,761,620	10,871,383
粁 社用貨物 一車扱		85,683,169.00	65,095,019.00	122,285,680	173,044,986	136,593,560

貨車收入(圓)	總貨物	計	**70,897,756.00**	**85,022,314.00**	**94,263,019.12**	**101,489,276.22**	**103,362,261.44**
		小口扱	3,741,270.00	5,708,847.00	8,315,086.16	10,151,647.15	10,664,574.86
		一車扱	67,156,486.00	79,313,467.00	85,947,932.96	91,337,629.07	92,697,686.58
	社外貨物	計	**41,416,285.00**	**56,131,568.00**	**55,608,526.45**	**61,593,442.79**	**65,053,952.89**
		小口扱	3,685,692.00	5,582,282.00	8,088,506.98	9,950,812.53	10,611,129.15
		一車扱	37,730,593.00	50,549,286.00	47,520,019.47	51,642,630.26	54,442,823.74
	社內貨物	計	**28,575,439.00**	**28,204,961.00**	**37,370,116.31**	**37,990,004.32**	**36,863,211.47**
		小口扱	39,012.00	105,256.00	204,223.11	175,365.31	30,082.05
		一車扱	28,536,427.00	28,099,705.00	37,165,893.20	37,814,639.01	36,833,129.42
	社用貨物	計	**906,032.00**	**685,785.00**	**1,284,376.36**	**1,905,829.11**	**1,445,097.08**
		小口扱	16,566.00	21,309.00	22,356.07	25,469.31	23,363.66
		一車扱	889,466.00	664,476.00	1,262,020.29	1,880,359.80	1,421,733.42
一噸平均輸送粁	總貨物	計	**347.8**	**343.9**	**344.0**	**221.4**	**322.0**
		小口扱	253.7	259.7	288.8	288.9	290.2
		一車扱	350.9	347.6	346.8	323.1	323.8
	社外貨物	計	**429.7**	**404.5**	**395.3**	**374.2**	**389.8**
		小口扱	253.2	256.9	283.6	285.6	290.2
		一車扱	443.2	418.1	407.7	384.5	402.5
	社內貨物	計	**312.8**	**302.7**	**319.1**	**303.0**	**284.5**
		小口扱	286.0	394.6	500.2	403.9	128.1
		一車扱	312.8	302.6	318.8	302.9	284.6
	社用貨物	計	**89.8**	**115.8**	**137.2**	**112.5**	**110.9**
		小口扱	260.2	286.8	325.3	335.7	314.4
		一車扱	86.2	109.4	132.0	107.7	105.5
一噸平均貨車收入(圓)	總貨物	計	**4,588**	**5,130**	**5,000**	**4,683**	**4,927**
		小口扱	7,619	8,289	9,329	9,339	9,448
		一車扱	4,488	4,993	4,786	4,437	4,669
	社外貨物	計	**6,311**	**7,157**	**6,574**	**6,166**	**6,733**
		小口扱	7,906	8,490	9,557	9,594	9,742
		一車扱	6,189	7,035	6,242	5,769	6,351
	社內貨物	計	**3,628**	**3,477**	**3,962**	**3,784**	**3,690**
		小口扱	10,997	11,654	12,759	11,829	5,924
		一車扱	3,625	3,468	3,947	3,772	3,689
	社用貨物	計	**0.892**	**1.111**	**1.338**	**1.160**	**1.087**
		小口扱	0.778	0.960	0.770	0.727	0.676
		一車扱	0.895	1.117	1.355	1.170	1.098

一噸平均貨車收入(錢)	總貨物	計	**1.82**	**1.49**	**1.45**	**1.46**	**1.53**
		小口扱	3.00	3.19	3.23	3.23	3.26
		一車扱	1.28	1.44	1.38	1.37	1.44
	社外貨物	計	**1.47**	**1.77**	**1.66**	**1.65**	**1.73**
		小口扱	3.12	3.31	3.37	3.36	3.36
		一車扱	1.40	1.68	1.53	1.50	1.58
	社內貨物	計	**1.16**	**1.15**	**1.24**	**1.25**	**1.30**
		小口扱	3.84	2.95	2.55	2.93	4.63
		一車扱	1.16	1.15	1.24	1.25	1.30
	社用貨物	計	**0.99**	**0.96**	**0.98**	**1.03**	**0.98**
		小口扱	0.30	0.34	0.24	0.22	0.21
		一車扱	1.04	1.02	1.03	1.09	1.04

項目別			國線 9	國線 10
平均營業粁			3,752.2	6,284.9
貨車粁	計		**164,188,872**	**230,793,724**
	積車		105,482,642	154,897,193
	空車		58,786,230	75,896,531
輸送噸數	總貨物	計	**11,873,101.5**	**14,956,210.7**
		小口扱	549,544.5	885,061.9
		一車扱	11,323,557.0	14,071,148.8
	營業貨物	計	**7,163,438.5**	**9,629,224.5**
		小口扱	537,356.5	864,140.7
		一車扱	6,626,082.0	8,765,083.8
	局用貨物	計	**4,709,663.0**	**326,986.2**
		小口扱	12,188.0	20,921.2
		一車扱	4,697,475.0	5,306,065.0
噸粁	總貨物	計	**2,382,370,255**	**3,240,690,730**
		小口扱	120,042,176	593,302,932
		一車扱	2,262,328,079	3,047,387,798
	營業貨物	計	**83,19,812,230**	**2,439,462,275**
		小口扱	117,466,619	188,799,715
		一車扱	1,722,345,611	2,250,662,560

	局用貨物		計		**542,558,025**	**801,228,455**
		小	口	扱	2,575,557	4,503,217
		一	車	扱	539,982,468	796,725,238
貨車收入(圓)	總貨物		計		**50,646,554.20**	**69,103,504.93**
		小	口	扱	6,019,334.82	1,767,340.60
		一	車	扱	44,627,219.38	59,336,164.33
	營業貨物		計		**48,106,206.55**	**65,363,454.34**
		小	口	扱	5,972,516.54	659,624.91
		一	車	扱	42,133,690.01	51,703,829.43
	局用貨物		計		**2,540,347.65**	**740,050.59**
		小	口	扱	46,818.28	107,715.69
		一	車	扱	2,493,529.37	3,632,334.90
	總貨物		計		**200.7**	**26.7**
		小	口	扱	218.4	218.4
		一	車	扱	199.8	216.6
噸平均輸送粁	營業貨物		計		**256.8**	**253.3**
		小	口	扱	218.6	218.5
		一	車	扱	259.9	216.6
	局用貨物		計		**115.2**	**150.4**
		小	口	扱	211.3	215.2
		一	車	扱	115.0	150.2
	總貨物		計		**4.265**	**4.620**
		小	口	扱	10.953	11.036
		一	車	扱	3.941	4.217
一噸平均貨車收入(圓)	營業貨物		計		**6.716**	**6.788**
		小	口	扱	11.115	11.178
		一	車	扱	6.359	6.355
	局用貨物		計		**0.539**	**0.702**
		小	口	扱	3.841	5.149
		一	車	扱	0.531	0.635
	總貨物		計		**2.13**	**2.13**
		小	口	扱	5.01	5.05
		一	車	扱	1.97	1.95
噸粁平均貨車收	營業貨物		計		**2.61**	**2.68**
		小	口	扱	5.08	5.12
		一	車	扱	2.45	2.47

入(圓)	局用貨物		計		**0.47**	**0.47**
		小	口	扱	1.82	2.39
		一	車	扱	0.46	0.46

項目別					北鮮線	
					9	10
平均營業粁					329.2	335.5
貨車粁	計				**8,961,008.7**	**11,746,191.7**
	積			車	5,720,965.7	7,403,937.8
	空			車	3,240,043.0	4,342,253.9
輸送噸數	總貨物	計			**1,122,588.0**	**1,474,439.0**
		小	口	扱	79,167.0	85,828.0
		噸		扱	215,660	24,019.0
		一	車	扱	1,021,855.0	1,364,592.0
	社外貨物	計			**833,204.0**	**1,261,098.0**
		小	口	扱	78,894.0	85,735.0
		噸		扱	21,478.0	223,942.0
		一	車	扱	782,832.0	1,151,421.0
	社內貨物	計			**239,384.0**	**213,341.0**
		小	口	扱	273.0	93.0
		噸		扱	88.0	77.0
		一	車	扱	239,023.0	213,171.0
噸粁	總貨物	計			**122,836,423.0**	**175,812,334.0**
		小	口	扱	7,227,193.0	7,513,031.0
		噸		扱	2,380,618.0	2,447,107.0
		一	車	扱	113,228,612.0	165,852,246.0
	社外貨物	計			**101,943,405.0**	**155,228,939.0**
		小	口	扱	7,188,298.0	7,499,254.0
		噸		扱	2,367,694.0	2,435,545.0
		一	車	扱	92,387,413.0	145,294,140.0
	社內貨物	計			**20,893,018.0**	**20,583,445.0**
		小	口	扱	38,895.0	13,777.0
		噸		扱	12,924.0	11,562.0
		一	車	扱	20,841,199.0	20,558,106.0

貨車收入(圓)	總貨物		計	**2,500,987.00**	**3,351,435.00**
		小口扱		375,140.00	406,747.00
		小瑳扱		97,853.00	100,787.00
		一車扱		2,027,994.00	2,843,901.00
	社外貨物		計	**2,204,935.00**	**3,091,453.00**
		小口扱		374,368.00	406,205.00
		小瑳扱		97,564.00	100,487.00
		一車扱		1,733,003.00	2,584,761.00
	社內貨物		計	**296,052.00**	**259,982.00**
		小口扱		772.00	542.00
		小瑳扱		289.00	300.00
		一車扱		294,991.00	259,140.00
	雜收入			13,511.00	33,734.00
一瑳平均輸送粁	總貨物		計	**109.4**	**119.2**
		小口扱		91.3	87.5
		小瑳扱		110.4	101.9
		一車扱		110.8	121.5
	社外貨物		計	**115.4**	**123.1**
		小口扱		91.1	87.5
		小瑳扱		110.2	101.7
		一車扱		118.0	126.2
	社內貨物		計	**87.3**	**96.5**
		小口扱		142.5	148.1
		小瑳扱		146.9	150.2
		一車扱		87.2	96.4
一瑳平均貨車	總貨物		計	**2.23**	**2.27**
		小口扱		4.74	4.74
		小瑳扱		4.54	4.20
		一車扱		1.98	2.08
	社外貨物		計	**2.50**	**2.45**
		小口扱		4.75	4.74
		小瑳扱		4.54	4.20
		一車扱		2.21	2.24

瑳粁平均貨車收入(錢)	社內貨物		計	**1.24**	**1.22**
		小口扱		2.83	5.83
		小瑳扱		3.28	3.90
		一車扱		1.23	1.22
	總貨物		計	**2.04**	**1.91**
		小口扱		5.19	5.41
		小瑳扱		4.11	4.12
		一車扱		1.79	1.71
	社外貨物		計	**2.16**	**1.99**
		小口扱		5.21	5.42
		小瑳扱		4.12	4.13
		一車扱		1.88	1.78
	社內貨物		計	**1.42**	**1.26**
		小口扱		1.98	3.93
		小瑳扱		2.24	2.59
		一車扱		1.42	1.26

b. 旅客運輸概況

項目別			社線					國線		北鮮線	
			6	7	8	9	10	9	10	9	10
一人平均	輸送粁	計	**92.8**	**107.8**	**98.8**	**91.3**	**85.3**	**108.3**	**109.4**	**45.3**	**43.3**
		1等	330.2	349.7	348.2	374.0	393.9	245.8	328.9	120.8	138.3
		2等	230.0	265.9	267.1	272.0	275.8	193.8	219.3	104.1	95.1
		3等	90.4	104.7	95.7	88.3	82.5	106.5	106.7	44.7	42.7
	旅客運賃(圓)	計	**1,260**	**1,508**	**1,413**	**1,262**	**1,220**	**1,782**	**1,893**	**0.63**	**0.61**
		1等	11,833	9,772	10,660	12,719	14,442	8,173	12,628	5.03	5.05
		2等	5,253	5,808	6,135	6,297	6,410	4,895	5,559	2.43	2.18
		3等	1,185	1,418	1,319	1,174	1,138	1,716	1,795	0.62	0.59
	一粁運賃(錢)	計	**1.36**	**1.40**	**1.43**	**1.38**	**1.43**	**1,645.8**	**1,729.5**	**1.40**	**1.40**
		1等	3.58	2.79	3.06	3.40	3.67	3,325.6	3.839.4	4.16	3.65
		2等	2.28	2.18	2.30	2.32	2.32	2,525.6	2,535.1	2.33	2.30
		3等	1.36	1.35	1.38	1.33	1.38	1,610.5	1,682.7	1.38	1.37

備考　客車收入中入場料金ニ雜收入ヲ含ム

—463—の次

b. 旅客運輸概況

項目別		社線					國線		北鮮線	
		6	7	8	9	10	9	10	9	10
平均營業粁		1,098.6	1,098.6	1,098.6	1,098.6	1,098.6	3,732.8	6,240.7	329.2	335.5
營業延日粁		402,087.6	400,989.0	400,989.0	402,989.0	402,087.6	—	—	120,158.0	122,797.6
客車粁	計	**26,068,347**	**30,951,468**	**35,840,810**	**39,549,217**	**44,514,885**	**41,978,330**	**73,922,312**	**2,931,679.1**	**2,922,812.0**
	1等	1,610,304	2,022,099	2,625,013	2,500,600	2,774,780	1,971,583	3,812,987	67,894.8	68,716.9
	2等	4,616,231	5,123,685	6,140,035	6,353,813	8,034,612	5,391,277	9,418,994	447,392.9	539,719.6
	3等	18,789,034	23,805,634	27,075,762	30,194,804	33,705,493	25,874,803	43,452,036	—	—
	3等代用	1,052,778	—	—	—	—	8,740,667	17,238,295	2,416,391.4	2,314,375.5
輸送人員	計	**6,331,760**	**8,610,159**	**11,633,875**	**13,786,403**	**15,122,922**	**8,814,509**	**13,279,957**	**1,611,337**	**1,718,170**
	1等	13,373	23,554	25,729	21,276	16,571	16,183	18,349	78	79
	2等	81,636	130,972	176,833	189,170	195,183	151,440	291,407	16,755	20,939
	3等	6,180,506	8,455,633	11,431,313	13,575,957	14,911,163	8,646,886	12,970,201	—	—
	3等代用	55,745	—	—	—	—	—	—	1,594,504	1,697,152
人粁	計	**587,286,986**	**928,258,936**	**1,149,685,740**	**1,258,235,978**	**1,290,349,390**	**954,387,994**	**1,453,447,169**	**72,975,646**	**74,385,546**
	1等	4,581,267	8,237,753	8,957,750	7,956,361	6,527,777	3,977,115	6,034,914	9,422	10,924
	2等	18,776,334	34,822,039	47,224,071	51,444,943	53,827,430	29,352,177	63,896,491	1,743,896	1,990,960
	3等	537,084,165	885,199,144	1,093,503,919	1,198,834,674	1,229,994,183	921,058,702	1,383,515,764	71,222,328	72,383,662
	3等代用	26,845,220	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		**9,135,663.19**	**14,812,045.02**	**18,757,363.98**	**20,332,876.15**	**22,412,222.40**	**16,892,540.00**	**27,824,788.00**	**1,139,625.00**	**1,182,111.00**
客車收入	旅客運賃(圓) 計	**7,980,239.67**	**12,982,490.25**	**16,434,230.99**	**17,404,907.30**	**18,453,161.28**	**15,707,463.00**	**25,132,320.00**	**1,022,919.00**	**1,040,195.00**
	1等	164,154.40	230,159.02	274,263.19	270,603.61	239,318.90	132,264.00	231,704.00	392.00	399.00
	2等	428,848.44	760,672.45	1,084,848.32	1,191,290.70	1,251,187.86	741,321.00	1,619,822.00	40,685.00	45,714.00
	3等	7,387,286.83	11,991,658.78	15,075,114.43	15,943,012.99	16,962,654.52	14,833,878.00	23,280,794.00	931,842.00	994,082.00
	急行料金	265,426.50	448,708.12	547,639.79	728,893.70	1,031,013.02	195,974.00	320,450.00	—	—
	寢臺料金	181,686.23	291,265.79	444,291.91	511,366.83	536,229.87	119,622.00	211,737.00	529.00	422.00
	入場料金	—	—	—	—	260,750.20	—	—	12,368.00	14,648.00
	手小荷物運賃	588,443.25	920,593.41	1,200,710.71	1,574,535.60	2,002,906.04	802,034.00	1,972,315.00	86,650.00	107,305.00
	郵便物運賃	119,817.54	168,987.45	130,440.58	113,172.72	128,161.99	67,447.00	187,966.00	16,659.00	19,541.00
一粁平均	輸送人員 計	**534,578**	**844,947**	**1,046,506**	**1,145,309**	**1,174,540**	**255,676**	**232,898**	221,679	**221,716**
	1等	4,170	7,498	8,154	7,242	5,943	1,065	967	29	33
	2等	17,091	31,697	42,991	46,828	48,996	7,863	10,239	5,297	5,934
	3等	513,317	805,752	995,361	1,091,239	1,119,601	246,748	221,692	216,350	215,749
	旅客運賃(圓) 計	**7,264.05**	**11,817.30**	**14,959.25**	**15,842.81**	**16,796.98**	**4,207.96**	**4,027.17**	**3,107.29**	**3,100.44**
	1等	149.42	209.50	249.65	246.32	217.84	35.43	37.13	1.19	1.19
	2等	390.36	692.40	987.48	1,084.37	1,138.89	198.60	259.56	123.59	136.26
	3等	6,724.27	10,915.40	13,722.12	14,512.12	15,440.25	3,973.93	3,730.48	2,982.51	2,962.99
	客車收入	8,315.73	13,482.66	17,073.88	18,507.99	20,400.71	4,525.43	4,458.60	3,461.80	3,523.43
一人平均	輸送粁 計	**92.8**	**107.8**	**98.8**	**91.3**	**85.3**	**108.3**	**109.4**	**45.3**	**43.3**
	1等	330.2	349.7	348.2	374.0	393.9	245.8	328.9	120.8	138.3
	2等	230.0	265.9	267.1	272.0	275.8	193.8	219.3	104.1	95.1
	3等	90.4	104.7	95.7	88.3	82.5	106.5	106.7	44.7	42.7
	旅客運賃(圓) 計	**1,260**	**1,508**	**1,413**	**1,262**	**1,220**	**1,782**	**1,893**	**0.63**	**0.61**
	1等	11,833	9,772	10,660	12,719	14,442	8,173	12,628	5.03	5.05
	2等	5,253	5,808	6,135	6,297	6,410	4,895	5,559	2.43	2.18
	3等	1,185	1,418	1,319	1,174	1,138	1,716	1,795	0.62	0.59
	一粁運賃(錢) 計	**1.36**	**1.40**	**1.43**	**1.38**	**1.43**	**1.645.8**	**1,729.5**	**1.40**	**1.40**
	1等	3.58	2.79	3.06	3.40	3.67	3,325.6	3.839.4	4.16	3.65
	2等	2.28	2.18	2.30	2.32	2.32	2,525.6	2,535.1	2.33	2.30
	3等	1.36	1.35	1.38	1.33	1.38	1,610.5	1,682.7	1.38	1.37

備考　客車收入中入場料金ニ雜收入ヲ含ム

c. 手小荷物運輸概況

年度別	項目別		社線	國線	北鮮線
昭和6年度	手荷物	箇數	139,831	—	—
		瓲數	1,913,378	—	—
		瓲粁	—	—	—
		運賃	—	—	—
	小荷物	箇數	779,386	—	—
		瓲數	14,282,652	—	—
		瓲粁	2,881,782,573	—	—
		運賃	—	—	—
		1箇平均運賃	—	—	—
昭和7年度	手荷物	箇數	169,611	—	—
		瓲數	2,821,986	—	—
		瓲粁	991,254,826	—	—
		運賃	131,444.45	—	—
	小荷物	箇數	832,271	—	—
		瓲數	15,175,068	—	—
		瓲粁	5,688,474,074	—	—
		運賃	789,148.96	—	—
		1箇平均運賃	0.948	—	—
昭和8年度	手荷物	箇數	207,316	—	—
		瓲數	3,379,528	—	—
		瓲粁	1,258,671,783	—	—
		運賃	162,699.46	—	—
	小荷物	箇數	1,250,825	—	—
		瓲數	26,624,293	—	—
		瓲粁	9,925,553,190	—	—
		運賃	1,038,011.25	—	—
		1箇平均運賃	0.829	—	—
昭和9年度	手荷物	箇數	250,571	145,828	—
		瓲數	4,016,334	1,998,210	509,306
		瓲粁	1,521,944,940	557,325,128	—
		運賃	200,361.44	101,916	14,839
	小荷物	箇數	1,626,678	649,389	—
		瓲數	34,178,256	19,120,708	2,983,730
		瓲粁	13,069,406,364	5,246,799,189	—
		運賃	1,374,174.16	699,990	71,811
		1箇平均運賃	0.836	1,078	—

昭和10年度	手荷物	箇	數	277,220	311,458	—
		瓲	數	4,820,046	4,368,504	655,932
		瓲	粁	1,857,567,833	228,826	—
		運	賃	234,655.94	228,826.04	17,188
	小荷物	箇	數	1,991,813	1,412,970	—
		瓲	數	41,087,489	45,138,170	4,108,802
		瓲	粁	15,670,733,729	1,743,489	—
		運	賃	1,768,250.10	1,743,489.20	90,117
		1箇平均運賃		0,888	1,234	—

附　旅客諸料金表

年度別	項目別			社線	國線	北鮮線
昭和6年度	急行	券	數	—	—	—
		料	金	265,426.50	—	—
	寢臺	券	數	—	—	—
		料	金	181,686.23	—	—
	入場	券	數	—	—	—
		料	金	—	—	—
昭和7年度	急行	券	數	506,102	—	—
		料	金	448,708.12	—	—
	寢臺	券	數	119,023	—	—
		料	金	291,265.79	—	—
	入場	券	數	—	—	—
		料	金	—	—	—
昭和8年度	急行	券	數	656,903	—	—
		料	金	547,639.79	—	—
	寢臺	券	數	178,730	—	—
		料	金	444,291.91	—	—
	入場	券	數	—	—	—
		料	金	—	—	—
	急行	券	數	792,691	222,674	—
		料	金	728,893.70	144,711	—

昭和九年度	寢臺	券	數	229,202	45,493	—
		料	金	511,366.83	119,622	529
	入場	券	數	—	—	—
		料	金	—	—	6,305
昭和十年度	急行	券	數	1,016,114	388,429	—
		料	金	1,031,013.02	320,450	—
	寢臺	券	數	259,789	84,489	—
		料	金	536,229.87	211,737	422
	入場	券	數	3,018,116	—	—
		料	金	260,750.20	—	7,597

d. 旅　館　概　況

年度別	項目別	社線	國線	北鮮線
昭和六年度	宿泊人員	20,122	—	—
	〃 延人員	60,395	—	—
	室料	278,475.90	—	—
	一人平均 〃	13.93	—	—
	一日平均宿泊人員	165.0	—	—
	一人平均宿泊日數	3.0	—	—
	旅館收入	843,287.45	—	—
	一日平均 〃	2,304.06	—	—
	食堂車收入	267,340.64	—	—
	一日平均 〃	730.44	—	—
昭和七年度	宿泊人員	25,164	—	—
	〃 延人員	77,363	—	—
	室料	351,019.20	—	—
	一人平均 〃	13.95	—	—
	一日平均宿泊人員	212.0	—	—
	一人平均宿泊日數	3.1	—	—
	旅館收入	1,154,289.57	—	—
	一日平均 〃	3,162.44	—	—
	食堂車收入	450,929.25	—	—
	一日平均 〃	1,235.42	—	—

昭和八年度	宿泊人員	32,820	—				
	〃 延人員	104,280	—				
	室料	467,078.76	—				
	一人平均 〃	14.23	—				
	一日平均宿泊人員	285.7	—				
	一人平均宿泊日數	3.2	—				
	旅館收入	1,543,984.01	—				
	一日平均 〃	4,230.09	—				
	食堂車收入	696,389.70	—				
	一日平均 〃	1,907.92	—				
昭和九年度	宿泊人員	38,144	—				
	〃 延人員	110,498	—				
	室料	533,289.76	—				
	一人平均 〃	13.98	—				
	一日平均宿泊人員	302.7	—				
	一人平均宿泊日數	2.9	—				
	旅館收入	1,769,668.82	12,617.82				
	一日平均 〃	4,848.41	34.57				
	食堂車收入	783,811.18	578,219.51				
	一日平均 〃	2,147.43	1,584.16				
昭和十年度	宿泊人員	38,677	2,656				
	〃 延人員	104,648	3,279				
	室料	513,814.38	5,771.30				
	一人平均 〃	13.28	2.17				
	一日平均宿泊人員	285.9	7.3				
	一人平均宿泊日數	2.7	1.2				
	旅館收入	1,752,145.46	26,353.00				
	一日平均 〃	4,787.28	72.00				
	食堂車收入	1,090,522.72	913,579.27				
	一日平均 〃	2,979.57	2,496.12				

9,386.00	入場料	—	7,591.10
3,514.47	計	2,500,987.39	3,351,435.30
—	社外荵扱運賃	97,563.26	100,486.31
7,215.72	社内貨物運賃	296,052.39	259,982.40
2,657.79	社外小口扱 〃	374,367.02	406,204.60
3,640.96	社外1車扱 〃	1,733,004.72	2,584,761.99
	計	112.01	832.94
—	倉庫料	112.01	832.94
—		—	—
9,363.99	計	327,265.34	477,604.10
—	社内車輛使用料	38,058.52	22,682.63
—	社外 〃	86,314.20	127,021.35
—	社内仕業料	159.09	1,038.75
—	社外 〃	55,238.45	55,298.30
—	電話收入	—	—
—	雑料金	26,376.39	40,785.27
—	社内雑料金	23,154.61	58,334.73
—	社外 〃	97,964.08	172,443.07
5,531.38	計	3,842,249.13	4,485,873.01
8,186.86	總係費	531,327.36	597,247.21
9,106.14	運輸費	956,154.83	1,242,265.75
6,822.71	運轉費	904,309.02	1,138,199.45
4,856.84	修車費	259,076.66	254,981.31
0,128.49	保存費	687,436.98	690,088.56
5,602.27	補充費	99,493.02	100,596.86
—	本社費分擔額	61,000.00	79,000.00
0,828.07	別途給與費	343,451.26	383,495.87
5,599.10	損益	112,872.87	519,059.07
81	營業率	97	90

(四) 營 業 成 績

a. 鐵 道 營 業 收 支 表

科目別	社線 6	社線 7	社線 8	社線 9	社線 10	科目別	國線 9	國線 10	科目別	北鮮線 9	北鮮線 10
平均營業粁	旅 1,098.6 貨 1,125.1	旅 1,098.6 貨 1,127.1	旅 1,098.6 貨 1,129.1	旅 1,098.6 貨 1,129.1	旅 1,098.6 貨 1,129.1	平均營業粁	旅 3,732.8 貨 3,752.2	旅 6,240.7 貨 6,284.9	平均營業粁	旅貨 329.2	旅貨 335.5
計	84,573,355.67	**103,846,511.83**	**119,676,741.02**	**126,525,376.05**	**134,686,175.98**	計	**71,433,968.59**	**109,251,130.48**	計	**3,955,122.00**	**5,004,932.08**
收入 客車收入 計	**9,135,663.19**	**14,812,045.02**	**18,757,363.98**	**20,332,876.15**	**22,412,222.40**	計	**17,851,909.33**	**28,678,252.02**	計	**1,126,757.26**	**1,175,059.74**
客車收入 旅客運賃	8,427,402.40	13,722,464.16	17,426,212.69	18,645,167.83	20,020,404.17	旅客運賃	16,976,221.32	26,448,866.02	旅客運賃	1,023,448.26	1,040,617.39
客車收入 手小荷物 〃	708,260.79	1,089,580.86	1,331,151.29	1,687,708.32	2,131,068.03		—	—	手小荷物	103,309.00	126,845.25
客車收入 入場料	—	—	—	—	260,750.20	手小荷物運賃	875,685.01	2,229,386.00	入場料	—	7,597.10
貨車收入 計	**70,897,755.74**	**85,022,314.40**	**94,263,019.12**	**101,489,276.22**	**103,362,261.44**	計	**50,513,474.41**	**72,833,514.47**	計	**2,500,987.39**	**3,351,435.30**
貨車收入 社內石炭運賃	26,487,338.63	25,123,256.87	33,352,259.02	34,685,786.94	34,075,951.77	—	—	—	社外連扱運賃	97,563.26	100,486.31
貨車收入 社內一般貨物 〃	2,994,131.64	3,767,489.06	5,301,233.65	5,210,046.49	4,232,356.78	局內貨物運賃	1,434,667.96	2,497,215.72	社內貨物運賃	296,052.39	259,982.40
貨車收入 社外小口扱 〃	3,685,692.17	5,582,282.62	8,088,506.98	9,950,812.53	10,611,129.15	局外小口扱運賃	5,944,685.86	9,952,657.79	社外小口扱 〃	374,367.02	406,204.60
貨車收入 社外一車扱 〃	37,730,593.30	50,549,285.85	47,520,019.47	51,642,630.26	54,442,823.74	局外1車扱 〃	43,134,120.59	60,383,640.96	社外1車扱 〃	1,733,004.72	2,584,761.99
倉庫收入 計	**51,958.55**	**50,352.45**	**42,784.11**	**56,342.48**	**103,002.73**				計	**112.01**	**832.94**
倉庫收入 倉庫料	43,308.57	33,041.46	34,881.68	48,382.98	93,720.25		—	—	倉庫料	112.01	832.94
倉庫收入 雜收入	8,649.98	17,310.99	7,902.43	7,959.50	9,282.48		—	—		—	—
諸口收入 計	**4,487,978.19**	**3,961,799.96**	**6,613,573.81**	**4,646,881.20**	**8,808,689.41**	計	**3,068,584.85**	**7,739,363.99**	計	**327,265.34**	**477,604.10**
諸口收入 社內車輛使用料	239,956.40	467,721.22	1,209,225.52	1,420,398.10	1,888,332.80		—	—	社內車輛使用料	38,058.52	22,682.63
諸口收入 社外 〃	1,461,405.42	2,153,654.69	2,915,473.69	1,433,285.06	2,409,373.59		—	—	社外 〃	86,314.20	127,021.35
諸口收入 社內仕業料	296,700.00	—	2,228.79	4,171.95	81,787.61		—	—	社內仕業料	159.09	1,038.75
諸口收入 社外 〃	389,070.32	424,158,40	808,651.71	298,760.39	2,344,101.42		—	—	社外 〃	55,238.45	55,298.30
諸口收入 電話收入	126,138.24	138,224.28	163,248.89	163,885.84	164,075.10		—	—	電話收入	—	—
諸口收入 雜料金		131,584.85	212,925.37	299,253.33	293,702.32		—	—	雜料金	26,376.39	40,785.27
諸口收入 社內雜收入	1,974,707.81	207,363.31	433,492.53	302,211.70	311,542.75		—	—	社內雜料金	23,154.61	58,334.73
諸口收入 社外 〃		439,093.21	863,327.31	724,914.83	1,315,773.82		—	—	社外 〃	97,964.08	172,443.07
計	**367,711,792.08**	**38,795,846.93**	**43,910,387.01**	**53,281,631.83**	**50,655,794.08**	計	**55,007,853.97**	**83,245,531.38**	計	**3,842,249.13**	**4,485,873.01**
支出 總係費	2,247,308,31	4,618,563.41	4,634,545.50	2,824,673.18	2,931,463.98	總係費	9,669,595.46	16,308,186.86	總係費	531,327.36	597,247.21
支出 運輸費	6,247,376.60	5,807,343.09	6,804,711.03	8,555,710.62	8,115,933.97	運輸費	7,499,543.27	11,949,106.14	運輸費	956,154.83	1,242,265.75
支出 運轉費	8,793,383.12	8,830,125.60	10,012,245.38	11,450,148.67	12,217,973.87	運轉費	10,140,719.01	16,756,822.71	運轉費	904,309.02	1,138,199.45
支出 修車費	3,729,219.57	4,478,810.41	5,393,307.01	6,191,131.60	5,959,770.16	修車費	5,774,564.06	8,914,856.84	修車費	259,076.66	254,981.31
支出 保存費	4,669,527.83	4,207,499.95	5,105,558.78	7,224,242.15	8,043,939.57	保存費	12,337,821.25	18,120,128.49	保存費	687,436.98	690,088.56
支出 償却費	4,595,524.55	4,714,484.92	4,729,441.57	7,443,004.43	4,857,039.72	警備費	3,426,642.11	6,635,602.27	補充費	99,493.02	100,596.86
支出 除却費	1,217,256.87	675,074.45	1,111,714.35	2,494,175.78	1,069,074.10	除却費	—	—	本社費分擔額	61,000.00	79,000.00
支出 別途給與費	5,275,195.23	5,463,945.15	6,113,363.39	7,098,545.40	7,460,598.71	別途給與費	6,158,968.81	9,560,828.07	別途給與費	343,451.26	383,495.87
損益	47,798,563.59	65,050,664.85	75,766,354.01	73,243,744.22	84,030,381.90	損益	16,426,114.62	21,005,599.10	損益	112,872.87	519,059.07
營業率	43	37	37	42	38	營業率	77	81	營業率	97	90

（備考） 北鮮線客車收入中には雜收入を含まざるを以て別表旅客運輸概況の數字とは合致せず

b 旅 館 收 支 表

科目別		社線 6	社線 7	社線 8	社線 9	社線 10		國線 9	國線 10
收入	合計	1,303,094.66	1,837,440.34	2,536,151.16	2,896,590.37	3,215,463.98		590,837.33	939,932.27
旅館收入	計	844,544.99	1,154,289.57	1,543,984.01	1,769,668.82	1,752,145.46	計	12,617.82	26,353.00
	室料	278,475.90	351,019.20	467,078.76	533,289.76	513,814.38		—	—
	貸別莊料	31,484.29	38,688.84	45,194.46	47,335.71	46,328.59		—	—
	社內食事收入	387,127.64	18,509.00	13,753.21	10,480.64	15,370.81		—	—
	社外 〃		496,343.88	678,245.88	745,420.52	783,881.72		—	—
	社內飲料收入	82,903.57	7,262.54	4,649.57	3,790.87	4,487.04		—	—
	社外 〃		121,974.17	177,582.71	193,448.84	194,860.52		—	—
	販賣收入	22,020.94	31,458.51	37,713.18	50,479.46	49,454.68		—	—
	雜收入	42,532.65	89,033.43	119,766.24	185,423.02	143,947.72		—	—
食堂車收入	計	267,340.64	450,929.25	696,389.70	782,811.18	1,090,522.72	計	578,219.51	913,579.27
	社內食事收入	120,953.64	1,639.75	—	—	582,433.32	食事收入	223,719.83	302,089.43
	社外 〃		197,815.92	323,919.37	371,019.57				
	飲料收入	38,648.41	79,407.15	110,924.67	107,008.11	136,957.44	飲料收入	79,766.65	113,840.35
	食堂販賣收入	5,470.35	11,864.08	15,942.75	19,264.34	25,812.38	食堂販賣 〃	262,212.57	482,477.20
	列車 〃	101,152.70	146,118.32	225,373.44	262,283.50	312,477.28		—	—
	雜收入	1,115.54	14,084.03	20,229.47	24,235.66	32,842.30	雜收入	12,520.46	15,172.29
洗濯收入	計	126,495.04	169,514.38	230,053.46	277,303.68	300,344.72		—	—
	社內洗濯收入	125,866.49	68,348.30	95,344.83	113,525.97	126,462.26		—	—
	社外 〃		98,392.21	132,460.95	163,324.96	173,126.75		—	—
	雜收入	628.55	2,774.07	2,241.68	452.75	755.71		—	—

入	自動車收入	計	43,267.61	44,791.98							
		社內自動車收入	681.40	1,280.38							
		社外 〃	26,561.37	24,240.20							
		社內修繕收入	10,882.76	8,032.53							
		社外 〃	—	—							
		雜收入	5,474.46	7,274.12							
	貸付財產收入	計	4,667.62	3,964.72							
		建物貸付料	17,539.08	27,659.13							
		雜收入	17,539.08	16,579.59							
			—	11,079.54							
		計	2,868,331.54	3,309,075.60	825,068.67	1,194,027.32					
支出	總係費		32,649.96	32,830.14	—	—					
	旅館費		1,415,995.95	1,512,684.10	27,114.11	46,977.37					
	食堂車費		819,634.97	1,140,388.38	797,954.56	1,147,049.95					
	洗濯費		156,725.59	171,285.92	—	—					
	自動車費		36,656.93	35,477.06	—	—					
	貸附旅館費		8,842.81	7,218.86	—	—					
	償却費		131,037.51	137,358.35	—	—					
	除却費		36,865.25	12,290.30	—	—					
	別途給與費		229,922.57	259,562.49	—	—					
	損益		28,258.83	93,611.62	234,231.34	254,095.05					
	營業率		99	103	140	127					
入	自動車收入	計	38,628.55	26,284.32	45,533.80						
		社內自動車收入	1,534.20	1,262.55							
		社外 〃	20,270.30	21,318.17	26,988.40						
		社內修繕收入	—	—	8,389.92						
		社外 〃	—	—	5,087.77						
		雜收入	18,358.25	13,486.95	3,855.16						
	貸付財產收入	計	26,085.44	26,422.62	20,140.19						
		建物貸付料	26,085.44	26,422.62	20,140.19						
		雜收入	—	—	—						
		計	1,399,851.73	1,925,651.47	2,549,987.02						
支出	總係費		55,582.18	42,521.28	75,763.48						
	旅館費		847,164.45	1,056,225.59	1,278,222.93						
	食堂車費		275,924.54	437,577.22	700,463.51						
	洗濯費		79,245.23	98,573.97	129,938.78						
	自動車費		30,790.68	26,101.49	32,038.67						
	貸附旅館費		3,349.56	5,412.31	32,896.91						
	償却費		—	115,925.72	118,360.40						
	除却費		5,141.29	6,480.07	16,147.59						
	別途給與費		102,653.80	136,833.82	166,149.75						
	損益		96,757.07	88,211.13	13,835.86						
	營業率		107	105	101						

第二十七節　國　　道

(一)　概　　說

史を按ずるに滿洲及東蒙古の地域は遼朝時代に東京中京上京の諸道を設け、次で金朝となりその後蒙古種族が懸軍萬里四隣に覇を稱えた頃には盛んに道路を修築した。然るに降つて明朝となりこれ等の道路は荒廢に傾き、清朝に至つてこれが復舊を圖り行軍の中心地として各省城間を連絡する大道を設けこれに縣城及主要都邑に達する道路を築造して邊境を固め傍ら地方開發に努力したものであるがその末期に至つて政務頽廢するに從ひ次第に荒廢に歸した。民國となるに及び修治道路章程十五條を公布し國道、省道、縣道、里道の四種に分ち各地方長官に示してこれを修築せしむることを規定したが相續く內亂と財政難との爲に關外なる滿洲地方は其の實現を見ずして滿洲事變となつた。故に滿洲國の現狀は各道路共殆んど荒廢に歸し夏季に於ては車馬の交通杜絕するを普通とする狀態である。

1932年3月1日滿洲國成立するや國防、政治、經濟、治安及地方開發等汎ゆる方面に於て一日も速かに道路修築の必要に迫られ先づ第一に道路網の建設計畫に著手した。1936年第1次5箇年計畫1萬粁を完成し亞で第2次5箇年計畫を樹立し工事に着手した。

由來滿洲地方に於ける道路の荒廢に歸したる主なる理由は氣象に關係する所が多い。卽ち國內四季を通じて半歲は地面凍結し河川沼湖悉く堅氷に塞され到る所通行し得るを以て其の期間には河川に橋梁又は舟筏なくとも容易に交通道路は拓け貨物の輸送は主として此の期間に行はる爲である。

近世歐米先進國の道路は自動車の出現以來陸上運輸界の「ダークホース」としてその驚くべき發達は刮目に價する。殊に米國の如きは鐵道と自動車との營業限界が60哩と稱したのは既往に屬し今日に於ては既に100哩乃至200哩と稱せらるゝに至つた。故にこれより建設されんとする滿洲國道路網はこの趨勢に順應して自動車の「トラフヰツク」に適する樣計畫せられたもので滿洲の道路は這般の滿洲事變を契機として劃期的の發達をなすものと思料せらる。

(二) 第1次國道建設計畫

1 建設計畫路線延長粁程

名稱	年次	年數	延長	經費	摘要
第1次計畫	自1932年度 至1934年度	3	6,670.8	15,000,000	國道建設費
追加計畫	自1935年度 至1936年度	2	3,138·2	15,785,000	〃
小計		**5**	**9,809.0**	**30,785,000**	〃
第2次計畫	自1937年度 至1941年度	5	13,258.0	36,631,800	〃
通計		10.00	23,067.0	67,416,800	〃

2 竣功路線

建設處名	1932.33年度竣功	1934年度竣功	1935.36年度竣功	計	摘要
奉天	1,663.1	753.1	1,253.2	**3,669.4**	
新京	580.0	218.0	637.6	**1,435.6**	
哈爾濱	321.4	1,227.8	221.4	**1,770.6**	未著手延長30粁
齊々哈爾	1,144.1	763.3	662.7	**2,570.1**	未著手延長233.2粁
計	**3,708.6**	**2,962.2**	**2,774.9**	**9,445.7**	未著手延長計263.3粁

イ 奉天建設處管內

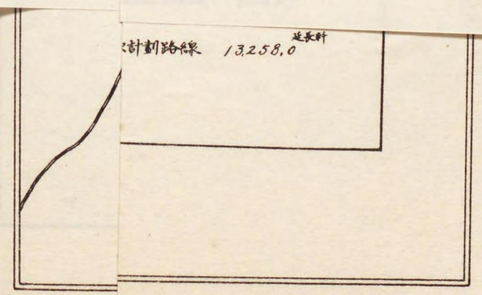
竣功路線 (新設築造工事)

施行年度	路線名	粁程	著手年月日	竣功年月日	摘要
1932.33年度	山城鎭—通化	143.4	32.11.3	33. 6.30	柳河通過
〃	南雜木—通化	173.4	32.11.3	33. 6.30	新賓通過
〃	寬甸—長甸河口	50.0	33. 6.1	33. 6.30	舊道補修
〃	安東—寬甸	100.0	33.10.17	35. 6.30	
〃	鳳城—大孤山	83.0	33.11.15	34. 6.30	
〃	安東—城子疃	207.9	32. 7.	33.11.30	大孤山、莊河通過
〃	鐵嶺—康平	82.0	33. 4.28	34. 5.30	法庫通過
〃	奉天—撫順	43.0	33 4.19	34.10.20	
〃	本溪湖—城廠一部	20.3	33. 8.21	34. 5.30	
〃	橋頭—大安平	24.6	33. 6. 3	33.10.27	
〃	遼陽—遼中	59.0	32.10.—	33. 6.14	
〃	遼陽—湯崗子	49.0	32.10.—	33.12.14	鞍山通過
〃	北票—承德	331.9	33. 3.20	34.12.15	朝陽、凌源、平泉通過
〃	承德—古北口	94.7	32. 5. 1	33. 5.30	
〃	朝陽—赤峰	168.5	33. 8. 9	33. 6.30	
〃	前所—義院口	32.4	33. 4.15	33. 7.30	
〃	小計	**1,663.1**	—	—	
1934年度	通化—輯安	105.0	34. 9.25	35. 6.30	
〃	大石橋—大孤山	172.6	34. 9. 5	35. 6.30	岫巖通過
〃	營口—蓋平	35.0	35.11.11	35. 5. 8	
〃	承德—豐寧	42.0	34. 9.28	35. 6.30	
〃	承德—赤峰	266.6	34. 9. 1	35. 6.30	圍場通過
〃	圍場—多倫	131.9	34.11.10	35. 6.30	
〃	小計	**753.1**	—	—	
1935.36年度	豐寧—多倫	242.0	36. 6.30	33. 9.30	
〃	本溪湖—城廠	80.0	36. 6. 5	36.10.25	小市通過
〃	寬甸—通化	208.0	35.11.26	36.12.31	
〃	海城—岫巖	88.3	36. 3.20	36.12.25	
〃	臨江—撫松	84.0	36.10. 5	36.12.15	
〃	朝陽鎭—五道溝	75.0	36.10. 1	36.12.23	
〃	奉天—法庫の一部	2.7	36. 7.24	36. 8.31	
〃	撫順—興京	60.0	36.10.14	36.12.31	
〃	通化—臨江の一部	10.9	36.10. 7	26.12.31	
〃	撫順—清河城の一部	1.1	36.11. 5	36.12. 4	
〃	朝陽鎭—撫松	137.7	35. 9.11	36.12.31	
〃	本溪湖—城廠	85.0	35.11.14	36.12.31	清河城通過
〃	綏中—凌源	178.5	35.11.14	37. 8.10	
	小計	**1,253.2**	—	—	

ロ　新京建設處管內

竣功路線（新線築造工事）

施行年度	路線名	粁程	著手年月日	竣功年月日	摘要
1932.33年度	新京—吉林	108.8	33. 7.22	34.11.30	
〃	新京—伊通	67.7	33. 7.23	34. 8.15	
〃	公主嶺—八家子	45.3	33. 7.12	34. 6.25	
〃	公主嶺—伊通	50,8	33. 7.18	34. 6.30	
〃	敦化—海林	145.4	33. 7.20	33. 6.30	
〃	琿春—土門子	100.0	33. 8.12	33. 6.30	
〃	琿春—東寧の一部	62.0	32. 8.28	33. 6.30	土門子、白刀子山間
	小計	580.0			
1934年度	通遼—開魯	92.0	34, 9. 2	35. 5.20	
〃	開原—通江口	37.0	34.10.16	35. 6.29	
〃	新京環狀線	48.7	34.10.15	35. 6.30	
〃	小白山道路	5.3	34. 9.28	34.10.23	補修工事
〃	琿春—大荒溝	35.0	34. 9.22	35. 5.16	
〃	小計	218.0			
1935.36年度	新京、吉林線馬頭鏧支線	3.6	35. 8.31	35. 9.18	
〃	伊通—磐石	82,0	35. 8. 1	36.10.30	
〃	延吉—圖們	46.0	35. 9. 2	36.12.31	
〃	五常—榆樹	52.0	35.10.13	36.11.15	
〃	磐石—樺甸	67.0	35. 7.25	36.12.31	
〃	新京—公主嶺	69.0	35. 8. 1	37. 9.30	
〃	大荒溝—白刀山子	70.0	35. 8.26	36.12.31	
〃	圖們—琿春	61.0	35. 9, 1	36.12.31	
〃	密江—土門子の一部	91.0	35. 9.24	37.12.31	延長121粁未著手30粁
〃	新京—煙筒山	96.0	36. 5. 3	37.12.27	
〃	小計	637.6			

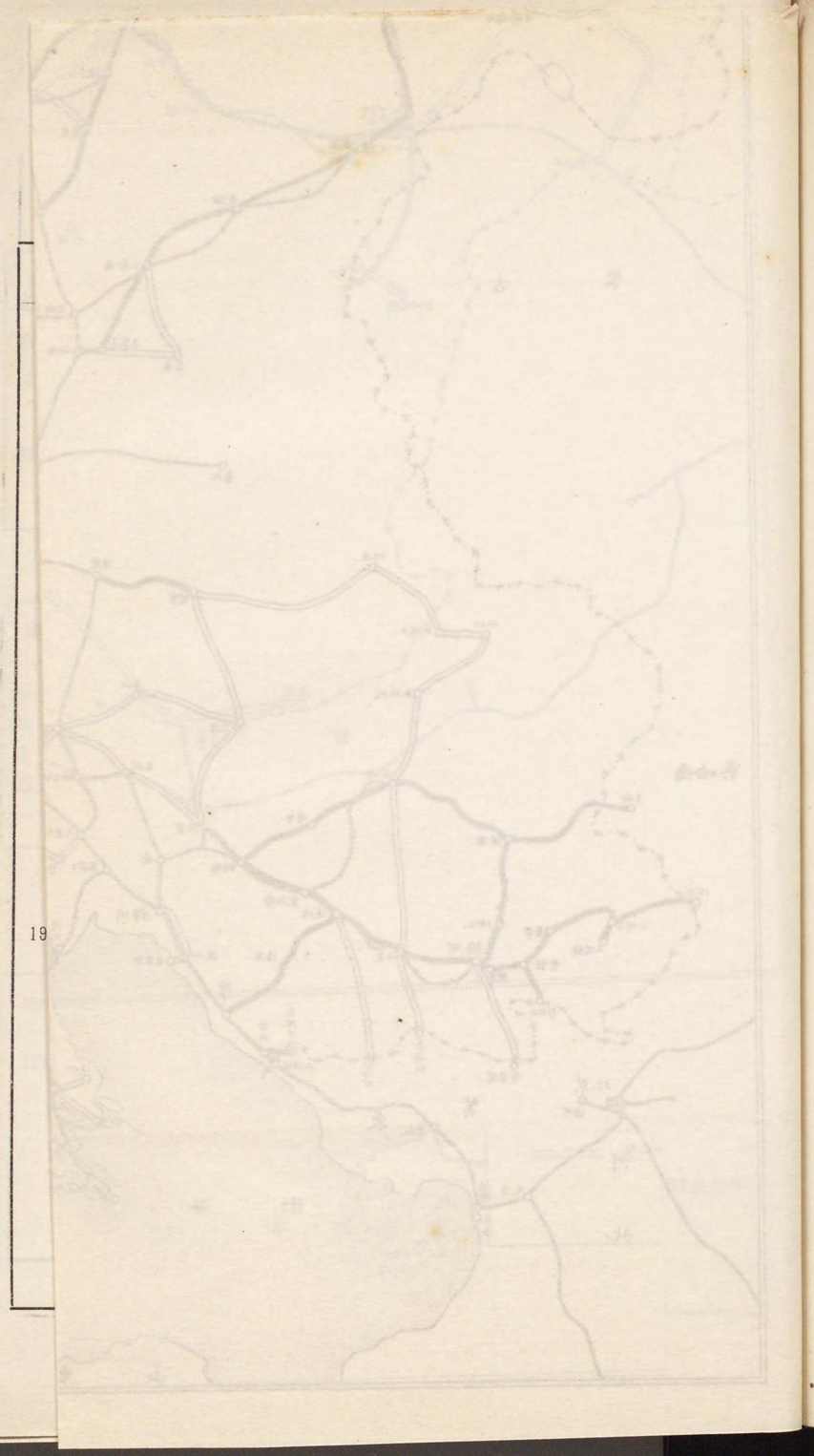


滿洲國國道建設圖

昭和十二年十二月

滿鐵產業部交通課自動車係作製

著手 年月日	竣功 年月日	摘　　要
3. 7.22	34.11.30	
3. 7.23	34. 8.15	
3. 7.12	34. 6.25	
3. 7.18	34. 6.30	
3. 7.20	33. 6.30	
3. 8.12	33. 6.30	
2. 8.28	33. 6.30	土門子、白刃子山間
4, 9. 2	35. 5.20	
3.10.16	35. 6.29	
3.10.15	35. 6.30	
. 9.28	34.10.23	補修工事
. 9.22	35. 5.16	
. 8.31	35. 9.18	
. 8. 1	36.10.30	
9. 2	36.12.31	
10.13	36.11.15	
7.25	36.12.31	
8. 1	37. 9.30	
8.26	36.12.31	
9, 1	36.12.31	
9.24	37.12.31	延長121粁未著手30粁
5. 3	37.12.27	



ハ　哈爾濱建設處管內

竣功路線（新線築造工事）

施行年度	路線名	粁程	着手年月日	竣功年月日	摘要
1932.33年度	哈爾濱—賓	90.0	33.10.20	34.12.10	
〃	海林—東京城	67.6	33. 8. 4	34. 3.24	
〃	海林—綏芬河	162.8	33. 6. 5	34. 7.30	穆稜站通過
〃	小計	**321.4**			
1934年度	土門子—東寧の一部	107.6	34. 8.15	35. 5.31	
〃	綏芬河—東寧	54.6	34. 7. 1	34.10.31	
〃	穆稜站—東寧	120.0	34. 8.15	34.10.31	
〃	東寧—寧安	240.0	34. 8.15	35. 7.31	
〃	穆稜—密山	215.6	34. 8.26	35. 8.31	
〃	密山—勃利の一部	130.0	34. 8.15	35. 8.31	
〃	佳木斯、依蘭、勃利	250.0	34. 4.12	35. 8.31	
〃	富錦—賓清	110.0	34. 9.12	35. 6.30	
〃	小計	**1,227.8**			
1935.36年度	通溝—佛爺溝	24.4	36. 5.20	36. 9.20	
〃	小綏芬河—八道河子	30,0	35. 9.15	36.12.25	
〃	莫和山—楊木林子	35.0	35. 8.31	36.12.10	
〃	平陽鎭—二十一號	57.0	35. 8.31	36.10.30	
〃	哈爾濱—賓縣	23.0	36. 9.10	36.12.31	
〃	寧北—寧安	40.0	35.11. 1	37. 4.30	
〃	三道崗—通溝嶺	12.0	36. 5.15	37.10.20	
〃	小計	**221.4**			

ニ　齊々哈爾建設處管內

竣功路線（新線築造工事）

施行年度	路線名	粁程	著手年月日	竣功年月日	摘要
1932.33年度	洮南—王爺廟	111.0	33. 6.16	34. 6.30	
〃	王爺廟—索倫	112.0	33. 9.13	33. 6.30	
〃	索倫—將軍廟	152.7	32. 5.29	33. 7.29	
〃	海拉爾—將軍廟	270.9	33. 9.13	34. 6.30	
〃	泰來—碾子山	161.3	32. 5. 2	32.12.30	
〃	訥河—黑河	336.2	33. 6.29	34.11. 2	
〃	小計	**1,144.1**			
1934年度	昻々溪—巴林	241.2	34. 6. 1	35. 8.15	
〃	克山—拜泉	62.0	34. 9.19	34.12. 3	
〃	二站—奇克特	160.1	34. 9. 5	35. 6.17	
〃	嫩江—黑河（西廻線）	300.0	34. 9. 5	35. 6.30	
〃	小計	**763.0**			
1935.36年度	諾敏—庫克多博	50.0	35. 6,25	36. 6.30	總延長283.3粁の間上軍力より50粁未著手233.3粁
〃	海拉爾—上庫力	141.7	35. 3. 3	35. 8.31	
〃	北安鎭—瑷琿一部	120.0	35. 9.18	36.10.31	
〃	巴林—海拉爾	281.0	35. 6.25	37. 5.25	
〃	辰清—西紅毛溪	70.0	35. 7.15	36. 9.30	
〃	小計	**662.7**			

（三）第2次國道建設計畫

大同2年6月第1回國道會議に於て國道建設第1次計畫を決定し爾來康德3年度迄に9,445.7粁の國道建設を終了せんとするに當り滿洲國の現狀に鑑み更に康德4年度以降5箇年間に實施すべき第2次國道建設計畫を樹立せんとするものである。

本計畫は康德4年度以降5箇年間に總經費62,000,000圓を以て國防路線3,501粁治安維持產業開發路線9,757粁合計13,258粁の國道を建設し之に伴ひ37箇所に永久構造の特殊橋梁を架設し併せて既設國道の徹底的改良及び完全なる維持修繕をなし交通の圓滑を期せんとするものである。

1 建設費概算

	円
國防路線建設費	17,052,500
治安產業路線建設費	19,579,300
特殊橋梁架設費	9,777,600
既設國防路線改良費	4,200,200
既設治安產業路線改良費	5,104,800
國道維持費	6,285,600
合計	**62,000,000**

（本經費中には事務費を含まず但し雇員薪水、警備費、機械費、調查費等諸雜費は之を含む）

2 道路網計畫要領

本計畫に於ける建設路線選定方針次の如し

（イ）國防上必要なる路線に付きては關東軍の要望により之を決定せり

（ロ）治安維持上必要なる路線に付きては關東軍及滿洲國警務當局と協議して選定せり

（ハ）產業開發上必要なる路線に付きては滿洲國政府各部局及現地の省縣當局と協議し各種の資料を參照して選定せり

（ニ）交通機關の全般的協調を期するため鐵道自動車運輸及び水運の關係を顧慮して路線を選定せり

（ホ）特殊橋梁は國防上要求ありたるもの治安維持產業開發上必要と認めたるもの及び日滿兩國間國境河川上に架設を協定したるものを採用せり

3 第2次建設計畫實施方針

第2次建設計畫の實施方針次の如し

○建設路線は國防、治安、產業路線たるを問はず四季を通じ自動車の交通に支障なからしむるを主眼とす

路線の設定に付きては愼重に之を研究して完成後の排水を良好ならしめ常に路面の堅固なるを期す

構築に際しては重點主義を採り峠の開鑿、橋梁の架設、渡河設備濕地部の征服等に意を注ぐこと

馬車道は當分の間簡易なる臨時的施設を行ふに止め橋梁、河渉路、峠部に於ては自動車道と併用せしむること

馬車道に關する交通取締に付きては警務當局と協力して其の徹底を期すること

○各路線共總て有效幅員は6米（總幅7米）以上とす特に國防路線にありては路間砂利敷橋梁及其の他の構造物も總て有效幅員6米以上として自動車の往復通過に支障なからしむ但し治安維持産業開發路線に於ては路面砂利敷幅を3米迄橋梁及其他の構造物の有效幅員は 4・5 米迄縮少することを得

永久構造の特殊橋梁の有效幅員は特別の場合を除き總て6米以上とす其の他一般の構築要領は別に定むる國道構造規準による

○路線の建設方針は總て漸進的構築法を採り初年度に於ては土工暗渠砂利敷の一部等を施工し一應車輛の通過を可能ならしめ路盤の落付を待ち次年度以降に於て全般的砂利敷其他の仕上を行ふ

國防路線にありては指定したる年次に一應車輛の通過に支障なからしむ

○排水溝及橋梁等構造物は特殊なる場合の外出來得る限り木造として經費の節約を圖り又一面其の經過を經驗したる上次期計畫に於て漸次永久構造物となすこと但し洪水流氷等の害に備ふる爲技術上必要あるものは此の限りに非ず

軍用國道に於て側溝は排水上必要なる箇所以外は之を設置せず設置する必要ある場合は切取り勾配を2割より緩となし自動車其他軍用車輛の乘り越しに支障なからしむること

○國道の改良維持修繕に付きては其の方法及び執行の組織に付き充分研究の上現地機關竝に自治團體と協力して行ふこと

特に國防路線の改良維持にありては出先軍憲と密接なる連絡を保つこと

○地方民賦役使用に關しては出先軍憲及び地方當局と密接なる連絡を保ち其の協力を得て可成多く賦役を課し以て經費の節約を圖ること

4 第2次國道建設計畫內譯表（康德3年9月）

名稱	延長	經費	摘要
	粁	圓	
國防路線	3,501	17,052,500	直轄工事
治產路線	9,757	19,579,300	地方工事
計	**13,258**	**36,631,800**	

5 第2次國道建設計畫路線

イ 國防路線

路線名	粁程	路線名	粁程
黑河地區路線	422	當壁鎭—龍王廟	110
北安—辰清	109	赤峰—林西	215
寶清—密山	106	十站—漠河	460
密山—虎林	157	二站—三道卡	210
密山—當壁鎭	30	秣頭—烏雲	125
鷄西—黃泥河子	7	佳木斯—烏雲	330
濱綏鐵路取付道路	40	寶清—饒河	170
東寧地區道路	287	十三站—呼瑪	90
密江土門子の一部	45	寶清—勃利	135
黑榮營—土門子	45	密山—勃利	118
琿春—慶興	45	計	**3,501**
寶清—虎林	135		
楊木崗—龍王廟	110		

口 治產路線

路線名	粁程	路線名	粁程
上庫力—奈勒穆圖	38	方正—依蘭	90
齊々哈爾—景星	80	延吉—會寧	73
陶賴昭—榆樹	57	吉林—樺甸	116
珠河—五常	109	新京—八家子	42
哈爾濱—阿城	35	伊通—西安	52
哈爾濱—平房	16	西安—開原	85
依蘭—佳木斯	95	撫松—臨江	84
蘿山站—梨樹鎭	21	城廠—桓仁	65
安圖—明月溝	114	奉天—遼中	76
樺甸—敦化	176	彰武—新民	58
九臺—新京	51	彰武—庫倫	83
通化—臨江	114	熱河—黃崖關	114
桓仁—永陵	80	林西—林東	139
草河口—城廠	80	海拉爾—滿洲里	420
撫順—望城崗子	63	拜泉—海倫	83
奉天—遼陽	66	扶餘—陶賴昭	128
臺安—大虎山	40	肇源—滿溝	100
奉天—法庫	88	青岡—蘭西	50
平泉—喜峰口	87	鳳山—鐵驪	80
齊々哈爾—富裕	68	佳木斯—富錦	177
洮南—突泉	78	明月溝—大荒溝	88
哈爾濱—雙城	60	茂山—龍井村	100
哈爾濱—蘭西	85	德惠—九臺	45
蘭西—滿溝	33	德惠—農安	68
綏化—鐵驪	100	八家子—遼源	143
方正—鳳山	65	朝陽鎭—五道溝口	75
方正—珠河	114	永甸城—永甸河口	15

湯崗子—海城	23	城子疃—復州	82
本溪—橋頭	19	復州—五湖嘴	55
奉天—新氏	60	蓋平—莊河	125
法庫—通江口	28	營口—海城	65
彰武—法庫	85	鐵嶺—撫順	55
錦州—壺盧島	65	奉天—開原	100
林東—開魯	215	庫倫—下窪	110
訥河—布西	28	下窪—開魯	150
布西—扎蘭屯	150	彰武—阜新	94
拜泉—明水	55	阜新—北票	96
依安—富裕	65	下窪—北票	120
阿城—榆樹	100	朝陽—錦州	96
明水—青岡	60	凌源—冷口	154
呼蘭—木蘭	133	平泉—赤峰	170
木蘭—通河	55	北安鎭—德都	45
寶清—方正	130	拜泉—依安	65
佳木斯—寶清	123	突泉—王爺廟	95
安圖—茂山	110	青岡—安達站	80
撫松—安圖	88	青岡—綏化	90
敦化—大甸子	92	拉法—官地	110
吉林—榆樹	125	樺甸—大蒲柴河口	135
白旗屯—四家房	40	伏龍泉—八家子	65
農安—伏龍泉	50	磐石—朝陽鎭	37
長嶺—茂林	70	西豐—海龍	105
雙山—四平街	82	十五道溝—新乞坡鎭	15
伊通—岔路河	60	桓仁—楚山	65
開原—山城鎭	130	岫巖—白旗	45
撫松—長白	150	遼陽—大安平	29
賽馬集—寬甸	45	鐵嶺—南雜木	73
草河口—岫巖	100	遼中—臺安	35
		計	9,757

第二十八節　自　　動　　車

(一)　自動車交通路線

滿洲に於ける自動車交通（一定路線を運行する）は昭和12年10月現在運行する路線延長約12,000粁に達し之が經營主體は國營及民營の２種に大別することが出來る。

而して國營路線は全部滿鐵の委任經營に係り、民營路線は市內交通を含み大小自動車交通公司 33. の經營に係る。

1. 路　線　總　括

經營主體	延長粁程			
	現營	運休	停止	計
國營	4,944	1,375	1,792	8,111
民營	6,794	—	—	—
計	11,738	1,375	1,792	14,905

註　1. 國營は1937年８月現在
　　2. 民營は1937年10月現在
　　3. 本表には關東州（761粁）を含ます
　　4. 運休とは解氷降雨等に依る道路劣惡のため營業休止せるもの
　　5. 停止とは新に鐵道の建設に伴ひ營業を停止せるもの

2. 國營路線

(イ)　現營路線

路線	區間	粁程	記事
安城線	安東——城子疃	214	
	鳳凰城——大孤山	88	
	大石橋——大孤山	175	
通化線	山城鎭——柳河	34	
	通化——輯安	105	
	輯安——羊魚頭	12	

2年10月現在運行す

2種に大別すること

は市内交通を含み大

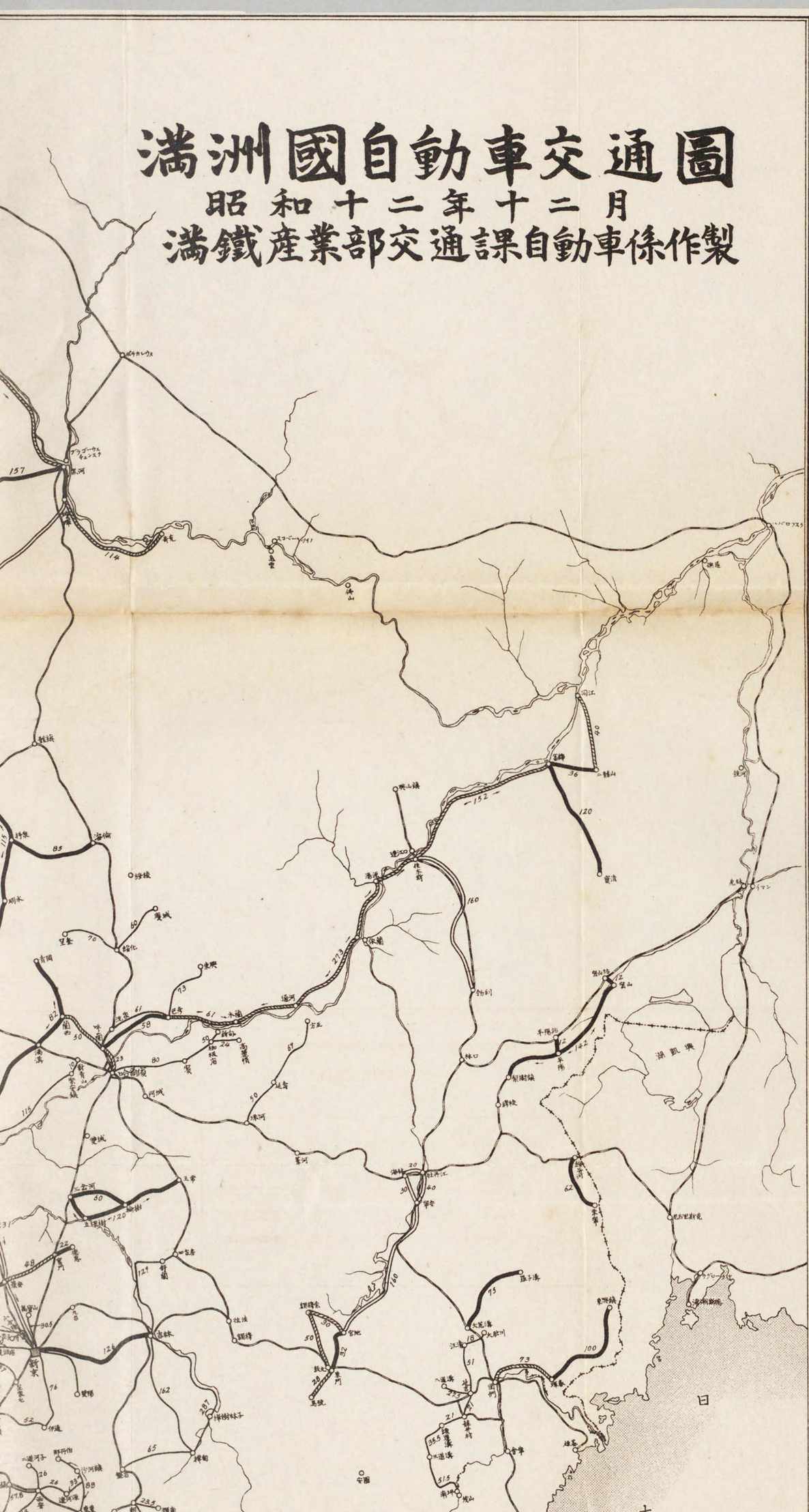
程	
止	計
1,792	8,111
—	—
1,792	14,905

事

滿洲國自動車交通圖

昭和十二年十二月

滿鐵產業部交通課自動車係作製



外蒙古
古蒙
内
渤
海
黄
渤
河北省

凡例
國營路線（營業中ノモノ）—— 4,944 粁
仝（休止セルモノ）—— 1,375 〃
仝（停止セルモノ）—— 1,792 〃
民營路線（營業中ノモノ）—— 6,794 〃（市内バス 341.98 粁ヲ含ム）
計 —— 14,905 粁
縮尺四百萬分ノ一
50km 0 50 100 150km
日本海
朝鮮
海
興凱湖

奉撫線	奉天——撫順	56
奉鄭線	牛家屯——法庫	44
	法庫——康平	30
海牛線	海城——牛莊	25
民彰線	新民——彰武	62
熱河線	朝陽——建平	92
熱河線	凌源——凌南	72
	凌南——綏中縣	100
	赤峰——林西	210
	承德——赤峰	265
	承德——古北口	102
	營房——豐寧	47
	赤峰——平泉	190
	平泉——喜峰口	97
	圍場——多倫	120
	西橋——乃林	32
熊岳城線	熊岳城——溫泉	6
京吉線	新京——吉林	126
農安線	伏龍泉——農安	54
	窯門——大房身	22
三岔河線	五常——三岔河	120
	五棵樹——三岔河	60
	榆弓棚子	
敦海線	敦化——官地	32
東滿線	琿春——東興鎮	100
	綏芬河——東寧	62
	大荒溝——羅子溝	75
密山線	密山——梨樹鎮	142
	密山站——密山	12
	平陽站——平陽	12
哈同線	呼蘭——巴彥	58

哈同線	富錦——二龍山	36	
	富錦——寶清	120	
滿溝線	滿溝——肇源	70	
	滿溝——青岡	82	
拜泉線	安達站——明水	110	
	拜泉——海倫	85	
	明水——克山	115	
京洮線	龍泉鎭——安廣	30	
	洮南——突泉	105	
	洮南——瓦房鎭	75	
興安線	溫泉——海拉爾	285	
	海拉爾——奈勒穆圖	180	
齊札線	齊々哈爾——甘南	107	
	昻々溪——齊々哈爾	27	
訥黑線	訥河——二克淺屯	25	
	璦琿——汗達氣	157	
通經線	通遼——開魯	94	
	開魯——林東	180	
不明	沙崗——海岸まで	8	
總計		4,944粁	

(ロ) 解氷等に依る運休路線

路線	區間	粁程	記事
奉鄭線	奉天——衣索牛	45	
郭海線	官地——額穆	30	
	敦化——額穆	50	
	東門——馬號	28	
京洮線	安廣——洮南	80	
哈同線	木蘭——佳木斯	273	

哈同線	哈爾濱——呼蘭	23	
	巴彥——木蘭	61	
	佳木斯——富錦	152	
	二龍山——同江	40	
拜泉線	蘭西——呼蘭	50	
滿溝線	肇源——扶餘	78	
訥黑線	黑河——金山鎭	225	
	璦琿——奇克	114	
	二克淺屯——布西	5	
農安線	農安——窯門	48	
東滿線	圖們——琿春	73	
合計		1,375粁	

(ハ) 運行停止路線

路線	區間	粁程	記事
敦海線	官地——寧安	160	
	寧安——海林	30	
	海林——牡丹江	20	
	寧安——牡丹江	40	
熱河線	北票——朝陽	40	
	朝陽——承德	280	
	赤峰——建平	98	
	朝陽——朝陽站	4	
京洮線	新京——大賚	231	
	大賚——龍泉鎭	47	
	(前郭旗)後瓦房——扶餘	8	
訥黑線	嫩江——璦琿	206	
	訥河——嫩江	91	
通化線	柳河——通化	111	